

# 学 位 論 文

題 目 中国の少数民族教育における言語使用と言語意識  
—内地新疆クラスを対象として—

指導教員 西山 教行 教授

令和 4年 1月 7日

京都大学大学院 人間・環境学研究科

修士課程 共生人間学 専攻

氏 名 ZHAO YILI

## 論文内容の要旨

共生人間学 専攻 氏名 ZHAO YILIN

多民族・多言語国家である中国では、少数民族や少数民族地域の生徒を対象とする少数民族教育が行われており、少数民族生徒は自分の意志で教育言語を選択できる。一方で、近年、普通話教育は少数民族の権利を奪うものであるとの批判を招いている。

このような問題意識から、本研究は「内地新疆クラス」の事例を取り上げ、文献研究と実地調査を通じて、言語使用と言語意識の観点から中国の少数民族教育に関する政策と理念を考察し、少数民族教育を受ける生徒の言語使用と言語意識およびその形成要因を探求した。

分析を行った結果、以下のことが判明した。

まず、政策面から見れば、中国で行われている普通話教育は国民のコミュニケーションを促進するためだけでなく、国民意識を涵養する手段のひとつともされている。

また、少数民族生徒の民族語能力、言語使用および言語意識は、少数民族教育における言語教育や社会環境と深く繋がっている。

具体的には、第一に、言語能力に関して、すべての生徒が自民族語の口頭表現能力に堪能である一方、書記言語能力は学校の授業言語と関わっている。第二に、言語使用において、少数民族の生徒は必要に応じて普通話や民族語を使い分け、自主的な言語選択の場面では普通話を選択している。家庭内の民族語使用は兄弟より父母の方が多。内地での言語使用を見ると、普通話を主とし、内地での滞在機関が長くなるに応じて、普通話使用が増加する傾向にある。第三に、言語意識は社会環境に影響され、民考民と民考漢共に普通話に関わる言語意識が高い。一方、民族語に対する言語意識は言語教育歴に影響され、民考民の方が民考漢より高い。また、民族語に比べて、普通話や外国語の学習意欲はより強い。

# 目次

## 謝辞

序.....	1
--------	---

第一章 研究背景.....	2
---------------	---

1.1 研究背景.....	2
---------------	---

1.1.1 多民族・多言語国家.....	2
----------------------	---

1.1.2 中国の少数民族教育.....	7
----------------------	---

1.2 問題意識.....	9
---------------	---

1.3 研究対象.....	10
---------------	----

1.4 研究目的.....	11
---------------	----

1.5 研究方法.....	11
---------------	----

1.6 用語の定義.....	12
----------------	----

1.6.1 言語意識.....	12
-----------------	----

1.6.2 内地.....	13
---------------	----

第二章 先行研究.....	14
---------------	----

2.1 中国の少数民族言語政策研究.....	14
------------------------	----

2.2 中国の少数民族教育における言語教育.....	14
----------------------------	----

2.3 内地新疆クラスに関する先行研究.....	16
--------------------------	----

2.4 先行研究のまとめ.....	18
-------------------	----

第三章 中国における言語政策と少数民族教育政策.....	19
------------------------------	----

3.1 中国における言語政策と言語環境.....	19
--------------------------	----

3.1.1 普通話政策.....	19
------------------	----

3.1.2 少数民族言語に関する政策.....	21
-------------------------	----

3.1.3 中国における言語使用状況.....	22
-------------------------	----

3.2 中国の少数民族教育における言語教育.....	23
----------------------------	----

3.2.1 少数民族教育政策.....	23
---------------------	----

3.2.2 少数民族教育における双語教育政策.....	25
-----------------------------	----

第四章 「内地新疆クラス」 .....	27
4.1 新疆における少数民族教育.....	27
4.1.1 新疆の概況.....	27
4.1.2 新疆における教育の現状.....	34
4.2 内地新疆クラス.....	36
4.2.1 内地高校クラス.....	36
4.2.2 内地新疆クラス.....	36
第五章 「内地新疆クラス」における教育実態—現地調査.....	39
5.1 調査概要.....	39
5.2 非参与観察.....	40
5.3 質問紙調査.....	42
5.3.1 調査概要.....	42
5.3.2 言語能力.....	45
5.3.3 言語使用.....	51
5.3.4 言語意識.....	58
5.4 半構造化インタビュー調査.....	71
5.5 卒業生が語るライフストーリー.....	74
5.5.1 ライフストーリー・インタビュー.....	74
5.5.2 調査概要.....	75
5.5.3 調査結果.....	76
5.5.4 考察.....	85
第六章 結論.....	91
第七章 本研究の限界と今後の課題.....	93
参考文献.....	94
参考資料.....	97
付録 1. 質問紙（中国語） .....	100
付録 2. 質問紙（日本語） .....	106
付録 3. 言語能力評価表（中国語） .....	115

## 謝辞

本研究の完成に至るまで、多くの方々からご指導、ご協力をいただきました。

まず、指導教官である西山教行先生に厚く感謝申し上げます。西山先生には、研究生時代からご丁寧かつ熱心にご指導いただきました。毎週の読書会や研究会で、言語教育学を多角的な視点から捉える、貴重な勉強の機会を与えていただきました。本研究においても、研究計画の起草から論文の完成に至るまで、非常に多大なご指導をいただきました。

また、外国語教育論講座の他の先生方にも、心からお礼を申し上げます。授業に出席し、外国語教育に関する研究手法や幅広い知識を得ることができました。

外国語教育論講座のキムダソムさんには、論文提出直前まで大変お世話になりました。また、研究を進めるにあたり、赤桐敦さん、藤井碧さん、黄海洪さんからも研究に関する貴重なご助言をいただき、外国語教育論講座と研究室の先輩、院生の皆様にも励まされました。

本研究に関わってくださった皆様に、心から感謝申し上げます。

## 序

本研究は、中国の少数民族に対する言語政策および教育政策とそれらの理念を分析し、その具体的な事例として「内地新疆クラス」を取り上げ、言語使用と言語意識の観点から、教育現場における実施状況やその結果を考察するものである。

多民族・多言語国家である中国では、少数民族や少数民族地域の生徒を対象とする少数民族教育政策が実施されている。この政策にしたがって、少数民族の生徒は、自分の意志で授業言語を選択することができる。その一方、長い間、少数民族に対する普通話教育は多くの批判を浴びている。

このような問題意識から、本研究は「内地新疆クラス」の事例を取り上げ、文献研究と実地調査を通じて、少数民族教育を受ける生徒の言語使用と言語意識およびその形成要因を探求した。

本研究は、全七章から構成されている。

第一章では、本研究における研究背景、問題意識、研究対象、研究目的及び研究方法について述べる。

第二章では、これまで行われてきた中国の言語政策に関する研究、少数民族の言語教育、言語使用と言語意識に関する研究、および内地新疆クラスを対象とする研究を概観し、本研究の位置づけと意義を明らかにする。

第三章では、「中華人民共和国憲法」「中華人民共和国民族区域自治法」「中華人民共和国通用语言文字法」「中華人民共和国教育法」など一連の法令と条例を概観し、国の公用語に制定された普通話と、民族自治地方の公用語である少数民族語の位置づけについて検討する。そして、多言語社会中国の言語使用状況、特に中国の少数民族教育における言語教育の実施状況について考察する。

第四章では、新疆ウイグル自治区における少数民族教育の概況、特に本調査の対象である「内地新疆クラス」に関する政策と実施現状を概説する。

それを受けて、第五章では、新疆クラスにて実施した実地調査について説明する。本研究ではまず、現地での新疆クラスの生徒を対象に、言語能力、言語使用と言語意識を中心的な内容とする質問紙調査を行う。また、新疆クラスを設置する学校内外での非参与観察、および学校の管理職、教員と卒業生を対象としインタビュー調査を通じて、新疆クラス生徒の言語能力や言語使用状況を検証する。さらに、新疆クラス卒業生が語るライフストーリーを通じて、新疆の生徒の言語使用や言語意識の背後にある理由、特に考慮すべき社会的影響や要因を確認する。

第六章では、調査全体を通じて明らかになったことをまとめて提示する。

最後に、第七章では、本調査の問題点・限界を整理した上で、今後の課題について述べる。

## 第一章 研究背景

本研究において、解決を目指す課題は以下の4点である。

(1)法律や公的文書において、中国の言語使用、少数民族教育、特に少数民族の言語教育はどのように規定されているかを解明すること。

(2)少数民族教育が行われている民族の生徒が使用する言語の使用状況とそれぞれの言語が果たしている役割を明らかにすること。

(3)中国の社会環境と少数民族教育が生徒の言語使用や言語意識に与える影響を解明すること。

(4)中国内地という特定の社会的・文化的環境で生活している少数民族生徒の言語使用や言語意識の変化の方向を明らかにすること。

本章では、まず、本研究の研究背景、研究対象、問題意識、研究目的と研究方法を提示する。

### 1.1 研究背景

#### 1.1.1 多民族・多言語国家

##### 1.1.1.1 中国の民族構成

中国は統一された多民族国家であり、国には56の民族が存在する。各民族は人口の差が非常に大きく、人口が最も多い漢族に対して、他の55の民族の人口は相対的に少ないため、慣用的に「少数民族」と呼ばれている。第7回国勢調査のデータによると、2020年11月1日の時点で、漢族人口は12億8631万人で、総人口の91.11%を占めている。漢族以外の55の少数民族の人口は1億2547万人で、全国総人口の8.89%を占めている<sup>1</sup>。

民族の分布には、「大雑居・小集居・交錯居住」という特徴がある。つまり、1つの民族は1つの地域に集居しているのではなく、各民族が混じりあって居住しているところがかかり多い。このような分布は、各民族間の経済面および文化面での交流を促進するだけでなく、民族間の相互交流を促進し、各民族が密接不可分な相互依存関係となる。なかでも、漢族は最も広く分布しており、ほとんどは東部や中部地域に集中しているが、全体的に見ると各地に広く散らばり他の民族と一緒に住んでいる。それに対し少数民族は、全体の人口も比較的少なく、その多くは西南・西北・東北の周縁地域に集中しており、全国の6割以上の地域に分布しているが、集住地域以外の

---

<sup>1</sup> 中国国家統計局・国務院第七次全国人口普查領導小組弁公室（2021）「第七次全国人口普查公報（第一号）」中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/guoqing/2021-05/13/content\\_5606149.htm](http://www.gov.cn/guoqing/2021-05/13/content_5606149.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

地域での散在はあまり見られない。

## 56の民族の認定

中華人民共和国の建国前における歴代の支配階級は、民族差別と民族抑圧の政策を実施し、漢族以外の少数民族の多くを「漢族支部」と呼び、多くの少数民族は自分の民族帰属を隠蔽または変更していた<sup>2</sup>。当時、少数民族として認識されていたのは、人口の多いモンゴル族、満州族、チベット族、回族の4つのみであり、中国は、漢族とこれら4つの少数民族から構成されたものであるとみなされていた。

以降、中華人民共和国の建国後、民族平等の政策が実施され、少数民族の権利が保護されている。このような政策は、少数民族の民族意識を刺激し、その結果、長い間抑圧されてきた数多くの少数民族が、民族アイデンティティの表明の一環として自らの民族名を提出した。以降、1953年までに、400あまりの民族名がまとめて登録された<sup>3</sup>。また、中国政府は、困難で複雑な民族問題を解決し、民族政策を策定するための科学的根拠を提供するように、全国で民族の識別を行い、1979年時点で56の民族が認定された<sup>4</sup>。以降、中国を56の民族からなる多民族国家として見なす体制が堅持されている。

### 1.1.1.2 中国の民族理論—「中華民族多元一体」理論

長い歴史の中で、中国領域内の漢族や少数民族の人々は何千年にも渡ってこの国土で住んでおり、中国の発展に歴史的な貢献をしている。各民族は独自の民族的特徴を持っているとともに、歴史的・文化的共通点、つまり、「中華民族」という共通のアイデンティティを持っている。

中国の社会学者・人類学者である費孝通（1989）の議論によると、「中華民族」は56の民族の総和ではなく、中国領域内の56の民族による不可分の「民族実体」と考えられている。つまり、費（1989）の議論における「中華民族」は、各民族の相互依存関係を基盤にする、不可分の「総体」である。その理論において、民族アイデンティティは多層的なものとして構成されている。総体的なアイデンティティとしての中華民族を上層に据え、基層にはそれぞれの民族アイデンティティを有する各民族が存在する。例えば、ウイグル族はウイグル族のアイデンティティと中華民族のアイデンティティを同時に有しており、両者は対立するものではない。

---

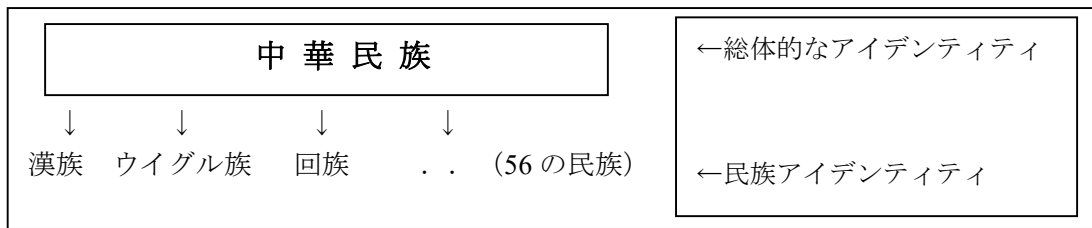
<sup>2</sup> 「中国民族」中国政府サイト：[http://www.gov.cn/test/2005-07/26/content\\_17366\\_2.htm](http://www.gov.cn/test/2005-07/26/content_17366_2.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>3</sup> 同上

<sup>4</sup> 同上



図 1-1 「中華民族」の構造



この理念に基づいて、費(同上)は「中華民族多元一体」の概念を打ち出した。「多元一体」には2つのレベルから成り立つ。1つ目は「一体」である。これは、主権国家および民族国家としての中国における、前提としての政治的統一を指す。2つ目は「多元」である。すなわち、中華民族は多くの異なる部分から構成されており、これらの部分には文化、慣習、言語や宗教などの側面での違いがある(馬, 2008a)。

「中華民族多元一体構造論」は、今日の中国の民族政策の基本路線を規定している。費(1989)によると、中華民族多元一体構造の特徴の1つとして、漢語が次第に各民族の共通言語になっていったことが挙げられる。

少数民族は独自の言語や文化を持っており、独自の慣習に従って生活しているため、共通の祖先、血、または民族によって共通の政治文化を育むことはできない。そのため、中華民族という概念が承認されるために、学校教育を通じ、各生徒が「中華民族」や「国家統一」などの理念を内面化することが期待されている(祖力亜提, 2016)。

### 1.1.1.3 中国における言語と文字

中国は多民族、多言語、多方言、多文字の国である。『中国の言語』<sup>5</sup>と『中国語言地図集』<sup>6</sup>によると、中国には130種以上の言語と約30種の文字があり、標準漢語(普通話)以外、数多くの少数民族語(minority language)<sup>7</sup>や地域方言(regional dialect)<sup>8</sup>が存在している。

<sup>5</sup> 孫宏開ら主編(2007)『中国的語言』, 商務印書館.

<sup>6</sup> 中国社会科学院・香港城市大学編(2012)『中国語言地図集』, 商務印書館.

<sup>7</sup> 少数民族語とは、ある国では、人口の割合が低い民族が使う言語である。例えば、中国のチベット語、ウイグル語、モンゴル語がそれにあたる。

<sup>8</sup> 地域方言とは、同一言語内において、ある地域で話されている言語変種(language variety)であり、地方方言とも呼ばれる(小池, 2003, p.177)。本研究では、「地域方言」に統一する。

一方、2000年に公布された「中華人民共和国国家通用语言文字法」により、漢・チベット語族に属する現代標準漢語、いわゆる「普通話」<sup>9</sup>が国の公用語として規定された。普通話と標準漢字は、中国の共通言語文字である<sup>10</sup>。

以下では、各民族の言語文字と普通話を紹介する。

### (1)漢語

漢族には自民族の言語と文字—「漢語」と「漢字」がある。

現代漢語は標準漢語と漢語方言に分けられ、さらに方言には、7つの方言区と100余りの方言小区がある。その点から見れば、漢語自体もかなり複雑である。漢語の諸方言は、それぞれ中華民族の形成と発展の中で重要な役割を果たしてきており、中華民族文化の重要な構成部分である。

漢語は中国において最も多くの話者を有する言語である。中国では現在、漢族に加えて、回族や満洲族が自らの言語を漢語に乗り換えており、土家族、シエ族など少数民族も基本的には漢語を使用している。また、多くの民族はある程度漢語を転用・併用している。なお、グローバル化の進展とともに、漢語は中国で通用している言語であるだけでなく、世界で通用している言語の一つでもある。

### (2)少数民族の言語と文字

中国の民族の間では、1つ民族が1つの民族語と1つの民族文字を持つという関係は成り立たない。55の少数民族のうち、回族と満州族は既に漢語に乗り換え、漢語文を使っている、その他の53の民族は、いずれも自民族の言語を使用している。1つの民族に1つの民族語という状況が比較的多いが、2つまたはそれ以上の少数民族語を使用している民族もある。

漢族以外、ウイグル、チベット、モンゴル、カザフ、キルギス、朝鮮、イ、タイ、ラフ、ジンプロ、シボ、ロシアなど12の少数民族の言語・文字には長い歴史がある。国内で使用されてきた少数民族の文字は歴史全体から見ると総じて70種類以上ののぼり<sup>11</sup>、2003年の時点で見ると、22の少数民族が28種類の自民族の文字を使っている<sup>12</sup>。

---

<sup>9</sup> 普通話（プトンファ）とは、北京語音を標準音、北方方言を基礎方言とし、典型的な現代白話文著作を文法規範とするものであり、中国の公用語、標準語として定められた言語である。＝標準中国語、漢語標準語。現在日本の大学などで教育されている「中国語」とは、この普通話である。

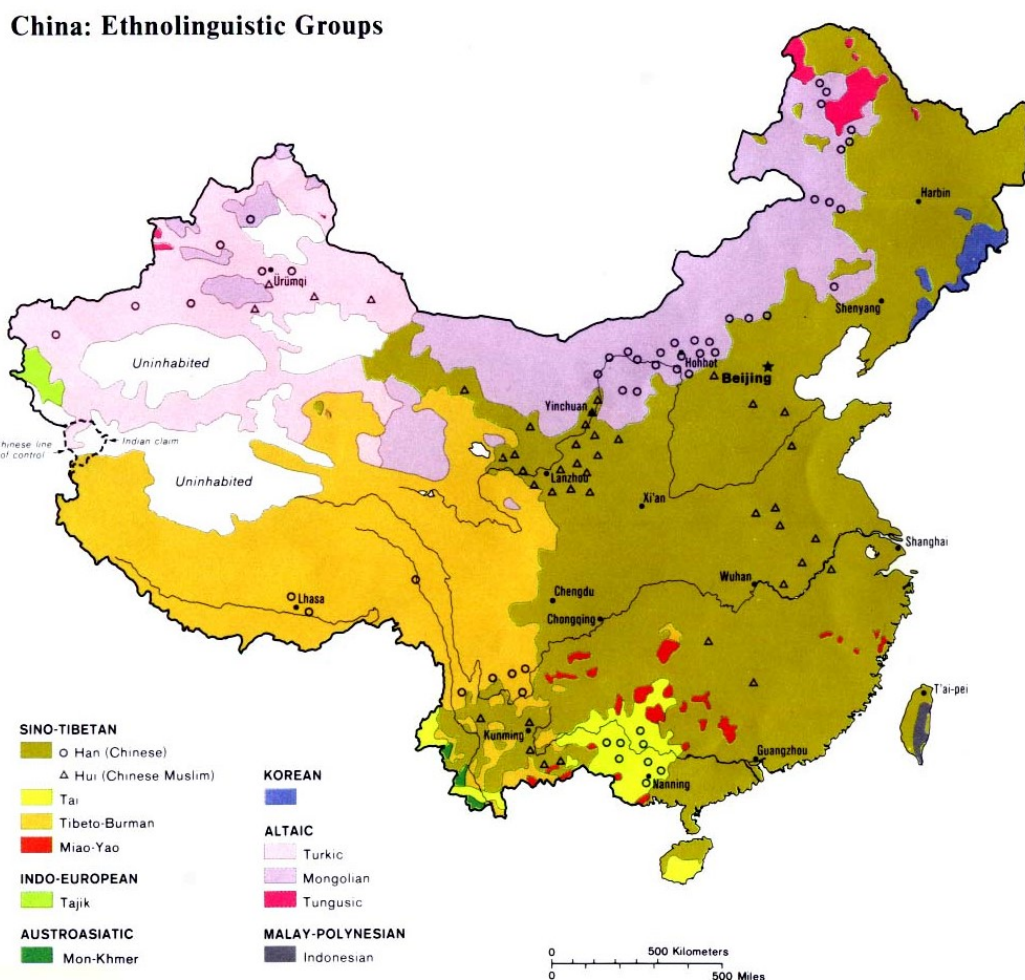
<sup>10</sup> 中国教育部（2021a）「中国語言文字概況（2021年版）」中国教育部サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/jyb\\_sjzl/wenzi/202108/t20210827\\_554992.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/wenzi/202108/t20210827_554992.html)（2022年1月4日）

<sup>11</sup> 「中国語言文字」中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/test/2005-06/16/content\\_6821.htm](http://www.gov.cn/test/2005-06/16/content_6821.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>12</sup> 国務院ニュース弁公室（2005）「中国の民族地域自治」，中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/zwgk/2005-05/27/content\\_1585.htm](http://www.gov.cn/zwgk/2005-05/27/content_1585.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

ただし、図 1-2 が示しているように、全国で通用する漢語と異なり、少数民族語は全国領域で使われることはなく、1つの地域または一部の地域でしか使用されていない。

図 1-2 中国の民族語分布<sup>13</sup>



少数民族の権利を守るために、中国では、司法、行政、教育などの分野でも、また国の政治、社会の活動の中でも、少数民族の言語と文字が広く使用されている。例えば、中国共産党全国代表大会、全国人民代表大会、中国人民政治協商会議などの全国重大政治会議はいずれも中国における「大言語」としてのモンゴル、チベット、ウイグル、カザフ、朝鮮、イ、チワンなど7つの少数民族の言語・文字で書かれた文献の配布と同時通訳のサービスを行っている<sup>14</sup>。

<sup>13</sup> 「China:Ethnolinguistic Group」 出所： the U.S. Central Intelligence Agency, <https://maps.lib.utexas.edu/maps/china.html> (2022年1月4日最終閲覧)

<sup>14</sup> 「中国概況 国土・人口・民族」 中華人民共和国駐大阪総領事館サイト：  
<http://osaka.china-consulate.org/chn/zt/zgk/t536214.htm> (2022年1月4日最終閲覧)

### (3) 普通話

漢語は普通話と同じものではない。最も権威のある漢語方言区画を記載する『中国語言地図集』<sup>15</sup>や『現代漢語』<sup>16</sup>によると、中国の方言は「官話」、「吳語」、「湘語」、「贛語」、「客家語」、「閩語」、「粵語」という7つの種類に分けられる。各種の方言にはまた若干の下位方言があり、さらに、いくつかの土語に分けられる。同じ漢族であっても、地域が異なれば方言も違うため、意思疎通さえできない場合がある。

このような背景をふまえ、国民がうまくコミュニケーションできるように、北京語音を標準とした標準中国語が国の標準語・公用語として決定された。これは、一般的に「普通話（英：Standard Mandarin/Putonghua；日：プトンファ/プートンホワ）」と呼ばれる（以下では「普通話」に統一する）。

普通話とは、北京語音を標準音とし、北方言を基本方言とし、典型的な現代白話文の著作を文法規範とするものである<sup>17</sup>。「中華人民共和国国家通用語言文字法」においては、「普通話と規範漢字」を「国家通用語言文字（全国通用の言語・文字）」と明確に定めており、公用語と標準語<sup>18</sup>としての地位を認めている。そして、「中華人民共和国憲法（1982）」<sup>19</sup>では、「国家が全国範囲で通用する「普通話」を推し広める（国家推广全国通用的普通话）」ことを規定されている。

また、普通話（いわゆる現代標準中国語）は国連の作業言語の1つとして、中国と外国との文化交流の架け橋となっており、外国人が中国語を学ぶ場合の重要な選択肢にもなっている。

#### 1.1.2 中国の少数民族教育

「中華人民共和国憲法（2018改正）」<sup>20</sup>の序章には次のような記述が見られる。「中華人民共和国は、全国各民族の人民が共同で作上げた統一された多民族国家である。（中略）。民族団結を守る闘争の中では、大民族主義、主として大漢族主義に反対し、また、地方民族主義にも反対しなければならない。国家は、全力を尽くして全国各民

<sup>15</sup> 中国社会科学院・香港城市大学編(2012)『中国語言地図集』商務印書館。

<sup>16</sup> 黄伯荣・廖序東主編(2017)『現代漢語』，高等教育出版社。

<sup>17</sup> 「中華人民共和国国家通用語言文字法」中央政府サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/s78/A02/zfs\\_\\_left/s5911/moe\\_619/tnull1\\_3131.html](http://www.moe.gov.cn/s78/A02/zfs__left/s5911/moe_619/tnull1_3131.html)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>18</sup> 標準語とは、「ある国または地域社会で大衆から最も高い評価を得て、社会的権威や強い影響力を誇示している特定言語変種を指す。話しことばや書きことばにおけるモデルとされ、一般的に報道・出版・儀礼的行事といった公的場面や学校教育などで広く普及している。」（小池，2003，『応用言語学事典』研究社，p.177）

<sup>19</sup> 「中華人民共和国憲法（1982）」全国人民代表大会サイト：  
[http://www.npc.gov.cn/wxzl/wxzl/2000-12/06/content\\_4421.htm](http://www.npc.gov.cn/wxzl/wxzl/2000-12/06/content_4421.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>20</sup> 「中華人民共和国憲法（2018）」中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/guoqing/2018-03/22/content\\_5276318.htm](http://www.gov.cn/guoqing/2018-03/22/content_5276318.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

族の共同繁栄を促進させる」。このように、国は民族平等、民族団結を強調し、さらに、各民族の均衡的な発展を求める。

中国の少数民族は主に国境地帯に住み、遠隔地に属している。内地に比べれば、少数民族地域の政治、経済、文化的発展は比較的遅れており、地域開発には、内地からの支援が必要である。他方、国家統合の観点からも、より積極的な対応が不可欠となっている。

このように中華人民共和国が成立以降において、56の民族の政治的（法律的）な面での平等は達成されたが、歴史や地理などの理由により、少数民族の経済、文化などの面における発展は遅れている。

このような「事実上の不平等」をなくし、「民族の平等」や「民族の団結」を実現するために、中央政府は少数民族に向けたさまざまな「優遇政策」を打ち出してきた（小川，1994）。例えば、少数民族の生徒や少数民族地域の生徒に対しては、特定の民族教育が行われている。

民族教育とは、広義には中華民族全体の教育を指し、狭義には漢族を除く中国の55の少数民族のための教育を指す（敖，2013，p. 34）これまでは、民族教育を少数民族教育と同一視する研究者が多いが（e.g. 格日樂，2006;）、本稿は、それを中国人全体に対する教育と考える。中国における民族教育は、すべての民族を対象とする「民族団結教育」と少数民族の人々を主な対象とする「双語教育」とに分けられる。

少数民族教育の定義については、さまざまな説がある。一説によると、少数民族の生徒に対する教育は少数民族教育である（e.g. 顧，1992）。その一方で、少数民族地域での教育であれば、少数民族教育であると主張する学者もいる（e.g. 王，2001）。

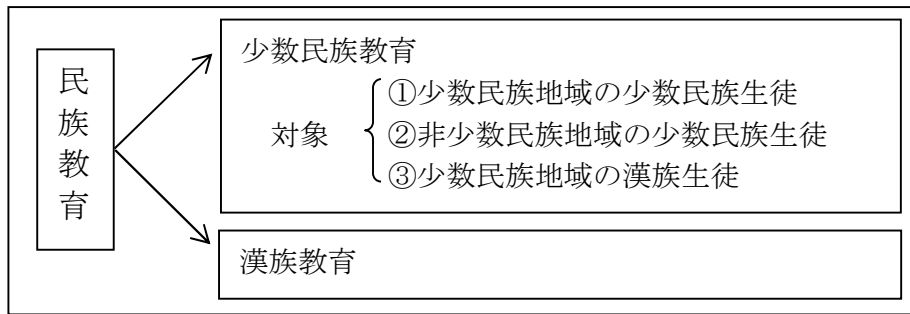
法的な観点からみると、「少数民族教育条例（初稿）」<sup>21</sup>の第2条において、「少数民族教育は、少数民族と民族地域の教育を指しており、漢族以外の各少数民族に実施する各種形式に教育と民族地域の各級各種教育を含む」と定義づけられている。つまり、少数民族教育は民族所属と民族地域という2つの要素を融合している。

中国における少数民族教育の対象に焦点を当て図式化したものが、以下に提示する図1-2である。

---

<sup>21</sup> 教育部(2002)「少数民族教育条例（初稿）」，「中国少数民族教育条例」シンポジウム：  
[https://hudong.moe.gov.cn/jyb\\_sjzl/moe\\_364/moe\\_258/moe\\_69/tnull\\_5228.html](https://hudong.moe.gov.cn/jyb_sjzl/moe_364/moe_258/moe_69/tnull_5228.html)（2021年12月20日最終閲覧）

図 1-2 中国の民族教育



本稿では、中国民族教育学界における一般的な認識<sup>22</sup>にしたがって「少数民族教育」を「少数民族と民族地域に関する教育」と定義し、議論を進める。

## 1.2 問題意識

中国では、普通話が「国家通用言語」として決定され、公的機関の公式用語や学校の教育言語として普及している。この普通話の普及と人口移動の加速により、中国の家庭、学校、社会における言語環境は急速に変化している。特に学校教育と社会メディアにおいては、普通話が主な媒介として使われており、それにより多くの若者に普通話使用が促されている。

しかし、このような普通話教育の強化は、外国からの批判<sup>23</sup>や少数民族側からの一部の抗議を招いた。例えば、2020 年内モンゴル自治区における民族学校の授業言語変更<sup>24</sup>は、一部の少数民族民衆の抗議運動に発展した。各民族の民衆の意識は民族団結に大きく影響し、社会の安定と発展に深く関わる。

一方、多民族国家である中国では、漢族以外の 55 の少数民族の生徒および少数民族地域の漢族生徒に対して少数民族教育が行われており、その中で言語教育は非常に重要な構成要素と見なされている。また、中国の「中華人民共和国憲法」や「中華人民共和国民族区域自治法」などの法律を見ると、そこで政府は少数民族が学校の授業言語を選択する権利を保障すると言明している。

このように複雑な状況の中、ある地域や民族集団向けの言語教育が社会的、経済的、文化的発展など客観的ニーズを満たしているかどうかを判断する際には、実際の大衆の意見が貴重な参考意見となる。また、政府と学校は、社会の大多数の自発的な選択

<sup>22</sup> 陳立鵬（2017）「少数民族教育法研究」中国教育部全国教育科学企画グループ弁公室サイト：  
<http://onsgep.moe.edu.cn/edoas2/website7/level3.jsp?inford=&id=1517206029281511&location=null>（2021 年 12 月 20 日最終閲覧）

<sup>23</sup> 国務院ニュース弁公室（2021）『新疆の人口発展白書』により。中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content\\_5639380.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content_5639380.htm)（2022 年 1 月 4 日最終閲覧）

<sup>24</sup> 2020 年 9 月、内モンゴル自治区政府により、従来モンゴル語で教えていた一部の授業を普通話で教えるように変更するという政策を打ち出した。

を尊重し、社会や生徒のニーズを参考にしながら教育政策を調整しなければならない(馬, 2004, p. 390)。以上をふまえると、少数民族に対する言語教育の成果と限界を明らかにし、その改善を図るためにはまず、実際に少数民族教育を受けている生徒たちの言語使用と言語意識を明らかにすることが必要であるといえる。

こうした問題の解決に寄与すべく、本研究では、言語使用と言語意識という側面に主眼を置き、中国少数民族教育の政策理念について分析し、教育現場における実施状況や教育実践の結果状況を調査した。

### 1.3 研究対象

以上で論じた問題意識に立脚し、本研究では、まず、中国の言語政策と少数民族言語教育に関する法律や公的文書を対象に、文献研究を行い、現在の中国において、どのような言語政策が実施されているか、特に、少数民族語の使用と教育がどのように規定されているのかについて分析を行う。

そして、少数民族教育の受け手としての新疆クラスの生徒を対象に、彼らの言語使用と言語意識を調査する。具体的には、まず、現在少数民族教育を受けている生徒の言語使用と言語意識について、新疆クラスに参加し、生徒らの言語使用においてはどのような変化がみられるかを明らかにし、その原因を解明する。また、生徒の言語使用における変化の様態や言語意識と言語環境や言語教育との間には、どのような関係があるのかについても検討する。

「新疆クラス」は、中国政府及び教育部が1999年に公布した「少数民族地区の人材養成活動を一層強化することに関する意見の通知(关于进一步加强少数民族地区人才培养工作意见的通知)」に従い、2000年に北京、上海、天津を始めとする12の都市の高等学校に設置された。このプロジェクトは、新疆ウイグル自治区の少数民族生徒と一部の漢族生徒を、より教育の発展した内地(地域)で教育することを目指している。つまりこれは、農民・牧畜民家庭の生徒たちを中国内地<sup>25</sup>に「留学」させ、民族学校ではない学校に入らせることで、現地の生徒とともに授業を受けさせるという新しい教育方式である。

新疆クラスの生徒を研究対象とする理由は2つある。

まず、少数民族教育の一環としての言語教育は、少数民族生徒の言語使用と言語意識に影響を与える。新疆ウイグル自治区出身の新疆クラスの生徒たちは少数民族地域で9年以上の学校教育と内地の学校での言語教育を受けており、少数民族教育政策や国の言語政策の最も直接的な受け手である。彼らに対する調査を通じて、現在の少数

---

<sup>25</sup> 「中国内地」とは、中国の境界から離れた地域である。ここでは中国の東部、中部を指している。具体的には、「用語の定義」の節に説明する。

民族教育における言語の使用状況や受け手である生徒の言語意識を明らかにすることができる。

また、現地住民の子どもが集まる新疆の学校に比べて、新疆クラスを開設する内地の高校には新疆出身の子どもだけでなく、現地の生徒たちも通っているため、これらの学校は多言語・多文化環境となっている。生徒たちは教室内だけでなく、学校生活においても、異なる民族の人々や彼らの言語・文化に直接または間接に接する機会を得ている。言い換えると、これは学校が多民族環境になったことによって、民族の言語や文化の違いが明るみに出てきていることを意味する。そのような環境に入った新疆クラスの生徒たちは、内地の言語や文化から刺激を受けて、自分の民族語とアイデンティティを再発見する可能性がある。

#### 1.4 研究目的

本研究の目的は、中国の少数民族教育の現場における言語使用と言語意識の現状を明らかにし、今後の少数民族教育の改善に寄与することである。

このような背景をふまえ、本研究では、新疆クラスの生徒に対する調査を通し、少数民族教育の受け手としての若者の言語使用状況と言語意識を明らかにすることを目指す。

本研究の検証する仮説は以下の通りである。

- (1) 普通話を授業言語とした生徒は普通話の意識が高く、少数民族語の意識が低い。
- (2) 民族語を授業言語とした生徒は普通話の意識が低く、少数民族語の意識が高い。
- (3) 内地での学習、生活経験により、生徒の普通話の使用頻度や意欲が上がる。
- (4) 内地の環境からの刺激により、生徒の民族語の学習意欲が上がる。

#### 1.5 研究方法

本研究ではまず、中国の言語政策と民族教育に関する法律と公的文書の分析を通じて、中国の少数民族教育における言語教育に関する政策や理念を明らかにする。次に、中国の少数民族教育の一事例として新疆クラスを取り上げ、現地調査の結果を量的・質的に分析する。

具体的な研究方法は、以下の通りである。

##### (1) 文献研究

文献研究においてはまず、少数民族教育に関する先行研究をふまえ、言語使用や言語意識に関する理論や実践上の成果を整理し、中国の少数民族教育における言語教育や言語使用・言語意識について論じる。そして、新疆クラスに関する文献を整理し、本研究の位置づけを明らかにする。



## (2)現地調査

現地調査においては、まず新疆クラスの生徒の言語能力、言語使用状況や言語意識を調査し、そして新疆クラスの生徒たちがこれまでどのような言語教育や文化教育を受けてきたのか、この言語教育は彼らの言語使用や言語意識にどのような影響を与えるのか。また、内地で勉強し、生活を送ることによって、彼らの言語使用と言語意識はいかに変化したのかという点に焦点をあて、調査を実施した。

具体的には、まず、「新疆クラス」を設置している北京市の高校で現地調査を行い、異なる学年の新疆クラスの生徒を対象として質問紙調査を行った。また、異なる民族や出身地の卒業生、教員を対象に半構造化インタビューを行った。

質問紙調査では、まず、民族学校あるいは漢族学校に通い、民族語と漢語（普通話）の二言語教育を受けている新疆クラスの中学生30名を対象として予備調査を実施し、実行可能性、質問紙の妥当性などを検討した。その後、予備調査で得られた結果を基に質問紙を改善し、本調査を実施した。そこでは、新疆クラスに在籍している計70名を対象とし、彼らの言語能力、言語使用と言語意識などを調査し、教育歴、言語接触歴、社会的環境などがそれらにどのような影響を与えるのかについて検討した。

インタビュー調査では、まず新疆クラスの授業を担当している教員2名、学校の管理職1名、そして新疆クラスの生徒と一緒に勉強した内地出身の卒業生3名を対象として、半構造化インタビューを行った。

これに加え、新疆クラスに通っていたウイグル族の1人を調査協力者として、ライフストーリー・インタビューを行い、彼女が現在までどのような言語教育を受けてきたか、そして彼女の言語使用と言語意識はいかに変化してきたのかなどについて語ってもらい、その影響の要因について考察を行った。

## 1.6 用語の定義

### 1.6.1 言語意識

言語意識(Language Awareness)には、主に2つの意味がある。1つ目は、言語そのものに対する感受性や気付きという意味で、「言語への気づき」(e. g. 福田, 1997)または「言語への目覚め」(e. g. 大山, 2016)とも訳される。2つ目には、言語、言語使用、または言語行動に対する認識という意味がある。

1つ目の意味に関して、言語への目覚め学会(Association for Language Awareness)は、「言語への目覚めとは、言語に関する明示的知識と、言語学習、言語教授、言語使用における意識的な認識と感受性である」<sup>26</sup>と定義している。つまり、この観点に

---

<sup>26</sup> 言語への目覚め学会サイトにより、[https://lexically.net/ala/la\\_defined.htm](https://lexically.net/ala/la_defined.htm) (2022年1月4日最終閲覧)

立脚する言語意識は、言語に関する明示的知識のみならず、社会における言語の役割や言語学習、言語使用に関する個人の意識的な認識や感受性を意味する。

一方、2つ目の意味に関し、Donmoll(1985, p. 7)は「言語意識とは、言語の性質と人間の生活での言語の役割に対する、個人の感受性と意識的な気づきである」と述べている。また、杉戸(1992)は言語意識を次の5つの領域に区分する。「①言語そのものないし言語行動についての評価・感覚、②言語使用ないし言語行動についての現状認識、③言語使用ないし言語行動についての志向意識、④言語そのものないし言語行動についての信念・期待、⑤言語そのものないし言語行動についての規範である」。

本研究では、言語意識の第2の意味を参考し、言語意識を「言語または言語使用に対する評価や現状認識、および将来の言語行動についての志向と期待」と定義する。

### 1.6.2 内地

中国内地は、一般的に「中国大陸(英: Mainland China)」や「中国本土」などと同等のものを意味する。この場合、中国内地とは、台湾・香港・マカオなどを含まない中華人民共和国の領域に含まれる陸地を指している。

一方、民族的観点から見れば、中国における「内地」という概念は、中国最大の民族集団である漢族と関連づけられる。これまで漢族が多く住む地域を一般的に「内地」と称していた。この場合、中国内地とは、清代以前の中国の領域内において、漢族が多数派となっていた地域を指す。しかし、現在の漢族の分布は、清代の国域と一致しない。清の時代には、新疆、チベット、満洲地域(中国東北部)、内モンゴルは少数民族地域であり、中国の内地・本土に含まれない地域であった。以降、清代末期の漢族の入植に伴い、満洲、内モンゴル、新疆など少数民族地域の一部においては、漢族が多数派となっている民族地域も少なくない。

本論文における「内地」とは、辺境から離れた地域を指す用語である。具体的には、チベット自治区・新疆ウイグル自治区・青海省、満州・内モンゴル自治区などを含まない、歴史的に漢族の居住地域であった中国大陸の東部および中部を指す。

## 第二章 先行研究

### 2.1 中国の少数民族言語政策研究

中国における少数民族教育政策を法律的な観点から論じた研究は、これまでも多くなされてきた。例えば、格日樂（2006）は、中国の民族教育における教育自治権に焦点をあて、民族教育における言語使用と教育内容に関する政策や現状について分析を行っている。その結果、「民族教育法政の欠陥、民族教育の言語文字問題と民族教育の内容に関する自治権の不備が補われなければならない」と指摘している（p. 350）。

また、郭（2009）や肖（2010）は、少数民族の言語権に焦点をあてている。郭（2009）は「中華人民共和国憲法」、「中華人民共和国民族区域自治法」、「中華人民共和国通用語言文字法」および各民族自治区が策定した言語条例に対する分析を通じて、中国における言語政策と実践を法学的視点から考察した。そこでは、中国は言語の平等の方針を追求し、少数民族の言語権を保証するために集団原則と領土原則を貫き、理念的・形式的なものとしての平等に配慮するために「国語」と「公用語」という用語の使用を放棄していると述べている。また肖（2010）は、民族文字と国家通用文字の併用という政策では、現実的意義よりも象徴的意義が大きいと指摘している。

ただし、上記の研究においては、分析対象とする法律文書が少なくとも15年前のものであり、特に「中華人民共和国憲法」と「中華人民共和国教育法」および各自治区の言語条例などの文書はこれまで何度もの改正を経ているため、これらの先行研究は、現代中国の言語政策や社会言語使用状況を完全に反映しているとはいえない。

### 2.2 中国の少数民族教育における言語教育

#### (1) 少数民族言語教育の重要性

中国における少数民族に対する言語教育をめぐる先行研究は、主として、民族アイデンティティまたは言語の多様性を守るとの立場から、少数民族言語教育の重要性を主張している。

その中、まず、少数民族の権利保護のために、民族語を授業言語とすることの賛成派が多い。例えば、岡本（2008）によれば、少数民族の権利を保障するために、民族語の使用や民族文化の継承を目指す民族教育を重要視しなければならない。またハス額爾敦（2005）によると、民族教育の質は少数民族の人々が自民族の言語・文字によって学校教育を受けられるかという問題と大きく関係している。

また、中国少数民族の言語学習と民族アイデンティティについては、これまで多くの研究が報告されてきた。一例として、新井・大谷（2016, p. 60）によれば、言語は民族アイデンティティを形成し強化する役割を果たしていると同時に、民族アイデンティティは、民族語の学習、保持と使用に動機を与える。そこでは、「異なる言語を話

すほかの集団との接触によって高まった民族言語喪失の危機感から民族言語を保護しようという動きの中で、民族集団のアイデンティティ自体がさらに強固なものとなっていく」ことから、新疆における普通話教育は、ウイグル族の民族アイデンティティを強化していると分析している。また、尼瑪頓珠(2014, p.31)によると、内地チベットクラスの生徒は民族語を使用しようとする意志を通して、民族帰属意識の強化を求める。また、烏日嘎(2012)の調査報告によると、民族学校に通うモンゴル族生徒においては、民族語ができることを誇りに思っている者が8割強で、漢語を話せることに誇りを感じる者より多い。そして、言語の選択と使用は、アイデンティティの確認や表出に関わると述べる。一方、祖力亜提(2016)によると、多くの少数民族は、主流社会にスムーズに受け入れられるために、漢語学校に入学して漢文化を学び、そこで漢文化への帰属意識が高くなる。特に、少数民族の大学生は、主流文化(漢文化)に影響されるため、「民考民」<sup>27</sup>より、「民考漢」<sup>28</sup>とのコミュニケーションがよりやさしいと考えている。

これらの研究は、民族語とアイデンティティとの関連を示している。言い換えれば、これらの研究において示唆されているのは、民族アイデンティティを保護するために、民族語教育を重視する必要があるという見方である。

## (2)新疆での少数民族教育における言語教育

このような観点に立って、中国の新疆での少数民族教育における言語教育について検討している先行研究としては、坂元・買蘇提(2006)、費(2007)、祖力亜提(2016)などが代表的である。

まず、坂元・買蘇提(2006)は、新疆における少数民族はウイグル語を公用語として用い、公教育の場に導入する権利を有していると主張している。次に、費(2007)は、子どもが自民族のアイデンティティを失うことを恐れたウイグル族の両親が普通話の学習をやめさせた実例を挙げ、両言語とも上達できるような均衡バイリンガルを育成する重要性を強調した。最後に、祖力亜提(2016)によると、新疆の「民考漢」の少数民族が漢語を学ぶとき、教科書、教師の講義や漢族生徒との接触を通じて、漢語と同時に漢文化をも習得する。その結果として、「民考漢」の少数民族が自民族の文化から徐々に疎外して、理解できなくなってしまう、自民族集団に排除される例もある。

以上のように、先行研究は、民族帰属性や民族アイデンティティを守るために、少数民族が民族語教育を受ける権利と重要性を論じている。ただし、これらの調査はほ

<sup>27</sup> 「民考民」とは、民族語学校に就学し、1つの民族語で受験する少数民族生徒である。

<sup>28</sup> 「民考漢」とは、漢語学校に就学し、漢語で受験する少数民族生徒である。

とんど10年以上前に実施されたものであるため、そこで得られた結果は、現在の社会状況とは合致しないものである可能性がある。そして、調査対象者は主に新疆にいる者であり、内地で生活している者の意識については十分な調査が行われていなかった。

### (3)日本における少数民族言語教育に関する研究

一方、日本における少数民族言語教育に関する研究を見ると、双語教育政策や実施現状に焦点を当てるものが圧倒的が多い(e.g. 新井・大谷, 2016; アナトラ, 2015; アイネル, 2017; 烏日嘎, 2013; 張, 1998; 金, 2003)。民族地域における義務教育段階の言語教育の実状を丁寧に追おうとする研究は多くみられるようになってきたほか、その歴史的な様相についても考察されてきている(e.g. 岡本, 2008; アナトラ, 2015)。

前述のように、話者の言語意識は、ある言語を維持するかどうかにも大きく関わる。また、政府は一部の地域や民族集団での言語教育の実施が、地域の社会的、経済的、文化的発展の客観的なニーズを満たしているかどうかを判断する際、つまり言語計画を構築する際、大衆の希望を重要な参考資料として使用すべきである(馬, 2004, p. 390)。すなわち、言語政策や教育政策の実質的な効果や成果は、それに対する受け手の反応や評価と不可分の関係にある。したがって、現行の少数民族教育政策に対する、生徒たちの実際の反応や受容状況を調査することは、肝要である。

しかし、すでに論じてきたように先行研究では、民族地域の少数民族住民を対象とする研究が多く、漢族地域に行った経験のある少数民族、特に内地で学習している少数民族生徒の言語使用と言語意識を詳しく調査する研究は稀である。そして、普通話と少数民族語に対する意識がどのように変容しているか、それぞれの言語の使い分けは具体的にどのように行われているかについて、まだ明らかにされていない点が多い。

## 2.3 内地新疆クラスに関する先行研究

内地新疆クラスに関する先行研究は、大きく二つに分類することができる。「アイデンティティ」や「異文化教育」に注目したものと、新疆クラスの言語問題に着目した研究である。

### (1)アイデンティティ研究と異文化教育研究

まず、「アイデンティティ」や「異文化教育」に注目した研究では、内地クラスの生徒および卒業生に対する調査を行ったものが多い。たとえば、古麗孜依帕(2011)と付(2019)は、新疆クラスの生徒が入学してから、国家アイデンティティより、民族アイデンティティの方が高くなると指摘している。また、張(2014)は、新疆クラ

ス生徒における異文化教育に焦点を当て、生活習慣、言語、学業における差異は民族間コミュニケーションに困難点をもたらすと論じている。

ただし、これらの研究は、ほとんどが生徒のアイデンティティや環境適応に注目するものであり、言語に関する考察はあまり行われていない。

## (2)新疆クラスにおける言語問題

新疆クラスの言語問題に関する研究は、以下のようなものがある。

まず、政策上の観点から、新疆クラスの言語問題に注目する研究がある。アイトラ(2015)によると、新疆クラスの目標として、政府は、普通話教育の質の低い地域における生徒の言語能力の向上と、双語教育の地域格差の縮小を図っていた。また、李(2012)は、新疆クラスの生徒募集の条件において、民族語に関する基準が規定されていないため、「教育部による『一定の民族語の能力を持つこと』は現実の生徒募集の条件としてはほぼ反映されず、建前に過ぎない」と述べている。

次に、新疆クラスにおける言語問題を、生徒の適応や学習に妨害するものとして捉えている研究がある。例えば、厳・宋(2006)や張(2014)によると、新疆からの生徒たちは、内地の自然環境や生活習慣上の違いを感じており、言語の壁が立ちほだかる。このような異文化環境の中で、生徒の不適応が様々な形で起きているという。胡(2003)は、新疆クラスの生徒は選ばれた優秀な中学校の卒業生であるが、高校入学後、すべてがスムーズにいくとはいえないとして、基礎学力不足のほか普通話能力の低下などを挙げている。

以上のように、新疆クラスにおける言語使用状況や態度に対する現状分析が起こっている。Chen(2010)によると、新疆クラスの生徒は授業外で民族語を話すことで、自分の民族アイデンティティを確立し、民族同士のつながりを強調しており、それは民族間の境界を作る結果にもつながっているという。そして、Chen(2014)は、新疆クラスの卒業生は新疆で就学した人と比べて、言語の使い分けにより柔軟に対応できると指摘している。また、劉(2009)と邵(2018)の調査によると、新疆クラスの生徒は、感情という観点から自民族語を最も重要であると評価するが、社会的効用という面からは、普通話と英語が重要であると考えている。また、「新疆クラス」が少数民族生徒の普通話習得において効果的であることが分かった。ただし、生徒の各言語の学習に対する具体的な意識、および言語使用状況や言語意識の形成要因はまだ不明である。

アイネル(2017)は、2013年「新疆クラス」の卒業生15名を対象に、学校生活における言語使用状況について調査した。すべての調査協力者は、同じ民族同士で話すときにはウイグル語を使っており、これにより、自分たちが内地におけるマジョリティである漢民族とは異なる、ウイグル族であることを再認識していると答えた。また、

今後学ぶ必要性がある言語はウイグル語であると回答していた。しかし、アイネルの調査においては、「普通話」と「民族語」の2つの選択肢しか提供しておらず、選択範囲は限られていた。また、調査対象であった2013年の卒業生と現在の新疆クラス在学生の間には、年齢の差が10歳以上に渡っており、そこにおける世代の差によって、言語意識の変化が起きている可能性がある。

この点を考えるにあたりは、劉（2009）の調査は注目に値する。そこでは、調査対象の学校によって、言語意識に関する調査結果の違いが生じており、ひいては学校間における結果が真逆になっている場合もある。このように、同じ新疆出身であっても、民族や言語学習経験によって、言語意識の違いが存在している可能性がある。ただし、それについての研究は、見あたらなかった。

また、これまでの研究は主に新疆クラスの少数民族生徒を研究対象とし、当該校の先生や漢族生徒をも調査対象とする研究は少ない。特に、新疆クラスの漢族生徒を対象とする研究はほとんど存在しない。したがって、教育現場に入り、調査対象一人ひとりの個人状況を踏まえ、客観的に観察する実証的研究を行うことには意義があると考ええる。

#### 2.4 先行研究のまとめ

先行研究を踏まえると、中国における民族言語政策に関する研究は主に15年前の政策文書を対象として論じるものであり、現在の社会言語環境を反映できない恐れがある。したがって、現代中国の言語政策や社会言語使用状況を反映するために、まず言語政策の角度から少数民族言語教育を分析することは重要なことである。しかしながらそれだけでは十分ではなく、それを踏まえ、現在少数民族教育を受けている生徒の言語使用、特に、内面の言語意識を再検討する必要がある。また、少数民族生徒の言語使用や言語意識が何に影響され、どのような社会的背景を反映するのかについて、一層考察することには意義がある。

## 第三章 中国における言語政策と少数民族教育政策

### 3.1 中国における言語政策と言語環境

#### 3.1.1 普通話政策

1949年の新中国成立以来、各民族間の政治的、経済的、文化的、人的交流は強化されつつある。これに伴い、国内における共通語に関するニーズは一層高まっている。また、コミュニケーションツールとしての言語の実用性はより重要視されてきている。

馬（2004, p. 359）によると、現代の国民国家の形成と発展の時期において、最も重要かつ普遍的な言語は、必然的に国の公用語、または非公式の異民族間の交際語とされる。中国の社会言語環境から見れば、一部の民族（回族、満州族、ホーチョ族、土家族、シボ族、シェ族など）は主に漢語を自民族語として使用している。それに加えて、多くの民族においては、漢語を話す人口の割合がかなり高く、特に少数民族の知識人や幹部はほとんど漢語に堪能である。このように、漢語は何千年にもわたって中国の地域、民族の間での主な族際言語、いわゆる民族間コミュニケーションにおける媒介語になっている。したがって、漢語をただ文字通りに「漢族の言語」と見なすのは不適切である。中国における言語使用の歴史や話者の人口規模、現在の使用状況によって、漢語は、中国の社会コミュニケーションにおける、最も応用性と普遍性が高い言語として、中国の共通語・公用語と見なされる（馬, 2004, p. 359）。

このような認識に基づき、国内の各民族や各地域の国民がうまくコミュニケーションをとることを可能とし、地域間の相互理解の促進を目的として標準化された漢語は、国の共通語・公用語として定められており、中国語では「普通話」と称される。

1956年の国務院による「關於推广普通話的指示（普通話を推し広めることに関する指示）」<sup>29</sup>の頒布に伴い、普通話の推奨と標準化は、中国の言語活動における長期的な指針となった。1982年12月「中華人民共和国憲法（1982）」により、「国家は全国で通用する「普通話」を推し広める」ことが法律で規定されている。

2000年、「全国共通の言語文字の規範化・標準化およびその健全な発展を推進し、全国共通の言語・文字が社会生活において、さらにより働きができるように、また各民族・各地区の経済的、文化的交流を促進するために」、「中華人民共和国通用語言文字法」<sup>30</sup>（以下「語言文字法」と略称）が制定された。同法には、「普通話と規範漢字」を「国家通用語言文字（全国通用の言語・文字）」と明確に定めており、公用語、

<sup>29</sup> 周恩来（1956年2月6日）「普通話を推し広めることに関する指示（国务院关于推广普通話的指示）」中央政府サイト：[http://www.gov.cn/test/2005-08/02/content\\_19132.htm](http://www.gov.cn/test/2005-08/02/content_19132.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>30</sup> 「中華人民共和国国家通用語言文字法」（2000年10月31日通過2001年1月1日施行）中央政府サイト：[http://www.gov.cn/ziliao/flfg/2005-08/31/content\\_27920.htm](http://www.gov.cn/ziliao/flfg/2005-08/31/content_27920.htm)（2022年1月4日最終閲覧）



共通語、さらに標準語<sup>31</sup>の地位を与えていた。これで、中国における言語と文字の使用が明文化された。

また、「語言文字法」の第3条によると、国家は普通話と規範文字の普及に努める。そして、同法の第9条と第10条には、国家機関、教育機関は原則的に普通話と規範漢字を使用することが規定されている。

第9条「国家機関は、普通話と規範漢字を公務の言語・文字とする。法律は、規定の例外を設けることがある」

第10条「学校その他教育機関は、普通話・規範漢字を基本的な教育教學の言語・文字とする。法律は、規定の例外を設けることがある。学校その他の教育機構は、漢語文のカリキュラムを通して普通話と規範漢字を教える。使用する漢語文の教科書は、国家通用言語文字の規範と標準に合致しなければならない」

すなわち、一般学校や教育機関において、普通話と規範漢字は授業内容だけではなく、授業言語としても使用されている。換言すれば、普通話のイマージョン教育が全面的に推進されていることになる。

また、「国家中長期教育改革及び発展計画綱要（2012-2020年）」は、普通話の普及と標準化は、「現在でも基礎的、全体的、社会的かつ国家的に重要なタスクである」<sup>32</sup>と述べている。またそれと同時に、言語リソースをさらに保護、開発、構築し、少数言語と地域方言を積極的かつ効果的に記録、保存、継承、促進する必要性も強調されている。

さらに国務院は2020年に「新時代言語と文字作業全面強化に対する意見」<sup>33</sup>を公布し、その翌年には、これについての解釈を提示していた。そこでは、「2025年までに

---

<sup>31</sup> 標準語とは、「ある国または地域社会で大衆から最も高い評価を得て、社会的権威や強い影響力を誇示している特定言語変種を指す。話しことばや書きことばにおけるモデルとされ、一般的に報道・出版・儀礼的行事といった公的場面や学校教育などで広く普及している」（小池，2003，p.177）。

<sup>32</sup> 国家中長期教育改革及び発展計画綱要グループ弁公室（2010）「国家中長期教育改革及び発展計画綱要（2012-2020年）」により、教育部サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/srcsite/A01/s7048/201007/t20100729\\_171904.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A01/s7048/201007/t20100729_171904.html)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>33</sup> 国務院（2020）「新時代言語と文字作業全面強化に対する意見」とは、中華人民共和国が設立されて以来、国務院の名で初めて発行する新時代言語と文字作業全面強化のためのガイド文書である。中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/zhengce/content/2021-11/30/content\\_5654985.htm](http://www.gov.cn/zhengce/content/2021-11/30/content_5654985.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

普通話の中国全域普及率を 85%の目標とし、普通話の大衆化を推進していかなければならない<sup>34</sup>と発表し、引き続き普通話教育の重要性を強調している。

そして中国教育部（2021）は、「国家通用言語文字を推し広めることは、憲法に規定された責任であり、中華民族共同体意識を強固なものとするための効果的な方法である」<sup>35</sup>と述べている。教育部は「中華民族共同体意識を強固にするうえで、国家通用言語文字教育の効果を発揮すること」を 2021 年度の目標として挙げ、中華民族の優れた言語文化の継承と発揚の促進を強調している<sup>36</sup>。以上で見られるように、現在、普通話の普及は国民のコミュニケーションを促進する手段だけでなく、愛国教育の手段の 1 つともされている。

### 3.1.2 少数民族言語に関する政策

「中華人民共和国憲法（2018 改正）」<sup>37</sup>第 1 章第 4 条によると、「各民族は自らの言語・文字を使用・発展させ、自らの風俗・習慣を保持あるいは改革する自由を有する」。また第 121 条によると、「民族自治区の自治機関は公務を遂行する際、当民族自治地方の自治条例の規定に従い、現地で通用する 1 つまたは複数の言語・文字を使用するものとする」。

また、「語言文字法」第 4 条によると、「公民は、国家通用言語文字を学習および使用する権利を有する。国家は、公民が国家通用の言語・文字を学習して使用するための環境を提供する。各級の地方政府とその関連部門は、普通話と規範漢字を推し広めるための措置を講じる必要がある」。つまり法律的にみれば、国は少数民族の言語使用権を尊重しており、民族語を使用できる社会環境を整備している。そして同法の第 8 条では、「各民族は自らの言語・文字を使用・発展させる自由を有する。少数民族の言語・文字の使用については、憲法と民族区域自治法およびその他の法律の関連規定に依拠するものとする」と示されている。つまり、国民は普通話と規範漢字を学習、使用する権利を有すると同時に、自民族の言語・文字を使用し、発展させる権利も有している。それに加え、「中華人民共和国民族区域自治法（2001 改正）」（以下「区域自治法」と略称）において、各民族の公民が自らの「言語・文字を使用、発展させる自由」と、少数民族語の行政機関の公務用語としての地位は重ねて表明される

<sup>34</sup> 「2025 年全国普通話普及率達 85%」『光明日報』2021 年 12 月 2 日、中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/zhengce/2021-12/02/content\\_5655369.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2021-12/02/content_5655369.htm)（2022 年 1 月 4 日最終閲覧）

<sup>35</sup> 教育部（2021a）「中国語言文字概況（2021 年版）」、中国教育部サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/jyb\\_sjzl/wenzi/202108/t20210827\\_554992.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/wenzi/202108/t20210827_554992.html)（2022 年 1 月 4 日最終閲覧）

<sup>36</sup> 教育部（2021b）「教育部 2021 年工作要点」中国教育部サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/jyb\\_sjzl/moe\\_164/202102/t20210203\\_512419.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/moe_164/202102/t20210203_512419.html)

<sup>37</sup> 「中華人民共和国憲法（2018 年 3 月 11 日 改正）」中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/guoqing/2018-03/22/content\\_5276318.htm](http://www.gov.cn/guoqing/2018-03/22/content_5276318.htm)

<sup>38</sup>。同法の第 21 条においては、普通話<sup>38</sup>は国の公用語であることを規定する一方、民族自治地方では、少数民族語を使用する、または併用することを認めている。

第 21 条「民族自治区の自治機関は職務を遂行する際、当該民族自治地方の自治条例の規定に従い、現地で通用する 1 つまたは複数の言語・文字を使用するものとする。複数の通用する言語を同時に使用して職務を遂行する場合、地域自治を行使する民族の言語・文字を主とする」

さらに、同法の第 37 条、第 47 条では、学校教育、出版、訴訟における少数民族語の地位が確認されている。特に第 49 条では、民族語と普通話が並列され、各民族が他民族の言語を学習することが推奨されている。

第 37 条・第 3 項「少数民族学生を主とする学校（クラス）およびその他の教育機関は、条件が許すのであれば、少数民族語の教科書を使い、かつ少数民族語で授業をしなければならない。状況によっては、小学校低学年または高学年で漢語課程を設け、全国共通の普通話と規範漢字を普及させるものとする」。第 4 項「各級人民政府は財政面で少数民族文字の教材および出版物の翻訳編集や出版事業を支援する」

第 47 条「各民族の公民が自民族の言語文字で訴訟を行う権利を保障する」

第 49 条「民族自治地方の自治機関は、各民族の幹部が互いに言語・文字を学習するように教育・推奨するものとする。漢族の幹部は、その地方の少数民族の言語・文字を学習しなければならない。少数民族の幹部は、当該民族の言語・文字を学習、使用すると同時に、全国共通の普通話と規範漢字も学習しなければならない」

以上で見られるように、民族自治地域において、普通話の他に少数民族語も公的に使用される言語として認められ、普通話と同じく法的な地位を与えられている。そして民族間コミュニケーションを促進するために、民族語の学習も推奨されている。

### 3.1.3 中国における言語使用状況

「多元一体」論的な構図が、現代中国の言語使用状況からも読み取れる（馬，2004，p. 389）。少数民族地域では、少数民族語が保持されており、漢族地域では、日常生

---

<sup>38</sup> 第 10 条「民族自治地方の自治機関は、現地各民族の公民が自らの言語・文字を使用・発展させる自由を保障する」。

活の中に地域方言が保持されているのと同時に、普通話<sup>39</sup>は、全国で用いられている。特に少数民族地域では、普通話の使用率がかなり高い。統計データによると、2020年までに普通話の全国普及率は80.72%に達し、識字人口の中で規範漢字を使用する割合は95%を超える<sup>39</sup>。普通話の普及は、地域間のコミュニケーションと相互理解、社会発展や国家統一を促進し、国民の素質と文化的アイデンティティを向上している（石，2017）。

社会の現状を見ると、公用語かつ共通語である普通話<sup>39</sup>は、知識と情報の伝達のための最も重要なツールとして、政府の行政、学校教育、メディア、出版、およびサービス産業などにおいて使用されている。現代中国の政治的、経済的、技術的、文化的知識と情報の大部分は、普通話によって作成され、広められる。普通話を学習しないと、社会生活におけるコミュニケーションや知識の獲得は限られる。したがって、科学技術などの知識を身につけ、労働市場における競争力をあげるために、普通話を身につけることは重要である。

そして、学校や公共の場で普通話の普及に力をいれているのと同時に、労働市場のニーズに応えるため、小中高等学校と高等教育機関は、英語およびその他の外国語教育を積極的に展開している。特に大学において、英語を活用して専門科目を教えることが推進されている。このような提案において、中国人の国際的な競争力を向上させるためには、将来、「母語+自民族の交際語+普通話+国際共通語（英語）」のような言語環境が理想的だとされる可能性がある（馬，2004，p. 389）。

しかしながら、現在中国の少数民族地域では、子どもが将来の学校教育についていけるように、家庭の中で幼い頃から子どもに普通話で話しかける例（烏日嘎，2012）もある。普通話が著しく広まっているなかで、少数民族語の教育も重要な課題となっている。

## 3.2 中国の少数民族教育における言語教育

### 3.2.1 少数民族教育政策

中国では「中華人民共和国民族区域自治法」、「中華人民共和国義務教育法」、「中華人民共和国教育法」などの法律に従い、少数民族自治区と少数民族集住地域では小学校から高校段階までに、当該地域の少数民族生徒を主な募集対象とする学校が設立され、一般学校と並行する民族教育システムが設けられている。

現状から見れば、少数民族教育において、民族地域の学校を分類する規準には、主として生徒の構成と授業言語の二つがある。まず、生徒の構成による分類を行えば、

<sup>39</sup> 教育部（2021a）「中国語言文字概況（2021年版）」中国教育部サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/jyb\\_sjzl/wenzi/202108/t20210827\\_554992.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/wenzi/202108/t20210827_554992.html)（2022年1月4日最終閲覧）

少数民族生徒を主とする「民族学校」と漢族生徒を主とする「漢族学校」に分けることができる。また授業言語による分類では、全部または一部の授業を民族語で教える「民族語学校」と、普通話で授業を行う学校「漢語学校」に分けられる。このような分類方法をふまえると、一般的にみて、民族学校は民族語学校であり、漢族学校は漢語学校であるが、漢語学校は必ずしも漢族学校ではない。

一方、民族地域の高校と並行する「内地高校クラス」<sup>40</sup>がある。「内地高校クラス」としては例えば、「内地新疆クラス」「内地チベットクラス」などを挙げることができる。

例としてここでは、新疆ウイグル自治区における学制設置を図 3-1 に示す。

図 3-1 新疆の民族教育における学制<sup>41</sup>

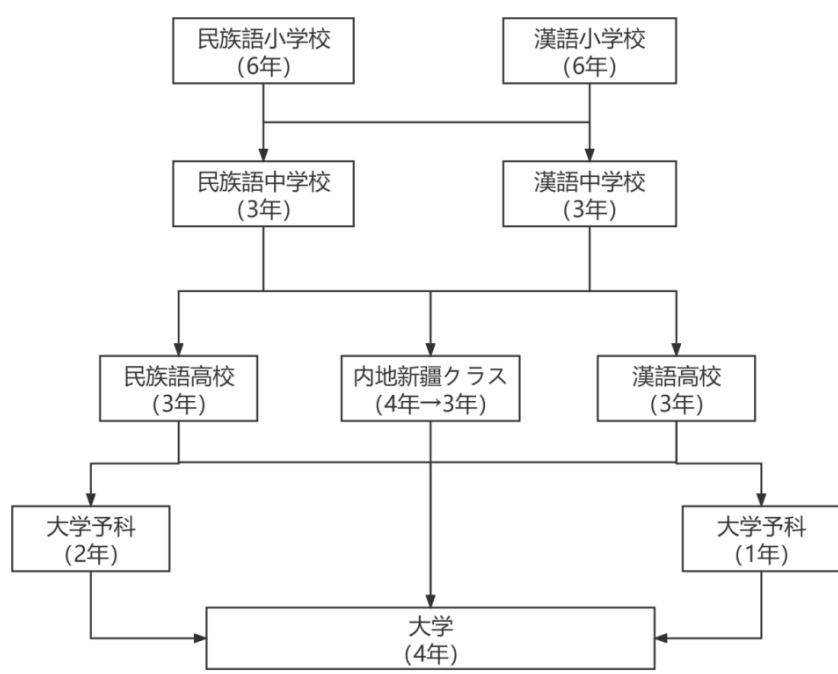


図 3-1 が示すように、少数民族教育を受ける生徒は小中高段階において、民族語学校か漢語学校、または内地高校クラスのいずれかから、自由に修学環境を選択することができる。また、大学段階には、少数民族学生を主とする民族大学と、少数民族生徒が少数派である一般大学がある。一般大学は少数民族語を授業言語としていないため、民族語学校の卒業生は一般大学の大学課程に入る前に 2 年間の予科教育を受ける

<sup>40</sup> 「内地高校クラス」とは、新疆、チベット、青海からの生徒を、内地にある経済的、教育的に発展した都市部の学校に入学させる少数民族教育の形式である。詳しくは第 4 章を参照されたい。

<sup>41</sup> ここでは、学校の授業言語によって学校の種類を区別するために、「一般学校」を「漢語学校」と呼称する。

場合もある<sup>42</sup>。この予科教育は、主に普通話能力を補足するためのものである。そして漢語学校の卒業生は、1年間の予科課程に入るのが可能である。その場合には、主に教科の知識を補足する。

### 3.2.2 少数民族教育における双語教育政策

少数民族生徒の言語権を保障するために、少数民族教育の一環として、少数民族地域において「双語教育」が行われている。

双語教育とは、少数民族生徒に対して行われる、民族語と普通話の二言語教育、または他の教科教育で、普通話と民族語を併用する教育である（岡本，2008；白英・藤星，2015）。

「中華人民共和国教育法(2021改正)」の第12条には、「国家通用の言語・文字を、学校およびその他の教育機関の基本的な教育教學の言語・文字とする。学校およびその他の教育機関は、国家通用の言語・文字により教育教學を行わなければならない」と学校の授業言語を規定している。また、その一方で、「少数民族の学生を主とする民族自治地方の学校やその他の教育機関は、実際の状況に依拠して、国家通用の言語文字と自らの民族または当地の民族に通用する言語文字を使用して、双語教育を実施する。国家は、少数民族の学生を主とする学校やその他の教育機関における双語教育を実施するための環境と支援を提供するために、措置を講じている」と明確に規定されている。つまり、少数民族教育は中国の教育体制のなかの「例外」であり、全国で通用している一般的な教育規則とは異なる規則が適応され、民族語と普通話の両方を同時に扱う双語教育が実施されている。

1980年代以降、各少数民族地域で大規模の双語教育が実施され、高い効果が報告されている。たとえば、馬(2004, p. 372)は、民族語教育と漢語教育を併行して行う双語教育について、民族語教育は、識字教育と文化普及に役立ち、漢語教育を通じては、少数民族生徒が民族間の共通言語を身につけることができるとの見解を提示している。また、双語教育の実施規準である「民族中小学漢語課程標準(義務教育)」<sup>43</sup>(教育部, 2013)によれば、「民族語と漢語の双語教学<sup>44</sup>は、各民族の生徒間のコミュニケーションを促進し、各民族の生徒の全面的かつ生涯にわたる発展を促進し、各民族の生徒の母国意識(国家アイデンティティ)を高め、中華民族の結束を高めるのに役

<sup>42</sup> 吳曉婧(2010)「什么叫民族预科」, 中国民族委員会サイド: <https://www.neac.gov.cn/> (2019年4月10日最終閲覧)

<sup>43</sup> この課程標準は、漢語が母語ではない、漢語を第二言語とする少数民族の生徒に適用される。民族語を主な授業言語とし、漢語を一つの科目として加える義務教育段階の学校(他の双語教学形式を含む)の漢語教学に適用される。

<sup>44</sup> 双語教学とは、母語である民族語を授業言語とし、漢語を第二言語として教授することを指しており、「双語教育」の下位概念と見られる。

立つ」。つまり、少数民族教育における普通話（漢語）教育は、言語教育だけではなく、生徒の国家アイデンティティを高めるための国民教育とも見なされている。

これを受け、「国家中長期教育改革及び発展計画綱要（2012-2020年）」の第27条は、「双語教育を強力に推進し、漢語文コースを全面的に開設し、国家通用言語文字を全面的に推し広める。少数民族が自民族の言語文字で教育を受ける権利を尊重し、保障する。就学前の双語教育を全面に強化する。国は、双語教育教員のトレーニング、教育研究、教材の開発と出版を支援する」と明言している。ここから、双語教育の発展が今でも重要視され、積極的に推進されていることが分かる。

### 「民漢兼通」概念の変遷

双語教育の基本的な目標として、「民漢兼通」の概念が1980年代に提唱された。これは、当該民族の言語と普通話の両言語ともコミュニケーション可能なレベルまで言語能力を向上させることを指す。

ただし、時代の流れに伴って「民漢兼通」の意味は変わりうる。例えば、2002年改正された「新疆ウイグル自治区語言文字工作条例」の第18条によると、「少数民族語で教える小中高学校は、自民族言語文字の基礎教育を強化すると同時に、（中略）、漢語教学を健全に推し進め、少数民族学生が高校を卒業するときに『民漢兼通』に達するようにどんどん進める。中・大専門学校<sup>45</sup>では、民族語と漢語の双語教学を強化し、バイリンガル人材を育成すべきである」。つまり、2000年代初頭、「民漢兼通」は民族語と漢語の2言語能力とも高いという状態を指している。

その後、2011年、新疆ウイグル自治区政府によれば<sup>46</sup>、基礎教育における「民漢兼通」の目標は、「少数民族の高校卒業生が基本的に国家通用言語・文字と自民族の言語文字に熟練し、可能であれば外国語も1つ習得できるようにする」ものとして具体化されている（黄・蔣・儲, 2015）。

つまり、現在の少数民族教育には、少数民族生徒に3言語（民族語、普通話、英語）を習得させることが求められている。まず、少数民族生徒の言語権を保障し、民族アイデンティティを維持させるために、民族学校では民族語を教えている。そして各種の学校では、民族間コミュニケーションの主な媒体である普通話を教える。さらに、グローバル化に伴って生じたニーズを満たすために、小学校から英語の授業を開設している。

<sup>45</sup> 中国の中等専門学校と高等専門学校を指している

<sup>46</sup> 新疆ウイグル自治区（2010）「新疆ウイグル自治区少数民族学前和中小学双語教育發展計画（2010—2020）」により

## 第四章「内地新疆クラス」

### 4.1 新疆における少数民族教育

#### 4.1.1 新疆の概況

図 4-1 中華人民共和国地図<sup>47</sup>



新疆ウイグル自治区は中国の北西国境地帯に位置し、約 166 万平方キロメートルの面積を抱える、中国で最も広い省である。モンゴル、ロシア、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、アフガニスタン、パキスタン、インドなど 8 つの国と国境を接する。過去においては、「シルクロード」の重要な拠点として、古代中国と世界をつなぎ、多くの文明が新疆に集まっていた。

紀元前 138 年、漢の武帝は張騫使節を西部地域に派遣し、西漢政権は西部地域との関係を確立した。紀元前 60 年、西漢政権に属する管理機構の設立によって、西部地域は正式に漢王朝の領土に含まれた。その後独立の動きもあつたが清の時代に平定され、「新疆」と改名され、1884 年には「新疆省」が正式に設立された。1949 年、新中国が成立した後、新疆は平和的に解放され、1955 年 10 月 1 日に新疆ウイグル自治区が設立され、中国の 5 つ少数民族自治区の 1 つとなった。

<sup>47</sup> 中国自然资源部 (2019) 「中国地図」 <http://www.mnr.gov.cn> (2022 年 1 月 4 日最終閲覧)



新疆ウイグル自治区においては、ウイグル族、漢族、カザフ族を始め、56の民族が住んでおり、住民の中には、イスラム教を信じるトルコ系が多く、各民族の地理的分布が「大雑居・小集居・交錯居住」の特徴を示している<sup>48</sup>。

2020年の第七回国勢調査によると、新疆の総人口は2585万人である。そのうち、ウイグル族が45.0%、漢族が42.2%を占めている。2010～2020年の間、漢族は23.7%増え、ウイグル族の伸びは16.2%である。その原因として、漢族の移住が進んだとみられるほか、「2人っ子」政策の推進によって、都市部に住む漢族の夫婦も2人まで子を産めるようになり、出産が増えた可能性があると考えられている。このように考えれば、2021年から実施される「3人っ子」政策により、漢族の人口は上昇し続ける可能性が高い。

#### 4.1.1.1 新疆の民族

前述の通り、新疆には56の民族が住んでいる。ウイグル族など少数民族の他、漢族も早くから新疆ウイグル自治区に入った民族の1つである。紀元前101年に、漢王朝の軍隊はルンタイ、クリなどの地域で荒地を開墾し始め、その後新疆全域に拡大した。その後の紀元前60年に、西部地域保護領が設立されて以降、漢族は公務、軍隊、または商業のために継続的に入っていった。

19世紀の終わりまでに、新疆ウイグル自治区には、ウイグル族、漢族、カザフ族、モンゴル族、回族、キルギス族、満州族、シベ族、タジク族、ダオール族、ウズベク族、タタール族、ロシア族を含む13の民族が居住し、ウイグル族を主とする多民族集住地域として編成された<sup>49</sup>。

1955年新疆ウイグル自治区が設立された時、歴史的にそこで定住していた13の民族が公認された。その後、各民族の移住と移動により、新疆の少数民族の数は増加し続けている。

新疆の代表的な13の民族を、以下に紹介する<sup>50</sup>。

ウイグル族の総人口は1000.13万人で、中国領域内の99%のウイグル族は新疆に居住しており、新疆における人口が最も多い民族である。ウイグル語とアラビア文字を基礎とするウイグル文字を使っており、イスラム教を信仰している。現代中国におけ

---

<sup>48</sup> 「新疆的人口発展」 国務院ニュース弁公室 2021年9月  
中央政府サイト：[http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content\\_5639380.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content_5639380.htm) (2022年1月4日最終閲覧)

<sup>49</sup> 「新疆の歴史と発展」 中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/test/2005-07/01/content\\_11423.htm](http://www.gov.cn/test/2005-07/01/content_11423.htm) (2022年1月4日最終閲覧)

<sup>50</sup> 人口データは第6回国勢調査による新疆ウイグル自治区における人数を示す。内容に関しては、中国民族事務委員会サイトを参照し、翻訳した。

<http://www.neac.gov.cn/seac/ztl/zgmzjs/index.shtml> (2022年1月4日最終閲覧)

るウイグル語は、「中心」、「和田」、「羅武」の3つの方言に分かれており、標準語は中心方言に基づいており、イリ-ウルムチの発音が標準発音として使用されている。ウイグル語は、同じ語族のカザフ語、キルギス語、ウズベク語などと多くの類似点があるが、独自の特徴もある。

漢族人口は約882.99万人で、新疆の総人口の4割以上を占めている。そして、漢族は中国の主体をなす民族として全国の大多数の地域に分布している。漢語は世界で最も古い言語の1つであり、7つの主要な方言がある。現代漢語の標準語は普通話であり、漢族と大多数の少数民族の間での共通言語である。

カザフ族人口は141.83万人で、その99.57%は新疆イリカザク自治州、ムレイカザク自治県、バルクンカザク自治県、ウルムチ市など地域に分布している。イスラム教を信仰しており、カザフ語とカザフ文字を使う。カザフ語は、アルタイ諸語族のチュルク語族に属している。長い間、漢族、ウイグル族、モンゴル族とその他の民族と頻繁に接触したため、それらの民族の語彙をカザフ語に吸収しただけではなく、それらの民族の言語を理解できるカザク族も少なくない。カザフ族は3種類の文字、つまり古代チュルク語、後期ソグド語、アラビア文字を使用した。1965年以来ラテン文字を一時的に使用したことがあり、1980年以降、徐々にアラビア文字の使用を再開した。

回族総人口は98.3万人であり、イスラム教を信仰している。現在、回族のほとんどは漢語を使っており、異なる地域で異なる方言を話している。回族の先祖は東への移住の初めに、アラビア語、ペルシア語、漢語を同時に使用していた。漢族との長期的な共存、特に回族と漢族の通婚により、回族は徐々に漢語を民族の共通言語として使用することに慣れていった。その一方で、現代の回族が用いる漢語においては、アラビア語とペルシア語の語彙も一部残されている。また、新疆ウイグル自治区に住んでいる回族は、ウイグル語またはカザフ語に堪能な人口が少なくない。

キルギス族の人口は18.05万人であり、遊牧をやめて定住するようになった少数民族で、8割ぐらいは新疆南西部のキルギス自治州に住んでいる。キルギス語はアルタイ語系、チュルク語派に属する。アラビア文字を基礎とするキルギス文字を使っている。

モンゴル族の総人口は15.63万人であり、モンゴル語とモンゴル文字を使用している。モンゴル語はアルタイ諸語族のモンゴル語族に属しており、内モンゴル方言、オイラト方言、バルハブリヤ方言の3つの方言に分けられる。新疆ウイグル自治区のモンゴル人はオイラト方言を使っている。14世紀の初めにモンゴルの学者は元のモンゴル文字を改革し、現在用している標準モンゴル文字を作った。

シボ族の人口は3.44万人で、主に新疆イリ地区チャブチャル・シボ族自治県に分布しており、自民族の言語と文字がある。1947年、シボ族の知識人は満州語を改革し、

現在公的に使っているシボ文字を作り出した。中国の東北地方に住んでいるシボ族はほとんど漢語を使っているが、新疆のシボ族は集住しているため、シボ語を継承しており、そしてウイグル語とカザフ語ができる者も多い。

タジク族人口は4.73万人で、そのうち6割以上は新疆南西部のパミール高原にあるタジク自治県に住んでおり、残りは新疆南部のタジク自治郷に住んでいる。タジク語とウイグル文字を使っている。タジク語はインド・ヨーロッパ語族に属しており、サリコルとワクヒの2つの主要な方言が含まれる。サリコルは、タジク人の日常生活に使用される主要な話し言葉であり、話者は約3万人であり、ワクヒを使用している人は約1万人である。そして、民族間コミュニケーションのため、多くのタジク人は自民族語のほか、ウイグル語とキルギス語の両方を話し、ウイグル文字を使用する。

満州族人口は1.87万人で、満州語と満州文字がある。満州語は、アルタイ諸語系に属している。16世紀の終わりに、清の統治者（満州族）はモンゴル文字を改良し、満州語の発音を表記するための満州文字を作り出し、満州語は公式用語として広く使われていた。ただし、清王朝中期以降、満州族は基本的に中国北部の漢語方言に乗り換え、満州語は次第に廃止され、軍人と官僚が特定の場面のみに使われていた。1980年代、中国東北部と新疆の一部の遠隔地にいるシボ族の少数の高齢者のみが満州語を話していた。しかし、一度に広く使われていた言語として、満州語は漢語方言に深い痕跡を残している。例えば、中国の東北方言や北京方言には、満州語の発音や語彙が多く残っている。

ウズベク族の人口は1.01万人で、新疆の多くの県や市に点在しており、ほとんどが都市や町に住んでいる。ウズベク語はウイグル語に非常に近い。新疆に移住したウズベク人は、1949年までアラビア文字を基礎とする音声文字を使い続けた。1949年以降、各地に散在するウズベク族は多くの民族との共存により、言語使用が徐々に変化する。新疆南部のウズベク族はウイグル族と共存しており、基本的にウイグル語とウイグル文字を使用し、北部に住むウズベク族は、カザフ人と長い間暮らしてきたため、基本的にカザフ語とカザフ文字を使用する。

ロシア族は0.85万人で、主に新疆ウイグル自治区のイリ、ターチョン、ウルムチなどの地に住んでおり、自民族の言語と文字がある。18世紀後半から19世紀末まで、そしてロシアの10月革命の前後に、ロシア帝国の支配を逃れて、多くのロシア人がシベリアなどの地域から新疆の北部に流入した。1935年、新疆第2回の人民代表大会では、中国国籍を取得したロシア人やその他のヨーロッパ人は「帰化族」と呼ばれることが可決された。1949年に新中国が設立された後、「ロシア族」に改名された。中国のロシア族は一般的にロシア語、漢語、ウイグル語、カザフ語などの言語を話す。社会において、彼らは漢語と漢字を使用し、家庭内において、自民族同士で会話をす

るときにロシア語とロシア文字を使う。

ダオール族は0.55万人で、新疆のターチョン地区に分布しており、ダオール語と漢字を使っている。清王朝の統治の200年以上の間、八旗軍隊が頻繁に調整されたことは、ダオール族と漢族や満州族などとの接触を促進した。ダウール語はモンゴル語族に属しており、ブテハ、チチハル、新疆の3つの方言があり、元の民族文字は失われた。清の時代において、満州文字を使い、現在はラテン文字を基礎とする新文字を使用している。現在、ダウール族はほとんど漢語に堪能で、漢字を書くことができる。

タタール族は0.32万人で、主に新疆のイーニン、ターチョン、ウルムチに住んでいる。イスラム教を信仰し、自民族の言語と文字がある。長い間、タタール人はカザフ族とウイグル族と絡み合って暮らし、頻繁に連絡を取ったため、カザフ語とウイグル語を使う。アルタイ、チョチェック、奇台などに住むタタール人は主にカザフ語を使用し、ウルムチ、イーニンなどの都市に住むタタール人は主にウイグル語を使用する。

以上の13の民族は長年にわたって新疆に住んでおり、新疆総人口の99%以上を占めている。

#### 4.1.1.2 新疆における言語政策と言語生活

新疆ウイグル自治区政府は、「中華人民共和国民族地域自治法」や「中華人民共和国国家通用语言文字法」およびその他の関連する法律と規制に従い、自治区の実際状況に応じて、1993年に「新疆ウイグル自治区语言文字工作条例」<sup>51</sup>を策定した。その後、2002年と2015年に改正が行われた。以下では、2015年改正された「新疆ウイグル自治区语言文字工作条例」（以下は「条例」と略称にする）を分析し、新疆における言語文字関連の公的規則について考察する。

「条例（2015改正）」の第2条には「言語文字に関する作業は、各民族集団の言語・文字の平等の原則を厳守し、各民族が自らの言語・文字を使用および発展する自由を確保し、各民族がお互いの言語・文字を学ぶことを推奨する」とあり、国の法律に呼応する。

また、「条例」の第二章では、言語文字の使用と管理が規定されている。

第8条「自治区の自治機関は、公務を遂行する際に国家共通言語文字とウイグル言語文字の両方を同時に使用するものとし、必要に応じて、他の民族の言語文字を同時に使用することもできる。自治州や自治県の自治機関は

---

<sup>51</sup> 2002年9月20日自治区第九届人大常委会第三十回會議「关于修改〈新疆维吾尔自治区语言文字工作条例〉的决定」 中国教育部サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/s78/A18/yys\\_left/s3127/s3253/201001/t20100127\\_78564.html](http://www.moe.gov.cn/s78/A18/yys_left/s3127/s3253/201001/t20100127_78564.html)  
(2021年11月18日最終閲覧)

公務を遂行する際に、国家共通言語文字と民族区域自治権を行使する民族の言語文字を同時に使用するものとし、必要に応じて、その地域で通用する他の民族の言語文字を同時に使用することができる。複数の言語を同時に使用して職務を遂行する場合は、民族区域自治権を行使する民族の言語を主として使用することができる。公務を遂行する際には、少数民族言語文字と国家通用言語文字が同等の効力を有する」

つまり、新疆ウイグル自治区において、普通話とウイグル語はいずれも自治区の公用語として認められている。それと同時に、少数民族自治州や自治県において、当該自治民族の言語も公用語として使われている。

また、「条例」によると、標準漢字と少数民族文字の2つで表記することが義務づけられているところが多い。例えば、「条例(2015改正)」の第11条によると、以下の場合には規範的な漢字と少数民族文字を、同時に使用すべきとされている。

- ①機関の名称、銘板、公印、証明書、公文書、組織の名称が印刷された公式書簡や封筒。
- ②公共の場、公用施設および公共サービス業における看板、広告、告示、標識やスローガンなど文字を使用するもの。
- ③車に印刷された組織名称および安全スローガン。
- ④自治区で生産され販売される商品の名称、包装、説明書など。

以上のことから分かるように、新疆においては、少数民族の文字の使用が保障されており、特に地域公用語の1つとしてのウイグル語の使用が保護され、その公的な地位が確立されている。

また、言語学習については、少数民族語と普通話の両方を学習することが強調されている。民族語学校・漢語学校を問わず、普通話の教育を行う必要があるとして、バイリンガルを育成することを目指している。

第22条「各レベルの人民政府は、各民族が互いの言語文字を学ぶように教育し、奨励するものとする。漢族の国民は積極的に地元の少数民族の言語文字を学ぶ必要があり、少数民族の国民は自民族の言語文字を学び・使うことと同時に、国家通用言語文字を学ぶ必要がある（後略）」。

第24条「教育を主管する部門は、双語教育を強く推進する。就学前と小中高における双語教育は国家通用言語文字と少数民族言語文字の教授を併

行することを厳守し、自治区における双語教育の課程設置方案と各学科の課程標準を厳格に施行する。義務教育を完成する少数民族生徒は国家通用言語文字を基本的に身につけ、使用すべきである。中・大専門学校<sup>52</sup>では、有効な措置を採用し、バイリンガル人材を育成するべきである」。

第 25 条「少数民族集住地域における国家通用言語文字で授業を行う小中高等学校は、地元の少数民族言語文字コースを適切に開設することができる」。

このように、政府が少数民族語の学習を推奨する一方、学校教育において、普通話教育の義務化を強調している。

また、生徒だけではなく、各業種の関係者にも、民族語と普通話、いずれの言語能力をも十分に身につけ使用することが求められる。

第 27 条「交通、衛生、工商、人力資源と社会保障、税務、公安、商業、通信、金融などの部門は、二言語の研修を従業員に提供し、現地の共通言語を身につけ使用できるようにして各民族の公民のために奉仕する」。

以上のことから、自治区が公布した文書「条例（2015 改正）」により、新疆ウイグル自治区において、国家通用言語文字と少数民族言語文字が同時に使われること、普通話教育が義務付けられていること、双語教育が各機関、特に事業単位<sup>53</sup>に求められることが分かる。

また、2021 年 9 月国務院ニュース弁公室に公布された『新疆の人口発展白書』<sup>54</sup>によると、「国家通用言語文字は国の主権の象徴であり、国家通用言語文字を学習し、使用することは国民全体の権利であり、義務である。（…）中国政府は、国家通用言語文字の使用を強く促進し、規範化し、法律に従って各民族が自民族の言語・文字を使用、発展する自由を保障する」。以前には国民の「権利」と表現された普通話学習は、国民の「権利と義務」とであると指摘される。つまり、普通話を学習することが公的文書において義務付けられている。

---

<sup>52</sup> 中等専門学校と高等専門学校を指している。

<sup>53</sup> 事業単位 (Institutional Organization) とは、国や地方の予算で運営され、社会のために事業を行い、経済的利益の追求を行わない事業体である。主に教育、科学技術、文化、衛生など分野の活動を行う。日本の独立行政法人や特殊法人に該当する組織である。

<sup>54</sup> 国務院ニュース弁公室(2021)『新疆の人口発展白書』, 中央政府サイト:  
[http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content\\_5639380.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content_5639380.htm) (2022 年 1 月 4 日最終閲覧)

#### 4.1.1.3 新疆の社会的言語環境

新疆の社会言語環境から見れば、法律によって保護される少数民族語は、教育、司法、行政、社会的公共事務などの分野で広く使用されている。ただしその一方で、新疆における漢族人口の増加によって、「ウイグル族の人々は漢語ができないと日常生活でも不自由を感じるようになり、逆に漢族の人々はウイグル語を覚える必要がないと感じるようになってきた」（アナトラ・河野，2011）。特に、知識人はほとんど普通話ができる人であり、仕事の場において、普通話で作業することが多い。たとえば、病院に行く場合、普通話ができないと、漢族の医師とのコミュニケーションはかなり不便で、通訳が必要になる場合もある。

#### 4.1.2 新疆における教育の現状

『新疆の人口発展白書』によると、2020年現在の新疆には、すべての村に幼稚園があり、そして3,641校の小学校、1,211校の一般中学校、147校の中等職業学校（技術工業学校を除く）、56校の一般大学と6校の成人大学がある。就学前教育の総就学率（幼稚園入園率）は98%に達し、小学校の純就学率は99.9%以上、9年義務教育の統合率は95%以上、高校の総就学率は98%以上に達している。南疆の一部の少数民族エリアでは、幼稚園から高校まで15年間の教育無償化が実施されている。1951年から2020年までに、767,000人の少数民族の学生を含む合計21億1,500万人の大学卒業生がおり、少数民族は36.3%を占めている。

一方、第7回国勢調査データ（2020年）によると、ウイグル族において、大学教育を受けるのは10万人あたり8,944人で、15歳以上の人口の教育年数は9.19年にすぎない。

データから見ると、新疆ウイグル自治区の教育環境は、中国の発達した都市に比べて、はるかに立ち遅れている。表4-1を参照すれば、新疆の大学進学率は北京の半分にも至らないことが分かる。

表4-1 各地域 10万人当たりの教育を受ける程度・人数

単位：人/10万人

地域	大学 (高等専門学校 およびそれ以上)	高校 (中等専門学校 含む)	中学校	小学校
新疆	16,536	13,208	31,559	28,405
北京	41,980	17,593	23,289	10,503

(第七回国勢調査公報 第六号<sup>55</sup>を参照し、筆者作成)

<sup>55</sup> 国家統計局・国務院第七次全国人口普查領導小組弁公室（2021年5月11日）「第七次全

#### 4.1.2.1 学校の種類

新疆ウイグル自治区においては、法律に従って普通話教育が実施されていると同時にウイグル語、カザフ語、キルギス語、モンゴル語、シベ語などのコースが小中学校で開かれている。それにより、少数民族の生徒が自民族語を学ぶ権利は保証され、少数民族の言語・文化の継承も効果的に促進される<sup>56</sup>。

1952年、中国の各少数民族地域において、「民族区域自治法」が実行され始めた。新疆ウイグル自治区政府はこれに基づいて双語教育政策を定め、少数民族が民族の言語を学習し、使用し、発展させる一方で、自分の意志で漢語（普通話）を学習して使用するよう促した。つまり、新疆における少数民族自身が漢語教育を受けるかどうかを選択可能になった。

このような政策に従い、基礎教育段階ではウイグル語、普通話、カザフ語、キルギス語、モンゴル語、シベ語、ロシア語を含む7言語が授業言語として使用されている。新疆の学校において、授業言語による複数の組み合わせが用意され、生徒と親が自分の意志で自由に選択することが可能になっている。予備調査の結果、授業言語によって分けられる学校の種類には次の5つの組み合わせがある。

- A. 伝統的な漢語クラス（普通話で教科を教え、民族語を一つの科目とする）
- B. 伝統的な双語クラス（民族語で教科を教え、普通話を一科目とする）
- C. 民族語普通クラス（すべて民族語で教える）
- D. 民族語実験クラス（一部の科目は民族語で教え、一部の科目は普通話で教える）
- E. 漢語クラス（すべて普通話で教える）

本稿ではこれらの組み合わせに関して便宜上、「A. 伝統的な漢語クラス」と「E. 漢語クラス」を「漢語学校」と呼び、「B. 伝統的な双語クラス」、「C. 民族語普通クラス」、「D. 民族語実験クラス」の3つを「民族語学校」と呼ぶことにする。

#### 4.1.2.2 学生の分類

「条例」の第19、20条によると、少数民族集住地域での漢語学校では、地元で通用する少数民族語・文字のコースを適切に提供することができる。少数民族の生徒は漢語学校に行くことができ、漢族生徒は民族語学校に行くこともできる。したがって、地域の状況やニーズに応じて、生徒と親は、小中高段階での授業言語を自由に選ぶことができる。

---

国人口普查公报[1]（第六号）—人口受教育情况

[http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/202106/t20210628\\_1818825.html](http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/202106/t20210628_1818825.html)  
（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>56</sup> 国務院ニュース弁公室(2021)『新疆の人口発展白書』, 中央政府サイト:

[http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content\\_5639380.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content_5639380.htm) (2022年1月4日最終閲覧)



したがって、新疆における生徒は民族と主な授業言語によって、「民考民」、「民考漢」、「漢考民」、「漢考漢」に分けられる。

①「民考民」とは、少数民族生徒が民族語学校に就学し、1つの民族語で受験することを指す。

②「民考漢」とは、少数民族生徒が漢語学校に就学し、「語文」を含めて、各科目には漢語で受験する場合を指す。ただし、回族や満州族の生徒は、漢語を母語とするため、一般的に「民考漢」と見られない(馬, 2008 b)。

③「漢考民」とは、漢族生徒が民族語学校で就学し、1つの民族語で受験することを指す。この「漢考民」の生徒はごく一部である。

④「漢考漢」とは、漢族生徒が漢語学校で就学し、漢語で試験を受けることを指す。

ここの「考」は中国語では「受験」の意味であり、一般的には、生徒受験言語は、就学学校の授業言語と一致する。しかし、生徒は、学校教育の異なる段階においては、違う種類の学校に就学することが可能である。ゆえに、本研究では、生徒の新疆クラス入学試験を受けたときの受験言語によって判断を行う。

## 4.2 内地新疆クラス

### 4.2.1 内地高校クラス

内地高校クラスは、1980年代から実施されている特別な教育的アプローチである。具体的には、新疆、チベット、青海からの生徒を、内地にある経済的、教育的に発展した都市部の学校に入学させる少数民族教育の形式である。

その目的は、民族地域の学生が内地の質の高い教育資源を享受し、才能を伸ばせるようにすることである。同時に、少数民族地域の学生が内地で学習し、内地の生徒や教師と一緒に暮らすことにより、中華民族への帰属意識を強めることも期待されている。

1985年から、チベット族を主体とするチベットの小学卒業生を中国内地に行かせることにより、「内地チベットクラス」が始められた。

2000年には、「チベットクラス」に続き、中国政府は、北京、上海、天津、広州、杭州、大連、青島、寧波、南京を始めとする12の都市の高校において、「新疆クラス」を設けた。

### 4.2.2 内地新疆クラス

#### 4.2.2.1 「新疆クラス」とは

「新疆クラス」とは、新疆ウイグル自治区の諸民族の生徒を、教育のより発展した地区で教育することを目的とし、新疆の各民族の農民や牧畜民家庭の子どもを中国東

部に「留学」させ、非民族学校で寄宿させるプログラムである。中央政府においてそれは、新疆の発展を支え、国家の安定や民族団結を守り、民族地域の人材育成を促進するための重要な戦略であると考えられている。

この「新疆クラス」は、教育部などの部門が1999年に公布した『少数民族地区の人材養成活動のさらなる強化に関する意見の通知』に従い、2000年9月に、北京、上海、天津、南京など12の都市の高等学校に設置された。

新疆クラスの設置以降、その規模は拡大しつつあり、2015年までに全国45都市の93校に設置された。そして募集人数も引き続き拡大し、最初の毎年1,000人（2000年）から、9,880人（2015年とそれ以降）までに増えていた。高校卒業後の進学率は98%強であった<sup>57</sup>。

よりよい教育環境を体験できるだけでなく、生徒の学習費用、生活費（食費、装備費用、服装費用、休日の活動費、雑費用など）、医療費用などは政府が負担する<sup>58</sup>ため、貧困世帯の子どもにとっては大切な進学機会である。そのため、競って入学したい少数民族生徒は実に多く、新疆クラスの入学試験の倍率は50倍に達するほどである（アイトラ、2015、p.64）。

毎年の募集計画では、少数民族の農民や牧畜民の子どもたちが総募集人数の8割以上を占める。同時に、漢族の農民や牧夫の子どもたちも募集対象とされ、全体の1割を占める<sup>59</sup>。少数民族の割合は、原則として、少数民族の人口比に従って決定される。同等の条件であれば、発展が遅い地域の少数民族生徒や女子生徒を優先する。また、2015年の募集計画では、各地域の生徒は言語別にそれぞれ分けられ、「民考民」20%+「民考漢」43%+「漢考民」37%と規定されている<sup>60</sup>。

#### 4.2.2.2 新疆クラスにおける教育と言語

教育部（2000）では、新疆クラスの募集条件の1つとして、「品行と学力の両方面において優秀であり、漢語文の成績が良好以上で、民族語能力も比較的優れた（民族

<sup>57</sup> 蔣夫爾（2015）「内地新疆班不再扩招 今后招生规模将稳定在9880人」『中国教育報』2015年6月20日第2版，中国教育部サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/jyb\\_xwfb/s5147/201506/t20150623\\_190801.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/s5147/201506/t20150623_190801.html)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>58</sup> 中国教育部办公厅（2010）「内地西藏班、内地新疆高中班管理办法」  
[http://www.moe.gov.cn/srcsite/A09/moe\\_752/201008/t20100817\\_189453.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A09/moe_752/201008/t20100817_189453.html)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>59</sup> 中国教育部・国家計画委員会・財政部・国家民族委員会（1999）「少数民族地区の人材養成活動を一層強化することに関する意見の通知」中国新疆サイト：  
[http://www.chinaxinjiang.cn/zhengcefagui/zy/2009/201409/t20140903\\_442173.htm](http://www.chinaxinjiang.cn/zhengcefagui/zy/2009/201409/t20140903_442173.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>60</sup> 「新疆ウイグル自治区2015年内地新疆クラス募集規定」中国農業大学附属中学サイト：  
[www.zgndfz.com](http://www.zgndfz.com)（2021年6月20日最終閲覧）

語や文字のない少数民族生徒に対しては、民族語は必要条件とされず、漢族農民・牧畜民の子どものうち民族語に堪能な生徒が優先される)」ことが挙げられている<sup>61</sup>。つまり、応募条件として、普通話能力だけでなく、民族語能力も求められる。

新疆クラスの修業年数は3年または4年であり<sup>62</sup>、予科段階（4年学制の1年目）においては、内地の中学校卒業生と同じ学力に達するように、普通話で漢語文、英語、理系の補習授業を受ける。2年目からは、現地の生徒（中学校卒業生）とまざって高校1年次に入る。普通話で勉強し、将来、現地の生徒と一緒に普通話で大学入試を受ける。

また、教科書に関して言えば、予科段階においては、教育部が編集した予科教材を使い、高校1年生の課程に入ると、現地の統一教材を使うことにする。新疆クラス生徒が使うこれらの教材はすべて、普通話で作成されたものであり、授業は普通話で行うことが要求される。しかし、普通話教育が強化される一方、「自民族語もしっかり学ぶ必要がある」と教育部門に要求されている為、「新疆クラスを設置する学校は、一定数の民族語の書籍と刊行物を購入して学生が授業外に読ませるようにする必要がある」<sup>63</sup>と規定されている。

---

<sup>61</sup> 中国教育部（2000）「關於内地有關城市开办新疆高中班的实施意見」中国教育新聞網サイト：[http://www.jyb.cn/zyk/jyzcfg/200605/t20060509\\_56120.html](http://www.jyb.cn/zyk/jyzcfg/200605/t20060509_56120.html)（2022年1月4日最終閲覧）

<sup>62</sup> 2000年「新疆クラス」プログラムを初めて展開したとき、教育部は修業年数を4年（予科1年を含む）と決めた。その後、教育部門は、応募者の学力および普通話能力の向上を考慮し、2012年から、入学後の成績によって、予科段階を免除するのが可能であるとした。以降、2019年、予科制度を廃止し、修業年数が普通の高校学制と同様のもとなった。つまり、2019年またはそれ以降に入学する新疆クラスの生徒には、3年の学制が適用され、現地の中学卒業生と同じ時期に大学に入学できる。

<sup>63</sup> 中国教育部・国家計画委員会・財政部・国家民族委員会（1999）「少数民族地区の人材養成活動を一層強化することに関する意見の通知」中国新疆サイト：[http://www.chinaxinjiang.cn/zhengcefagui/zy/2009/201409/t20140903\\_442173.htm](http://www.chinaxinjiang.cn/zhengcefagui/zy/2009/201409/t20140903_442173.htm)（2022年1月4日最終閲覧）

## 第五章 「内地新疆クラス」における教育実態—現地調査

### 5.1 調査概要

#### (1)調査概要

2020年10月から11月、ならびに2021年9月の2度にわたり、北京市の高校に設置された「内地新疆クラス」を訪問し、非参与観察、質問紙調査と半構造化インタビュー調査を行った。

まず新疆クラスの生徒を対象に、質問紙調査を行った。少数民族と漢族の生徒、教師と学校の管理者の話聞き、非参与観察を行い、新疆クラス生徒の言語使用現状を多角的に捉え、各民族の生徒と教員および生徒間の言語使用状況や生徒の言語意識について考察した。なお、質問紙調査とインタビュー調査は、いずれも普通話を用い、実施した。

#### (2)調査の目的

調査の目的は、複数の言語能力を持ち、かつ日常的にそれらの言語を用いている少数民族地域出身の生徒の日常生活における言語使用、ならびに彼らが各言語に対し抱く意識、また、学校教育や周りの社会言語環境が彼らの言語意識に与える影響を明らかにすることである。

これを通じて、少数民族教育における、生徒の言語使用状況や言語意識、存在する課題等の解明を試みる。

#### (3)調査対象の選定

##### ①北京市新疆クラス

本研究では北京を例として取り上げ、新疆クラス生徒の言語能力、言語使用と言語意識を考察する。理由は以下のとおりである。

①豊かな教育資源。中国の首都である北京は、中国の政治、文化、科学技術、国際交流の中心地であり、最も多くの教育資源を有する都市の1つである。

②新疆クラス設置の歴史が長いこと。北京は、最初に新疆クラスを設置した都市の1つであり、2000年における新疆クラスの開校以来、21年におよぶ歴史を有する。

北京において、新疆クラスを設置している学校は11の区に分散しており、統計によると、2017年における新疆クラスの在学生徒数は4,340人に達している（張・陳, 2017, p.3）。また張・陳(2017, p.3)は「北京市は教育、管理方法を絶えず革新し、全国における新疆クラスのリーダーになり、学ぶ価値のある良い結果を達成した」と評価している。

③社会言語環境。普通話北京語音を標準音とするため、北京市の現代口語に比較

的近似している。したがって、地域方言が目立つ都市に比べて、北京の社会言語環境は普通話の環境に近く、普通話の学習と応用に有利である。同時に、国際的な大都市である北京では、英語やその他の外国語と接触する機会が比較的に多いため、新疆クラスの生徒の言語意識を高めることに役立つと考えられる。

## ②調査対象

新疆クラスの生徒は、新疆ウイグル自治区のさまざまな地域から来ており、さまざまな民族に属している。言語的背景に関しては、「民考民」、「民考漢」、「漢考民」と「漢考漢」の生徒もいる。また、新疆クラスを設置する11校があり、そのうち4校が「民考民」の生徒を募集する。

したがって、サンプルの多様性を確保するため、本調査では「民考民」、「民考漢」とともに新疆の漢族生徒をも募集対象とするL校を調査対象とする。

L校においては、10以上の民族の生徒が1つのキャンパスに集まっている。教員もそれぞれ異なる民族に属する。

本調査は新疆クラスの生徒だけでなく、同校の生徒、学校の教員や管理職をも対象としてインタビュー調査を行い、キャンパスと周りの町で非参与観察を行った。

## 5.2 非参与観察

**観察現場：**北京市L高校（キャンパス、教育棟、教室、食堂、学生寮）とキャンパス外のパブリックスペース（デパート、道路、公園）

**実施時間：**2021年9月

**観察内容：**①学校教育におけるフォーマルなカリキュラム、キャンパス環境、②新疆クラス生徒の言語使用や言語能力（授業中と放課後）

**観察結果：**

### (1)学校教育

#### ①言語環境と授業言語

L高校の教員は、少数民族であることに関わらず、すべて漢語（漢語方言を含む）の母語話者で、普通話に堪能<sup>64</sup>である。授業用の教科書と授業言語は普通話となっている。

#### ②キャンパス環境

キャンパス全体を観察したところ、学校側は「新疆クラス」を学校の文化教育や民族団結教育の特長と見なし、キャンパス内の展示欄にも、廊下の黒板にも、新疆クラスに関わる内容を多く展示している。また、教室外の壁に、当該クラスの新疆生徒が

<sup>64</sup> 中国の教員資格制度により、教員には「普通話水準試験」のテストにおける2級およびそれ以上のレベルに合格することが求められている。

手書きで書いた作文と絵が展示されている。新疆クラスの生徒を励ますよう、工夫していることが分かる。

## (2)言語使用

新疆クラス生徒は、民考民と民考漢を問わず、新疆クラスのクラスメートと交流し、一緒に行動していることが観察された。これに対して、内地生徒とのコミュニケーション活動が少ない。

民考民の生徒は授業中に普通話を使っている一方、放課後、自民族の生徒同士と話すときには民族語を使う割合が高い。例えば、ハラル食堂では、民考民の生徒同士が集まって民族語で話しながら食事をしているところが頻繁に観察された。また、外出<sup>65</sup>の時、新疆クラスの生徒は一緒にデパートへ行くことが多い。学校からデパートへ行く途中では、ほぼ全員がウイグル語を話していたが、デパートに入ると、民族同士における会話も普通話と民族語併用のものになるのがほとんどであった。言語を変える主な理由としては、最新の販売商品の多くに、ウイグル語に対応する語彙がないことが考えられる。

一方、民考漢の生徒は、教室内外を問わず、話し相手の民族に関係なく、ほとんどが普通話と話しており、学生食堂で並んでいる時も、ほぼ全員が普通話で会話をしていた。

## (3)言語能力

口頭表現能力について、授業中の質問応答やディスカッションにおける言語使用から判断すると、全員の生徒は教員の話を理解できるが、口頭表現能力においては、個人差が大きい。例えば、普通話が上手な新疆クラスの生徒は、文法、発音、流暢さなど各側面から見ても、非母語話者であると判断することができず、北京出身の生徒との相違を認めることができない。これに対して、先生からの質問に回答できない子もいる。ただし、それらのすべてが言語能力によるのではなく、知識の欠如のためであるとも思われる。

読解能力、書記表現能力を観察するために、新疆クラスを担当する教員から、新疆の生徒が提出した課題を見せてもらったところ、手書きの漢字の字体や字形が非常に綺麗な課題がかなり多いが、誤字も少なくない。それは新疆クラスの生徒が漢字を学ぶ時の共通の困難点であると担当教員は証言した。これについては5.4インタビュー調査の節で詳しく説明する。

---

<sup>65</sup> 学校の管理規則により、週末には、新疆クラスの生徒はキャンパスを出て、学校の近くで自由活動をすることができる。

## 5.3 質問紙調査

### 5.3.1 調査概要

質問紙調査については、2021年9月に、北京市の新疆クラスからの計100名の生徒に本研究の趣旨と内容を説明し、調査への協力を依頼した。調査実施に伴う配慮として、個人情報や個々の回答内容等は、いっさい公表しないことを説明した。調査の結果、予備調査の30部の有効回答と本調査の計70部の有効回答を得た。質問紙への回答には、おおよそ30-40分の時間がかかった。

質問紙調査の協力者である生徒の母語はそれぞれ異なるが、CEFRの評価基準を参考に判断すると、彼らの普通話能力はB2-C2くらいに達するため、被調査者の言語能力を配慮したうえで、普通話で作成された質問紙を配布した。

調査内容は以下となる。①基本情報：民族、性別、出身地、②言語学習経歴、③言語能力（CEFR自己評価表を参照して作成）、④言語使用、⑤言語意識。

調査項目の設定にあたっては、民族間コミュニケーションに関する内容も含まれていたが、その部分は本稿の趣旨にあわないため、調査結果に影響がない範囲で割愛した。

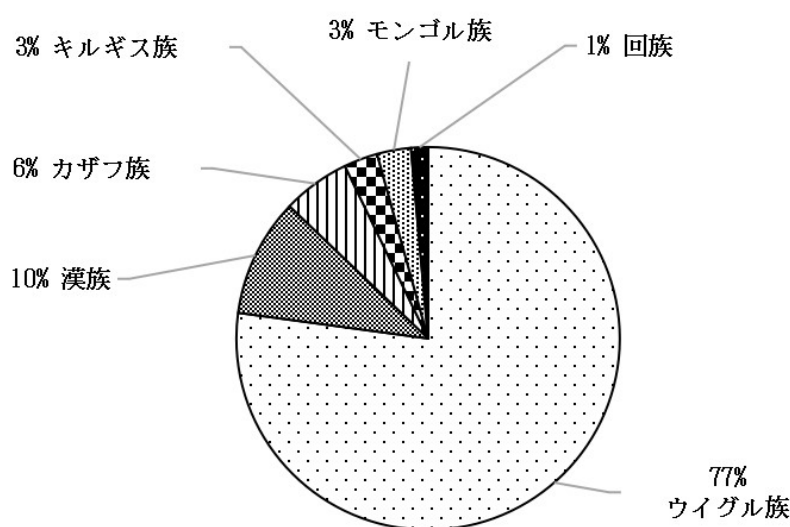
（質問紙の詳細については付録1、付録2、付録3を参照されたい）

### 調査協力者の基本情報

調査協力者は全員、新疆ウイグル自治区で育てられ、中学卒業後に新疆クラスに入り、現在、北京市の高校に在籍している者。具体的な構成は以下の通りである。

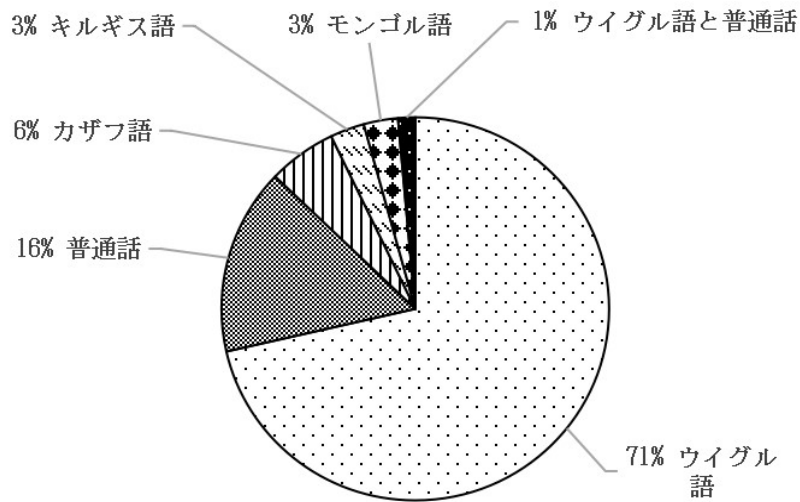
#### ①民族構成

図5-1 協力者の民族構成



②母語別

図5-2 協力者の母語別



③性別：男性 24 人、女性 46 人<sup>66</sup>；

④学年：1 年生 10 人、2 年生 18 人、3 年生 42 人；

⑤家族の居住地：都市 36 人、農村 34 人；少数民族集住地域 33 人、漢族集住地域 4 人、少数民族と漢族の混住地域 33 人；

⑥学校教育歴（言語教育歴によって分けられる）

表 5-1 調査協力者の学校教育歴（回答者 70 人）

教育歴	学校（クラス）の種類	小学校時代 （人）	中学校時代 （人）
民考民	伝統的な双語クラス （民族語で教科を教え、普通話をつ一つの科目とする）	22 (31.4%)	21 (30.0%)
	民族語普通クラス （すべて民族語で教える）	11 (15.7%)	3 (4.3%)
民考民 / 民考漢 <sup>67</sup>	民族語実験クラス （一部の科目は民族語で教え、一部の科目は普通話で教える）	2 (2.9%)	6 (8.6%)
民考漢	漢語クラス （すべて普通話で教える）	7 (10.0%)	10 (14.3%)
	伝統的な漢語クラス （普通話で教科を教え、民族語をつ一つの科目とする）	28 (40.0%)	30 (42.9%)

注：表中の記号（%）は、該当グループにおいて占めている比率を表す（以下同様）。

<sup>66</sup> 調査対象地域の新疆クラス全体の男女構成比率と一致する

<sup>67</sup> 民族語実験クラスの生徒は、授業言語ではなく、生徒の入試言語によって「民考民」と「民考漢」に分類される。馬（2008c, p. 31）によると、9 割以上の「民族語実験クラス」生徒が入学試験を受ける時、民考漢として受験することを選ぶ。



⑦入学した時点での登録情報によって分類すると、調査協力者の中には、民考民 41 人 (68.57%)、民考漢 22 人 (31.43%)、漢考漢 7 人 (10.00%) がいる。

調査協力者の民族、母語、性別、学年、家族の居住地、教育歴はそれぞれ異なるが、本稿では協力者の民族や言語学習歴の違いに焦点を当てて分析するため、主として調査協力者を少数民族と漢族とに分類するとともに、入学した時点での登録情報に基づいて、少数民族生徒をさらに「民考民」と「民考漢」に分けて考察を行う。

### 内地新疆クラスに入学した理由

表 5-2 内地新疆クラスに入学した理由 (回答者 70 人)

理 由	生 徒		親	
	人数 (70 人)	比率 (%)	人数 (16 人)	比率 (%)
A. 内地の教育環境が良く、教員の質が高いことが、学業を進めるに有利であるため。	60	85.7	11	68.8
B. より発展した地域で勉強して生活することで、視野を広げ、総合的な能力を向上させたいため。	59	84.3	10	62.5
C. 内地の言語環境が普通話の向上に役立つため。	23	32.9	2	12.5
D. 特別な進学制度が進学に有利であるため。	8	11.4	4	25.0
E. 内地で異なる文化を体験したいため。	27	38.6	2	12.5
F. 内地の人々と交流し、友達になりたいため。	26	37.1	1	6.3
G. よりよい教育を受け、新疆に戻り故郷を発展させたいため。	40	57.1	7	43.8
H. 両親の希望があったため。	8	11.4	—	—

注：「I. その他」の横線に記入された内容が選択肢 (A-H) の内容と重なっていたため、統計を行わない。

表 5-2 から、以下の 3 点が判明した。

①上位の 3 項目には教育環境と視野の拡大、故郷の発展があげられている。

生徒の回答においても保護者の回答においても、「A. 内地の教育環境が良く、教員の質が高いことが、学業を進めるに有利であるため。」、「B. より発展した地域で勉強して生活することで、視野を広げ、包括的な能力を向上させたいため」、「よりよい教育を受け、新疆に戻り故郷を発展させたいため」という 3 つの項目が最上位に上がっている。

つまり、新疆クラスへの入学を希望する生徒と親は、少数民族地域の教育を支援し、新疆の建設者を育てるといふ、新疆クラスの政策の目標を考慮のうえで新疆クラスを希望していることが分かる。

## ②世代間のギャップ

入学理由においては、世代間のギャップも認められる。

まず、文化体験と交流を目的として、新疆クラスに入学する生徒が多い。約3分の1の生徒がそれに関わる2つの選択肢（「E. 内地で異なる文化を体験したいため」と「F. 内地の人々と交流し、友達になりたいため」）を選択した。その一方で、回答から見れば、「異文化体験」や「相互交流」のために、我が子を新疆クラスに通わせようとした親は少ない。

また、実益の観点から選択肢Dを選んだ生徒は11.43%であり、これは、選択率が最も低い。その一方で25%の親はこれを選んでおり、これは上からの第4位となっている。

以上のことから、生徒と親世代の考えは完全に一致している訳ではないことが分かる。多くの親は、教育環境や進学制度など、実益の観点から子どもが新疆クラスに入学することを望んでいる。それに対して、生徒は進学に関する優遇政策ではなく、文化体験や民族間コミュニケーションに関心を持っている。

## ③普通話学習

表5-2が示しているように、内地の言語環境が普通話の学習に役に立つということから、新疆クラスを志望する生徒と親の割合は明らかに低い。すなわち、新疆クラスへの入学を選択するにあたり、内地での普通話の学習環境はあまり大きな影響を与えない。

### 5.3.2 言語能力

本調査では、『ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）』（以下はCEFRと略記する）の自己評価表<sup>68</sup>を翻訳して作成した中国語版の言語能力自己評価表を提示し、調査対象者に自己評価を依頼した。ただし、CEFRの自己評価表においては、「仕事」に言及している箇所があり、これを本研究の調査対象者において、そのまま適用することは困難である。そのため、調査で使用した言語能力自己評価表においては、本研究の対象者が高校生であることを考慮し、原文の「仕事について」を「学習について」にするなど、一部修正を加えた箇所がある。評価項目は5技能に分けられる（1. 聞くこと、2. 読むこと、3. やり取り、4. 発表、5. 書くこと）。自己評価表の詳細については付録3を参照されたい。

<sup>68</sup> 『ヨーロッパ言語共通参照枠』の自己評価表，欧州評議会サイト：  
<https://www.coe.int/en/web/portfolio/self-assessment-grid>

以下では、言語別の言語能力の調査結果を表にまとめ、提示する。

### (1) 普通話能力

表 5-3 新疆クラス生徒の普通話能力<sup>69</sup> (回答者 68 人)

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3(4.41%)	20(29.4%)	45(66.2%)
読むこと	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3(4.41%)	8(11.8%)	15(22.1%)	42(61.8%)
やり取り	0(0.0%)	0(0.0%)	2(2.9%)	1(1.5%)	7(10.3%)	17(25.0%)	42(61.8%)
発表	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.5%)	4(5.9%)	11(16.2%)	16(23.5%)	36(48.5%)
書くこと	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.5%)	1(1.5%)	12(17.6%)	21(30.9%)	33(48.5%)

表 5-3 は新疆クラス生徒の普通話能力を示したものである。その結果を見ると、新疆クラス生徒全体の普通話能力は高い。特に、読解能力や口頭表現能力が熟練レベル (C1/C2) に達している人が大多数である。

表 5-4 漢族生徒の普通話能力 (回答者 7 人)

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	7(100.0%)
読むこと	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	7(100.0%)
やり取り	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	7(100.0%)
発表	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(14.3%)	6(85.7%)
書くこと	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(28.6%)	5(71.4%)

表 5-4 が示しているように、新疆クラスに在籍の漢族生徒の普通話能力は明らかに高く、同学年の内地の生徒の普通話能力とあまり相違ない。

<sup>69</sup> 普通話能力に関する自己評価において、A2 や B1 を選んだ生徒が何人かいるが、教員インタビューや非参与観察の結果から見れば、それは生徒たちの間に見られる、自分の言語能力を過小評価する傾向のためであると考えられる。

次に、民考民と民考漢の普通話能力を比較するため、調査結果に基づく表を以下に示す。

表 5-5 民考民の普通話能力 (回答者 41 人)

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (7.3%)	12 (29.3%)	26 (63.4%)
読むこと	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	5 (12.2%)	12 (29.3%)	23 (56.1%)
やり取り	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	4 (9.8%)	11 (26.8%)	23 (56.1%)
発表	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	2 (4.9%)	9 (22.0%)	10 (24.4%)	19 (46.3%)
書くこと	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	7 (17.1%)	14 (34.1%)	18 (43.9%)

表 5-6 民考漢の普通話能力 (回答者 20 人)

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (40.0%)	12 (60.0%)
読むこと	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (10.0%)	3 (15.0%)	3 (15.0%)	12 (60.0%)
やり取り	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (15.0%)	5 (25.0%)	12 (60.0%)
発表	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (10.0%)	2 (10.0%)	5 (25.0%)	11 (55.0%)
書くこと	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (25.0%)	5 (25.0%)	10 (50.0%)

上記の2つの表を比較すると、最上級レベルから見れば、「民考民」と「民考漢」の普通話能力には顕著な差異はないものの、民考民の平均能力は民考漢より低いのが分かる。ただし、今回の調査協力者である「民考民」の生徒は、すべて高校三年生であり、予科の1年を含めると、北京に来てから4年目を迎えた生徒である。それに対して、「民考漢」の生徒は1年生と2年生で、北京に来てから1カ月未満から、最長で1年程度が経った者にすぎない。この点も影響要素として考えれば、民考民の生徒が新疆クラスに入った時点の普通話能力は、同学年の民考漢より低いことが推測できるであろう。この点については、後節の教員に対するインタビューを通じて、改めて検証を行う。

## (2)ウイグル語能力

新疆クラス生徒全体のウイグル語能力は表 5-7 に示す。

表 5-7 新疆クラスのウイグル語能力

(回答者 68 人：ウイグル族 52 人、他の民族 16 人)

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	10(14.7%)	4(5.9%)	0(0.0%)	2(2.9%)	4(5.9%)	11(16.2%)	37(54.4%)
読むこと	16(23.5%)	1(1.5%)	3(4.4%)	6(8.8%)	8(11.8%)	8(11.8%)	26(38.2%)
やり取り	11(16.2%)	2(2.9%)	2(2.9%)	3(4.4%)	8(11.8%)	7(10.3%)	35(51.5%)
発表	12(17.6%)	2(2.9%)	3(4.4%)	3(4.4%)	7(10.3%)	5(7.4%)	36(52.9%)
書くこと	19(27.9%)	2(2.9%)	3(4.4%)	5(7.4%)	6(8.8%)	10(14.7%)	23(33.8%)

各少数民族の中で、ウイグル語を自民族語とするのは、ウイグル族のみであるため、まず、ウイグル族とその他の民族に分けて、民族別に分析を行う。次に、ウイグル族の生徒を「民考民」と「民考漢」に分け、民族教育歴の有無が生徒の民族語レベルに与える影響を検証する。

### ①ウイグル語能力における民族別

表 5-8 ウイグル族生徒のウイグル語能力 (回答者 52 人)

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.9%)	3(5.8%)	11(21.1%)	37(71.1%)
読むこと	1(1.9%)	1(1.9%)	3(5.8%)	5(9.6%)	8(15.4%)	8(15.4%)	26(50.0%)
やり取り	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.9%)	1(1.9%)	8(15.4%)	7(10.3%)	35(67.3%)
発表	0(0.0%)	0(0.0%)	2(2.9%)	2(2.9%)	7(10.3%)	5(9.6%)	36(69.2%)
書くこと	3(5.8%)	2(2.9%)	3(5.8%)	5(9.6%)	6(8.8%)	10(19.2%)	23(44.2%)

ウイグル族の生徒は、ほぼ全員が自民族語（ウイグル語）の 5 つの領域での能力を有している。特に、口頭表現能力が高い。ただし、全体から見れば、口頭表現能力が、読解能力や書記表現能力より高いことが見られる。

表 5-9 ウイグル族以外の生徒のウイグル語能力

(回答者 16 人：漢族 7 人、他の少数民族 9 人)

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	10 (62.5%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (6.25%)	1 (6.25%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
読むこと	15 (93.75%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.25%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
やり取り	11 (68.75%)	2 (12.5%)	1 (6.25%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
発表	12 (75.0%)	2 (12.5%)	1 (6.25%)	1 (6.25%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
書くこと	16 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

ウイグル族以外の生徒 16 人の中には、ウイグル語が完全にできない者が 10 人いるが、その他の 6 人(漢族 3 人、カザフ族 2 人、キルギス族 1 人)はある程度のウイグル語能力を有する。ウイグル語は新疆ウイグル自治区の公用語として、ウイグル族だけでなく漢族や他の少数民族にも使用されている。ただし、それらのウイグル語ができる他の民族の生徒は、主に口頭表現能力を身につけており、書記表現能力を持っていない。

②ウイグル語能力における民考民と民考漢の違い

表 5-10 ウイグル族民考民のウイグル語能力<sup>70</sup> (回答者 40 人)

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.0%)	8 (20.0%)	31 (77.5%)
読むこと	0 (0.0%)	1 (2.5%)	1 (2.5%)	2 (5.0%)	6 (15.0%)	8 (20.0%)	22 (55.0%)
やり取り	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (12.5%)	6 (15.0%)	29 (72.5%)
発表	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (17.5%)	3 (7.5%)	30 (75.0%)
書くこと	0 (0.0%)	1 (2.5%)	2 (5.0%)	3 (7.5%)	5 (12.5%)	10 (25.0%)	19 (47.5%)

<sup>70</sup> ウイグル語能力に関する自己評価において、A1、A2、B1 を選んだ生徒が何人かいるが、他の言語能力項目に対する評価の結果を参照すると、それらの生徒には自分の言語能力を過小評価する傾向があると考えられる。

表 5-11 ウイグル族民考漢のウイグル語能力（回答者 12 人）

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(8.3%)	2(16.7%)	3(25.0%)	6(50.0%)
読むこと	1(8.3%)	0(0.0%)	2(16.7%)	3(25.0%)	2(16.7%)	0(0.0%)	4(33.3%)
やり取り	0(0.0%)	0(0.0%)	1(8.3%)	1(8.3%)	3(25.0%)	1(8.3%)	6(50.0%)
発表	0(0.0%)	0(0.0%)	2(16.7%)	2(16.7%)	0(0.0%)	2(16.7%)	6(50.0%)
書くこと	3(25.0%)	0(0.0%)	2(16.7%)	2(16.7%)	1(8.3%)	0(0.0%)	4(33.3%)

表 5-10 から見れば、ウイグル族の民考漢の大多数は高いウイグル語能力を持ち、均衡に発達している 5 技能を持つ生徒の割合がかなり高い。

また、表 5-11 から見れば、ウイグル族の民考漢の全員はウイグル語能力を持っており、ほとんどの生徒が口頭表現能力だけでなく、読解能力と書記表現能力をも有している。

さらに、表 5-10 と表 5-11 を比較すると、ウイグル族の生徒において、民考漢より民考民の方が高いウイグル語能力を持っていることが分かる。

### (3)英語能力

表 5-12 新疆クラス生徒の英語能力（回答者 65 人）

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	0(0.0%)	15(23.1%)	26(40.0%)	18(27.7%)	4(6.2%)	2(3.1%)	0(0.0%)
読むこと	0(0.0%)	11(16.9%)	27(41.5%)	23(35.4%)	2(3.1%)	1(1.5%)	1(1.5%)
やり取り	1(1.5%)	15(23.1%)	33(50.8%)	12(18.5%)	4(6.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
発表	2(3.1%)	17(26.2%)	29(44.6%)	16(24.6%)	1(1.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)
書くこと	0(0.0%)	18(27.7%)	25(38.5%)	17(26.2%)	4(6.2%)	1(1.5%)	0(0.0%)

表 5-12 は英語能力の結果をまとめたものである。全体から見ると、新疆クラス生徒の英語能力は同学年の内地生徒のそれより低い、学年による差異がある。

### (4)その他の言語能力

表 5-13 ウイグル族以外の少数民族生徒の自民族語能力  
(回答者 8 人:カザフ族 4 人、モンゴル族 2 人、キルギス族 2 人)

レベル 技能	0	A1	A2	B1	B2	C1	C2
聞くこと	0(0.0%)	0(0.0%)	1(12.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(12.5%)	6(75.0%)
読むこと	0(0.0%)	1(12.5%)	1(12.5%)	0(0.0%)	2(25.0%)	0(0.0%)	3(37.5%)
やり取り	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	5(62.5%)	1(12.5%)	2(25.0%)
発表	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(25.0%)	2(25.0%)	1(12.5%)	3(37.5%)
書くこと	1(12.5%)	1(12.5%)	2(25.0%)	1(12.5%)	0(0.0%)	2(25.0%)	1(12.5%)

調査では、上記の3つの言語（普通話、ウイグル語、英語）以外の言語能力について、生徒たちに自由に記述してもらい、生徒全員が自民族語能力について記入した。

表5-13に示されているように、ウイグル族以外の少数民族生徒8人は、全員が自民族語能力を有している。特に、聞く能力がレベルC2に達している者がほとんどである。そして、彼らの教育歴を調べると、8人の中で「民考民」はただ1人であり、また小学校から漢語クラス（すべての科目が普通話で教える）に通っていた生徒も1人いることが分かる。つまり、ウイグル族以外の少数民族生徒の自民族語能力は、学校教育だけではなく、家庭および社会環境を通じて身につけたものであることが分かる。

## (5)本節のまとめ

### ①自民族語能力

まず、表5-4、表5-8と表5-13を合計すると、民族に関わらず、新疆クラスの生徒全員は自民族語能力を有していることが分かった。特に、「聞く」、「やり取り」、「発表」という3領域の能力から見れば、ほぼ全員が熟練レベル（C1/C2）に達している。

また、自民族語能力に関する調査結果を見ると、「民考民」と「民考漢」の間では、読解能力と書記表現能力におけるレベルの差が観察されている。無論、この差は義務教育段階の授業言語が民族語能力に深く影響することを示すものである。

### ②ウイグル語の優越的地位

調査結果によると、ウイグル語能力を有している漢族生徒や他の少数民族生徒（カザフ族、キルギス族など）が一定の割合を占めていることが判明した。その一方、他の少数民族語を学ぶウイグル族生徒は存在しない。この結果から、普通話に加えてウイグル語も新疆ウイグル自治区における公用語や共通語として、新疆における少数民族教育、さらに新疆の社会生活に重要な位置を占めていることが検証された。

### ③言語教育歴と言語能力

普通話の能力については、漢族の方が少数民族より高い、また民考漢の方が民考民より高いという差が見られた。また、ウイグル族のウイグル語能力について、民考民の方が民考漢より高いという結果が見られた。以上からも分かるように、学校教育における授業言語は、民族生徒の言語能力に大きな影響を与える。

## 5.3.3 言語使用

本節では、言語使用について、少数民族と漢族を比較するとともに、少数民族を「民考民」と「民考漢」に分け、さらに検討を進める。



調査は以下の項目に基づき、各場面において最も該当する言語を普通話、ウイグル語、英語、または他の言語から選択するよう求めた。設定した場面項目は次のものである。

①家庭内コミュニケーション。これに関しては、親子間、兄弟間でのコミュニケーションを想定し、それぞれを過去と現在、口頭言語活動と書記言語活動に分けた。また、家族の基本情報（関係、民族、職業または学年、使用言語）も明記してもらった。

②新疆における公的な場（ショッピングモール、自宅の近く）

③北京における公的な場と私的な場（授業中、学生寮、ハラル食堂、私的交流〈同じ民族、他の少数民族〉）

④言語選択（趣味の読書、メディア、音楽、計算、日記）

以下では、調査結果を、(1)家庭内、(2)新疆における公共の場、(3)内地（キャンパス内・キャンパス外）(4)特定の活動の順に示し、検討する。

### (1)家庭内における言語使用

家庭内の言語使用に関する質問項目では、口頭言語活動と書記言語活動に分けて記入することを求めている。そして調査協力者が使用している（使用していた）言語を漏れなく記入できるように、「その他」欄を用意した。調査結果を表 5-14 に示す。

表 5-14 家庭内における言語使用（回答者 70 人）

主な使用言語 使用場面	普通話のみ		自民族語のみ		普通話と民族語		普通話と民族語と英語		普通話と英語	
	聞く・話す	読む・書く	聞く・話す	読む・書く	聞く・話す	読む・書く	聞く・話す	読む・書く	聞く・話す	読む・書く
北京に来る前、両親と話す	10 (14.3%)	19 (27.1%)	39 (55.7%)	22 (31.4%)	20 (28.6%)	11 (15.7%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)
北京に来てから、両親と話す	13 (18.6%)	22 (31.4%)	35 (50.0%)	20 (28.6%)	21 (30.0%)	11 (15.7%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)
北京に来る前、兄弟と話す	19 (27.1%)	27 (38.6%)	25 (35.7%)	11 (15.7%)	23 (32.9%)	11 (15.7%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)
北京に来てから、兄弟と話す	25 (35.7%)	25 (35.7%)	17 (24.3%)	7 (10.0%)	22 (31.4%)	11 (15.7%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

注：上記以外の組み合わせは選択されなかった。

### 考察① 民族語使用の割合

まず、家庭内におけるコミュニケーションにおいては、主として自民族語を使い、特に両親と話す場合、民族語のみを使う生徒が半数以上見られる。

その理由としては、生徒の個人的な言語使用の習慣だけでなく、話し相手としての家族の言語能力に影響されているためと考えられる。生徒の家族の情報を見ると、半数近くの親は自民族語しかできない。つまり、このような家庭において、自民族語は唯一の「共通語」である。そのため、生徒たちは両親と話するとき、民族語を使わなければならない。同じ理由で、北京に来る前後を比較してみても、両親と話するときの使用言語における変化はわずかである。

### 考察② 親と兄弟の違い

親と比べて、兄弟とコミュニケーションをする場合においては、普通話の使用率がより高い。

その原因としては、まず、前述のように、一部の親は民族語しかできないため、彼らとコミュニケーションをする時、民族語を使わなければならない状況にある。それに対して、現在の少数民族の若者はすべて学校教育を通じて普通話能力を身につけるため、同年齢の兄弟と交流するとき、普通話を使うことができる。つまり、話し相手が普通話を話せる限り、新疆クラスの生徒は普通話で話す傾向が見られる。

### 考察③ 新疆クラスに入ってからの変化

新疆クラスに入学してから、家族と連絡する時の使用言語が変わった生徒はあまり多くない。例えば、両親と話した場合の使用言語が「ウイグル語のみ」から「ウイグル語と普通話」または「普通話のみ」に転換したのは、それぞれ2人であり、「ウイグル語と普通話併用」から「普通話のみ」に転換したのが1人である。この点からも分かるように、両親との使用言語を変えた割合は僅かである。理由としては前述のように、親の言語能力に限界があったためと考えられる。

一方、内地に来てから、言語使用を調整した場合、普通話の使用頻度は上昇する傾向にある。それとともに、「民族語のみ」と回答した人数は減っている。例えば、兄弟と話した場合についてみると、6人が「自民族語」または「自民族語と普通話併用」から「普通話のみ」に使用言語を変更し、1人が「自民族語」から「普通話と自民族語併用」に変更した。

以上で論じたように、内地に来る以前と比べると、家族とのコミュニケーションでの普通話の使用率の増加が見られる。その理由として、第一に、新疆クラスの生徒や彼らの兄弟はみな、普通話学習を進めているため、普通話能力が上がっているためと

考えられる。このように、言語能力の向上はその言語の使用率の上昇に影響を与える。第二に、内地に来てから、普通話を使うことに慣れていているため、無意識に普通話を使うことになることも1つの理由であると考えられる。第三に、家庭の言語学習戦略として、意識的に普通話を使う可能性もある。つまり、家族全員が自民族語を流暢に話す一方で、兄弟の普通話学習を促進するために、兄弟間の会話において、意識的に普通話を使おうとする可能性が推測される。ただし、この点については、今後さらに検証する必要がある。

#### 考察④ 口頭での言語活動と書記言語活動

口頭言語活動に比べて、書記言語活動における普通話の使用率は明らかに高く、同時に、書記言語活動での自民族語の使用率は低い。それは、生徒自身または話し相手の読解能力と書記表現能力に制限されることが考えられる。例えば、親と比較して、兄弟と筆談をする時でのウイグル語の使用率ははるかに低い。それは、生徒自身の民族語能力の不足というよりも、親の普通話の読解能力と書記表現能力または兄弟の民族語の読解能力と書記表現能力が足りないため、あるいは兄弟の漢字の読解能力と書記表現能力が高いためと考えられる。

## (2)新疆の公共の場における言語使用

表 5-15 公共の場（新疆）における言語使用（回答者 70 人）

場所	技能	普通話のみ	自民族語のみ	普通話と自民族語	該当なし
新疆のショッピングモール	聞く・話す	39(55.7%)	10(14.3%)	20(28.6%)	1(1.4%)
	読む・書く	34(48.6%)	3(4.3%)	8(11.4%)	25(35.7%)
自宅の近くの街	聞く・話す	24(34.3%)	25(35.7%)	20(28.6%)	1(1.4%)
	読む・書く	28(40.0%)	9(12.9%)	6(8.6%)	27(38.6%)

表 5-15 が示すように、新疆の公共の場においては、普通話を使用する生徒の割合が半分を超えている。特に、ショッピングモールのような都市部における公共の場において、普通話だけを使っていた生徒は大半を占めているのに対し、民族語のみを使っていた生徒は2割未満である。つまり、新疆においても、生徒たちの普通話の使用率は民族語使用率より高い。

また、「聞く・話す」「読む・書く」のいずれの技能に関しても「普通話のみ」が多く選ばれた「ショッピングモール」と比較し、「自宅近くの街」においては「自民族語のみ」を話すと答えた生徒が最も多い。これは、新疆の社会言語環境をある程度

反映しているであろう。すなわち、都市部においては普通話がよく通用されている一方、農村部においては民族語が重要な生活用語であると推測される。

### (3)内地における言語使用状況

表 5-16 内地における言語使用（回答者 70 人）

場所	使用言語	普通話	民族語	普通話と 民族語	普通話 と英語	普通話と 民族語と 英語
	場面					
キャン パス内	授業中のディスカッション	62(88.6%)	0(0.0%)	2(2.9%)	6(8.6%)	0(0.0%)
	学生寮	53(75.7%)	3(4.3%)	6(8.6%)	1(1.4%)	2(2.9%)
	ハラル食堂で話す	53(75.7%)	7(10.0%)	9(12.9%)	0(0.0%)	1(1.4%)
	同じ民族と話す	44(62.9%)	9(12.9%)	17(24.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	他の少数民族と話す	67(95.7%)	0(0.0%)	3(4.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
キャン パス外	同じ民族と話す	52(74.3%)	4(5.7%)	14(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	他の少数民族と話す	65(92.9%)	0(0.0%)	4(5.7%)	1(1.4%)	0(0.0%)

学校の管理規則では、教員や他の生徒との円滑なコミュニケーションのために、授業中において生徒全員が普通話で話すことが求められる。それ以外の時間や場面における言語使用に関する制限は一斉ない。このような背景を踏まえ考えると、表 5-16 における、「授業中のディスカッション」以外の場面では、言語を自由に選ぶことができる。

以下では、生徒の言語使用について、具体的な分析を行う。

#### 考察①普通話の使用

表 5-16 から見ると、話し相手の民族や場面にかかわらず、普通話のみを使う生徒の割合は、全体の 6 割以上を占めている。

一方、「キャンパス内で民族同士と話す」場合の使用言語として、「普通話のみ」を選んだ 44 人の中では、民考民が 22 人、民考漢が 14 人である。つまり民考漢だけでなく、過半数の民考民は民族同士で話すときにおいても普通話のみを使う。また、民族同士と普通話のみで話す民考漢は 63.6% を占めており、民考民より一割程度高い。

この結果は、アイネル（2017）の調査結果とは異なる。アイネルは、2013年に、2009年新疆クラスから卒業した卒業生15名を対象に、学校生活における言語使用状況について調査した。その結果、協力者は民考民と民考漢とにかかわらず、全員が民族同士と話すときはウイグル語を使うと答えた、と報告している。この点からも明らかであるように、現在の生徒の言語使用状況は12年前のそれとは大きく異なる。また、調査者の立場の違いによって、協力者からの回答が異なるという可能性があると考えられる。

### 考察②民族語の使用

「民族語のみ」を使うと答えた者は9人である。その内訳は、民考民7人（民考民の17.07%）、民考漢2人（民考漢の9.09%）である。つまり民考漢に比べて、民考民の民族語使用率がより高い傾向が見られ、それは非参与観察の結果と一致する。

### 考察③民族同士における言語使用

表 5-17 民族同士における言語使用（回答者 70 人）

使用言語 場所	普通話のみ	普通話と 自民族語	自民族語のみ
キャンパス内	44 (62.9%)	17 (24.2%)	9 (12.9%)
キャンパス外	52 (74.3%)	14 (20.0%)	4 (5.7%)

表 5-17 が示しているように、民族同士とコミュニケーションする場面においては、「キャンパス内」と比べて、「キャンパス外」で普通話を使う回答者が多い。

その理由は以下の2点が考えられる。

第一に、非参与観察の節で述べているように、日々のように変化する社会では事物が絶えず刷新され、民族語の語彙に含まれない単語も創り出される。したがって、内地社会における新しい事物について話し合うために、普通話の表現を使わなければならない場合もある。

第二に、祖力亜提（2016, p. 137）が指摘しているように、ほとんどの漢族は日常生活において、普通話ができない少数民族に出会うと、外国人と接しているように感じ、心理的距離が遠くなる。もし相手が普通話をはなせる場合、それが友好的かつ親切な行動として見られ、警戒心が弱まる。したがって、新疆クラスの少数民族生徒は内地の一般人（学校関係者以外の人々）と接触するとき、自分からの好意を示すため、民族語の使用を避けている可能性がある。

#### (4)特定の活動における主動的の言語選択

先述のように、新疆クラスの生徒のコミュニケーションにおける使用言語の選択は、会話場面による条件（相手の言語能力、社会環境など）に制限されており、言語を完全に自由に選択できているとは言えない。それに対して、1人で特定の活動をする時、彼らは自分の意志で言語を選択することができる。以下では、このような特定な場面における生徒たちの言語使用に注目し、分析を行う。

表 5-18 特定の活動における言語使用と言語選択（回答者 70 人）

活動 \ 使用言語	普通話のみ	英語のみ	自民族語のみ	普通話と英語	普通話と自民族語	普通話と英語と自民族語
一般書を読む	60(85.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	10(14.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
インターネットやテレビ番組を見る	56(80.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	9(12.9%)	2(2.9%)	3(4.3%)
音楽を聴く	20(28.6%)	2(2.9%)	1(1.4%)	28(40.0%)	6(85.7%)	13(18.6%)
日記を書く	66(94.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3(4.3%)	1(1.4%)	0(0.0%)
数字を計算する	66(94.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.4%)	2(2.9%)	1(1.4%)

表 5-18 を見ると、特定の活動において普通話を使う人が圧倒的に多く、普通話を全く使わない者はほぼいない。特に「数字を計算する」や「日記を書く」のような自主的な活動をするとき、普通話のみ使う生徒は 94.29% に及ぶ。

そして、「教科書以外の一般書を読む」と「インターネットやテレビ番組を見る」場合、普通話を使う生徒の割合は 8 割を超えている。つまり、書籍やメディアからの知識や情報を獲得したい場合には、普通話が最優先に使われる。

その理由について、以下の 3 点が考えられている。

第一に、上記の言語能力に関する調査結果によると、新疆クラス生徒の読解能力と書記表現能力において、普通話能力はより高い。つまり、新疆クラスの生徒にとっては、民族語や英語の本に比べると、普通話の本のほうがより理解しやすい。また、一部の生徒は民族語の読解能力と書記表現能力を身につけていないため、民族語によって情報を獲得することができないと考えられる。

第二に、最新情報を入手するときに、普通話の活用がより有利に働く現状がある。図書の出版状況を例にしてみると、民族語による図書の読者数は、普通話によるそれに比べ、はるかに少ない。また、そもそも出版業界において活躍する少数民族出身の人材が少ないことから、民族語による図書の出版は速度も遅く、その点数も比較的少ない（馬, 2016）。同じ理由から、民族語による UIBS 動画や番組の量も普通話によるものより低い。それに対して、普通話の読者や視聴者は、10 億人以上あり、膨

大な量の情報が日々提供され、更新される。すなわち、普通話による最新情報の入手がより容易である。

第三に、新疆クラスの生徒は、少なくとも内地に来てから、普通話で授業を受け、ふだんは普通話の本を読み、普通話で計算や記述を行っているが、これも理由の一つと考えられる。

### 5.3.4 言語意識

この節では、新疆クラス生徒の民族と言語学習歴が彼らの言語意識にどのような影響を与えるかを明らかにする。本研究では、この点の解明のために次の質問をした。

(1)民族語能力に対する認識、(2)普通話能力に対する認識、(3)言語に対する評価、(4)希望の言語環境、(5)将来の言語学習。

分析は2つの観点から行う。第1の観点は、漢族と少数民族の比較である。先の考察からも明瞭であるように、新疆クラスの生徒はみな新疆の出身であるが、各自の出身民族の違いにより、それぞれの母語の社会的地位や機能が大きく異なる。このような社会的要因が、民族語に対する生徒の意識にもたらす相違点に着目する。第2の観点は、生徒の言語学習歴に注目するものである。同じ少数民族の生徒であっても、民族語の学習歴や民族語能力には差がある。以下では、これらの相違が生徒の言語意識にどのように影響するかに着目する。

#### (1)民族語能力に対する認識

##### ①自民族語を身につける必要性

各民族の生徒の少数民族語学習に対する認識を明らかにするために、「少数民族が自民族語を身につけることの必要性について、どう思いますか」と尋ね、「とても必要である」「必要である」「どちらともいえない」「必要でない」「全く必要でない」という5つの選択肢から選択を求めた。

表 5-19 少数民族が自民族語を身につける必要性(回答者 70 人)

生徒の類型 必要程度	新疆クラス (70 人)				
	少数民族 (63 人)			漢族 (7 人)	回答者総計 (70)
	民考民 (41 人)	民考漢 (22 人)	少数民族 総計 (63 人)		
とても必要である	27 (65.9%)	9 (40.9%)	36 (57.1%)	0 (0.0%)	36 (51.4%)
必要である	13 (37.1%)	13 (59.1%)	26 (42.2%)	6 (85.7%)	32 (45.7%)
どちらともいえない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	1 (1.4%)
必要でない	1 (2.4%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)
全く必要でない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

表 5-19 のとおり、自民族語能力を身につける必要性がある（「とても必要である」または「必要である」）と回答した生徒の割合が総じて 97.1%を占めている。すなわち、民族を問わず、ほとんどの生徒は、少数民族の民族語能力の重要性を認めている。

一方、「とても必要である」を選んだのは 36 人（51.4%）であり、いずれも少数民族である。つまり、少数民族にとっての民族語の重要度の度合いが、漢族にとってのそれよりはるかに高い。

また、民考民において「とても必要である」を選んだ割合は、民考漢の割合に比べて、25%も高い。つまり、民考民の方が、民考漢より自民族語能力を重要視している。

## ②民族語能力が必要である理由

次に、「とても必要である」や「必要である」を選択した回答者に限定し、「少数民族が自民族語を身につける必要がある」と考える理由について尋ねた。その結果を、表 5-20 から見ていきたい。

表 5-20 少数民族が自民族語を身につける必要のある理由

生徒の類型 必要のある理由	新疆クラス (68 人)				
	少数民族 (62 人)			漢族 (6 人)	回答者 総計 (68 人)
	民考民 (40 人)	民考漢 (22 人)	少数民族 総計 (62 人)		
A コミュニケーションの道具	34(82.9%)	19(86.3%)	53(85.5%)	6(100.0%)	60(88.2%)
B 他の言語の習得	33(80.5%)	10(45.5%)	43(69.4%)	1(16.7%)	42(35.3%)
C 義務と責任	9(22.0%)	6(27.3%)	15(24.2%)	1(16.7%)	16(23.5%)
D 民族の象徴、民族を愛する	18(44.0%)	10(45.5%)	28(45.2%)	1(16.7%)	29(42.6%)
E 民族への帰属のしるし	9(22.0%)	6(27.3%)	15(24.2%)	2(33.3%)	17(25.0%)
F 民族文化の理解と継承	17(41.5%)	12(54.5%)	29(47.2%)	3(50.0%)	32(47.1%)
G 民族の発展	12(29.3%)	11(50.0%)	23(37.1%)	1(16.7%)	24(35.3%)
H 民族地域での就職	7(17.1%)	2(9.1%)	9(14.5%)	1(16.7%)	10(14.7%)
I その他	0(0.0%)	2(9.1%)	2(3.2%)	1(16.7%)	3(4.4%)

注：「I その他」の横線に「母語だから、自然習得（民考漢）」、「中華民族の文化的多様性を保つ（民考漢）」、「先祖への尊重（漢族）」という理由が補足的に記入された。

### 考察①道具的役割

調査結果から見ると、民族を問わず、「コミュニケーションの道具」という理由が選択率の 1 位を占め、民族語の道具的役割が最も認められている。



また、民族別に見れば、漢族生徒は全員が「コミュニケーションの道具」という選択肢を選んでおり、その比率は第2位となる「民族文化の理解と継承」の2倍である。つまり、大部分の漢族生徒は民族語学習の理由として民族語の実用性を挙げている一方で、約半数に至る漢族生徒が民族語の文化的役割を認めている。

#### 考察②歴史文化の理解と継承

半数近くの生徒が、民族語の「民族文化の理解と継承」に意義を認めていた。そして、漢族と少数民族における差があまり見られないものの、民考民の選択率は民考漢より少し低い。

#### 考察③義務より民族感情の拠り所

民族語の象徴性に関する漢族と少数民族の考えには、かなりの齟齬が見られる。「民族語は民族の象徴の1つである。民族を愛するなら、民族語を学ぶ必要がある」と思っている少数民族生徒の割合は漢族生徒の3倍に近い。一方、民考民と民考漢においては、この点に対する相違が見られない。

また、これを「C 義務と責任」や「E 民族への帰属のしるし」の選択率とを比較すれば次のことが分かる。少数民族の生徒から見れば、民族語学習は少数民族の生まれつきの責任または民族身分を表すためのしるしということよりも、民族語によって民族への愛着を表現できるのである。

社会の発展と競争のなかで、言語は民族の歴史と伝統文化の象徴であり、民族同士がお互いの共通性を承認するための重要な文化的特徴でもある。したがって、人々は自民族の歴史や文化に対する感情を民族語に委ねる(馬, 2004, p. 358)。少数民族の生徒は、自民族への感情を民族語に込めており、民族語の習得を通して民族への愛情を表している。

#### 考察④民族の発展

「民族語を習得・発展させることによってのみ、民族をより良く発展させることができる」と思っている民考漢は全体の半数を占め、民考民と漢族より明らかに多い。それは前述の「新疆クラスに入学した理由」における、項目「G. よりよい教育を受け、新疆に戻り故郷を発展させたいため」についての調査結果と一致する。それは民考漢ならではの価値観と深く関わる。この点については、後述のライフストーリーの節で詳しく説明する。

## 考察⑤言語習得における役割

民族語の習得が「他の言語の習得に役立つ」とみなす項目に関してみれば、各回答者の割合は、上から順に民考民（80.5%）、民考漢（45.5%）、漢族（16.7%）である。このように、8割の民考民は、他の言語習得における、母語としての民族語の重要性を明確に認めている。これに対し、民考漢と漢族の多くは、小さい頃から普通話を学ぶため、言語習得における民族語の重要性をあまり感じていないと推測される。

## (2)普通話能力に対する認識

### ①普通話を身につける必要性

普通話学習に対する、各民族の生徒の認識を明らかにするため、設問として、「少数民族が普通話を身につけることの必要性について、どう思いますか」と尋ね、前項と同様、5つの選択肢「とても必要である」「必要である」「どちらともいえない」「必要でない」「全く必要でない」から選択を求めた。

表 5-21 少数民族が普通話を身につける必要性（回答者 70 人）

生徒の類型 必要程度	新疆クラス（70人）				
	少数民族（63人）			漢族 （7人）	回答者 総計 （70）
	民考民 （41人）	民考漢 （22人）	少数民族 総計 （63人）		
とても必要である	34(82.9%)	19(86.4%)	53(84.1%)	5(71.4%)	58(82.9%)
必要である	6(14.6%)	3(13.6%)	9(14.3%)	2(28.6%)	11(15.7%)
どちらともいえない	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
必要でない	1(2.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.4%)
全く必要でない	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

表 5-21 が示すように、「とても必要である・必要である」と回答した生徒は、少数民族 62 人（98.4%）、漢族 7 人（100%）である。合わせて見ると、98.6%の生徒が普通話学習の必要性を認めている。特に「とても必要である」を選んだ生徒の割合は、民考民が 82.9%、民考漢が 86.4%と、いずれも高い割合を占めており、二つのグループにおいて、大差はない。また、全体的に、民族別または言語学習別における相違は小さい。

### ②普通話能力が必要である理由

次に、「とても必要である」や「必要である」を選択した回答者に限定し、「少数民族は普通話を身につける必要がある」と考える理由について、回答してもらった。

表 5-22 少数民族が普通話を身につける必要のある理由（回答者 69 人）

生徒の類型 必要のある理由	新疆クラス回答者（69 人）				
	少数民族（62 人）			漢族 （7 人）	回答者 総計 （69 人）
	民考民 （40 人）	民考漢 （22 人）	少数民族 総計 （62 人）		
A コミュニケーションの道具	40 (100.0%)	22 (100.0%)	62 (100.0%)	7 (100.0%)	69 (100.0%)
B 他の言語習得に役立つ	23 (57.5%)	9 (40.9%)	32 (51.6%)	2 (28.6%)	34 (49.2%)
C 義務と責任	20 (50.0%)	10 (45.5%)	30 (48.4%)	5 (71.4%)	35 (50.7%)
D 国の象徴、国を愛する	22 (55.0%)	7 (31.8%)	29 (46.8%)	1 (14.3%)	30 (42.9%)
E 国家への帰属のしるし	16 (40.0%)	9 (40.9%)	25 (40.3%)	3 (42.9%)	28 (43.5%)
F 中華文化の理解と継承	24 (60.0%)	19 (86.4%)	43 (69.4%)	1 (14.3%)	44 (63.8%)
G 国の発展	18 (45.0%)	12 (54.5%)	30 (48.4%)	2 (28.6%)	32 (46.4%)
H より広い地域での就職	16 (40.0%)	10 (45.5%)	26 (37.7%)	1 (14.3%)	27 (39.1%)
I その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

#### 考察①道具的役割

「コミュニケーションの道具」との回答が生徒全員に選択され、出身民族や民考民か民考漢にも関わらず、普通話の道具的役割が最も明確に認められている。

#### 考察②文化継承の機能

少数民族生徒の 69.4%が「中華民族の伝統文化と歴史を理解し、継承する」を選択したのに対し、それを認めた漢族生徒は僅か（14.3%）である。また、上から順に民考漢（86.4%）、民考民（60.0%）、漢族（14.3%）という結果から、少数民族、特に高い普通話能力を身につけている民考漢が、普通話の文化継承における機能を認めていることが分かる。

#### 考察③国民の義務

「義務と責任」を選んだ漢族生徒は 70%を越えている。一方、少数民族生徒側の選択率は 50%を下回る。また、普通話は「国家への帰属のしるし」であるという理由は、

漢族生徒が選んだ上位の3位に入る。以上を考慮すると、漢族生徒は、普通話学習が国民の義務と帰属のしるしであると考えているのに対し、少数民族生徒からすれば、普通話学習は国民の義務と帰属のしるしというより、中華民族文化を継承するためのものである。すなわち、漢族生徒が「国家への帰属」を重視するのに対し、少数民族生徒は「国家への帰属」よりも、「中華民族共同体」をより重視していることが分かる。

この点から、普通話の普及は「中華民族共同体意識を強固なものとするための効果的な方法である」という教育部（2021）の見解が、少数民族生徒からも承認されているということが、ある程度は検証された。

#### 考察④愛国心の拠り所

「国を愛する」を普通話を身につける理由とする生徒の割合は、それぞれ民考民（55.0%）、民考漢（31.8%）、漢族（14.3%）である。つまり、普通話学習が自分の愛国心を表すと考える民考民の割合は、民考漢よりも、さらには漢族よりも高い。つまり、もう1つの堪能な民族語能力を持つ民考民にとって、普通話は、コミュニケーションや他の言語習得に役立つものである一方、母国の象徴でもある。すなわち、民考民の普通話学習においては、その実用性が考慮される一方、その考慮事項に、感情的側面も一定部分が含まれる。

#### 考察⑤国の発展

民族語を学ぶ理由と同じく、言語が国や地域の発展に役立つと思っている生徒の割合は、それぞれ民考漢（54.5%）、民考民（40.0%）、漢族（14.3%）である。

### 民族語と普通話の必要性の対照

さらに、上記二つの質問項目の調査結果を対照してみると、以下の相違点があった。

#### 考察①言語を身につける必要性

民族語と比べて、普通話の必要性がより多く（「とても必要である」と「必要である」の選択率を合わせて）、より深く（「とても必要である」の選択率より）認められている。例えば、「とても必要である」を選んだ割合から見ると、民族語に対する回答者の割合は、上からの順番に民考民（65.9%）、民考漢（40.9%）、漢族（0%）である。一方、普通話に対する回答者の割合は、民考漢（86.4%）、民考民（82.9%）、漢族（71.4%）である。

また、民族語の必要性について、民考民と民考漢の考えに違いがある一方、普通話

に対する理解は、全体的に一致している。

#### 考察②義務付け

自民族語を学ぶことは少数民族の義務であると思う生徒は2割程度である。それに対して、普通話を学ぶことが国民の義務であるとする生徒は、約半数である。特に、漢族生徒は、民族語学習を少数民族の責任としてはあまり見ていない(16.7%)のに対し、普通話学習が国民の責任であると考えている生徒は、全体の71.4%を占めている。

#### 考察③歴史文化の理解と継承

民族文化継承における役割についての回答割合は、それぞれ民考漢(54.5%)、漢族(50.0%)、民考民(41.5%)であり、中華民族文化継承における役割についての回答割合は、民考漢(86.4%)、民考民(60.0%)、漢族(14.3%)である。このデータから、少数民族は、民族語に比べ、普通話の文化継承機能をより重視する一方、漢族はそうは思わないということが分かった。また、民考漢が民考民より、文化継承機能を重要視することが明らかになった。

#### 考察④普通話が就職に役に立つ

民族語が民族地域での就職に役に立つと思っている生徒が10人(14.7%)である一方、普通話がより広い地域での就職に役に立つと思っている生徒は27人(39.1%)である。つまり、民族語に比して、普通話の必要性について考える場合、就職に有利であるということが考えられる。

### (3)新疆における各言語に対する評価

設問では、「普通話、英語、ウイグル語、カザフ語、モンゴル語、キルギス語、漢語方言、ウイグル語方言」の「有用性・威信性・個人にとっての大切さ・親しみ」について、1～5の点数を付けてもらった。

表5-23は評価の平均値を示す。民族という要素の影響を回避できるように、民考民と民考漢を対照する場合に、ウイグル族の生徒を抽出して分析を行う。

表 5-23 新疆における各言語に対する評価(70 人回答)

言語	評価項目	新疆クラス					
		ウイグル族			漢族 (点)	他の少数民族 (点)	回答者 総計 (点)
		ウイグル族の 民考民 (点)	ウイグル族の 民考漢 (点)	ウイグル族 総計 (点)			
普通話	有用性	4.88	4.93	4.89	5.00	5.00	4.91
	威信性	4.80	5.00	4.85	5.00	5.00	4.89
	大切さ	4.98	5.00	4.98	5.00	5.00	4.99
	親しみ	4.70	4.64	4.69	5.00	4.78	4.73
英語	有用性	4.03	4.15	4.06	3.83	4.25	4.06
	威信性	3.84	3.50	3.76	3.00	3.88	3.70
	大切さ	4.58	4.00	4.45	3.00	3.63	4.21
	親しみ	2.84	3.00	2.88	1.67	2.63	2.73
ウイグル語	有用性	4.21	4.15	4.19	2.00	3.67	3.98
	威信性	3.89	3.46	3.78	2.60	3.00	3.64
	大切さ	4.76	4.15	4.61	1.40	3.67	4.29
	親しみ	4.82	4.69	4.79	1.80	3.67	4.88
他の民族語	有用性	2.00	1.75	1.91	1.40	3.75	2.42
	威信性	2.67	1.50	2.20	2.40	3.25	2.61
	大切さ	1.50	1.75	1.60	1.40	4.25	2.48
	親しみ	1.33	1.50	1.40	1.40	4.50	2.48

以下の結果が見られる。

第一に、「有用性」と「威信性」について、以下の順番が示される。

漢族：普通話>英語>ウイグル語>他の民族語

ウイグル族：普通話>ウイグル語>英語>他の民族語

他の少数民族：普通話>英語>他の民族語>ウイグル語

第二に、「個人にとっての大切さ」に対する、漢族とウイグル族からの評価は、上の「有用性」と「威信性」に関する結果と一致である。その一方、他の少数民族は「個人にとっての大切さ」について、「普通話>他の民族語>ウイグル語>英語」というように評価を与えた。

第三に、親しみについて、以下の結果が示される。

漢族：普通話>ウイグル語>英語>他の民族語

ウイグル族：ウイグル語>普通話>英語>他の民族語

他の少数民族：普通話>他の民族語>ウイグル語>英語

「親しみ」に対する評価は日常における言語との接触頻度と一致である。

### 考察①普通話の優位

表を一瞥すると分かるように、生徒全員は出身民族、または民考民か民考漢かに関わらず、すべての評価項目において、普通話に対して最も高い評価を与えている。この点から、すべての新疆クラスの生徒における普通話の優位を確認した。

### 考察②民族別による差異

第一に、漢族生徒は全員、普通話に対する各項目に5点をつけた。それに対して、他の言語の各項目の平均値はその他のいずれの少数民族よりはるかに低い。

第二に、普通話に対するウイグル族生徒の評価は、漢族または他の少数民族に比べて、比較的に低い。つまり、漢族とウイグル族は、自民族語に高い評価を与えるのに対し、自民族語以外のもう一つの自治区公用語に対する評価は、他の民族より低い。一方、ウイグル族生徒は英語を「個人にとっての大切さ」と「親しみ」と評価するが、これは漢族や他の少数民族より高い。例えば、英語の「個人にとっての大切さ」について、ウイグル族は、平均値4.45で点数を付けているが、漢族や他の少数民族は、それぞれ平均値3.00や3.63と評点していた。

第三に、ウイグル族以外の少数民族は、普通話に高い評価を与えるとともに、自民族語を含むウイグル語以外の民族語に対しても、高い評価を与える傾向が見られる。

### 考察③民考民と民考漢における差異

民考民に比べて民考漢は、普通話に対する各項目の評価について、より高い評価をしているものの、各項目の差は僅か ( $<0.2$ ) である。一方、民考民と民考漢の間では、ウイグル語の「威信性」と「個人にとっての大切さ」、英語の「大切さ」に対する評価において、0.5以上の差が見られ、他の民族語の威信性に対しては、さらに1.17の差が見られる。

つまり、過去の言語学習歴は、少数民族生徒の普通話への評価にあまり影響を与えないものの、民族語の威信性や英語の大切さに対する評価においては、その影響が顕著に表れている。言い換えると、社会環境に影響により、少数民族生徒全員は普通話に高い地位と実用性を認める。その一方で、民考民はそれまでの民族語教育から深い影響を受けており、民族語能力が個人にとって重要なものであると考えている。したがって、民考民は自分が上手に使える民族語に高い評価を与えるとともに、他の民族語や英語に対してもより寛容であり、それらの言語の威信性を認めやすい傾向にある。

### (4)将来の言語環境への希望

普通話学習に対する、各民族の生徒の認識を明らかにするため、設問として、「将

来、どのような言語環境で勉強・働き・生活したいですか？」と尋ね、3つの選択肢「ウイグル語」、「普通話」、「英語またはその他の外国語」から選択を求めた。

表 5-24 将来の言語環境への希望<sup>71</sup> (回答者 70 人, 複数選択可)

言語 環境	ウイグル 語	普通話	普通話とウ イグル語	外国語	普通話と 外国語	普通話と ウイグル 語と外国 語
学習環境	1 (1.43%; ウ)	43 (61.43%; ウ 29 人、漢 5 人、他 8 人)	22 (31.42%; ウ 21 人、他 1 人)	3 (4.29%; ウ 2 人、漢 1 人)	1 (1.43%; 漢)	1 (1.43%; ウ)
働き環境	0 (0.0%)	46 (65.7%; ウ 31 人、漢 6 人、他 9 人)	17 (24.29%; ウ 17 人)	3 (4.29%; ウ 3 人)	3 (4.29%; ウ 2 人、漢 1 人)	1 (1.43%; ウ)
生活環境	0 (0.0%)	26 (37.14%; ウ 12 人、漢 7 人、他 7 人)	43 (61.43%; ウ 41 人、他 2 人)	1 (1.43%; ウイグル 族)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

#### 考察①環境による相違点

ほぼ全員が、普通話または普通話と民族語の併用環境で学習し、働き、生活したいと答えている。しかし、学習と仕事の場では、普通話を使いたいと回答した者が6割以上を占めている一方、普通話とウイグル語併用の環境で生活したい少数民族が多い。

このような結果は、生徒の民族語能力と関係するものであると考えられる。生徒たちは、民族語と普通話いずれをも上手に話せるため、普通話とウイグル語併用の環境で生活することに不便を感じない。一方で、民族語の書記能力を持っていない生徒は、普通話と民族語併用の環境で学習し、働くことが難しいため、普通話環境で学習し、働くことを希望する。

#### 考察②民族別による相違点

調査において、ウイグル族以外の少数民族生徒全員は、普通話環境で勉強、就労、生活をしたいということが分かった。これは、新疆の複雑な言語環境が、彼らに多くの不便をもたらしたためではないかと推測される。ウイグル族以外の少数民族は全国社会だけでなく、新疆社会においてもマイノリティである。現実的な社会言語環境から見れば、彼らは社会コミュニケーションをとるために、他民族語である漢語または

<sup>71</sup> ウイグル族を「ウ」、漢族を「漢」、「ウイグル族以外の少数民族」を「他」と略称にする。



ウイグル語を学ぶ必要がある。よって、言語の実用性の観点から考えると、彼らにとって普通話を学ぶことは最も経済的な選択である。このような背景を踏まえ、ウイグル族以外の少数民族生徒たちは、普通話を上達させる一方、高いウイグル語能力を持っていない。したがって、彼らがウイグル語を使う環境を希望しないことは理解しやすいであろう。

### 考察③民考民と民考漢の違い

表 5-25 民考民の希望の言語環境 (回答者 41 人)

言語 環境	ウイグル 語	普通話	普通話とウ イグル語	外国語	普通話と ウイグル 語と外国 語
学習環境	0(0.0%)	23(56.1%)	16(39.0%)	1(2.4%)	1(2.4%)
働き環境	0(0.0%)	23(56.1%)	16(39.0%)	1(2.4%)	1(2.4%)
生活環境	0(0.0%)	9(22.0%)	32(78.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

表 5-26 民考漢の希望の言語環境 (回答者 22 人)

言語 環境	ウイグル 語	普通話	普通話とウ イグル語	外国語	普通話と 外国語
学習環境	1(4.5%)	14(63.6%)	6(27.3%)	1(4.5%)	0(0.0%)
働き環境	0(0.0%)	17(77.3%)	1(4.5%)	2(9.1%)	2(9.1%)
生活環境	0(0.0%)	10(45.5%)	11(50.0%)	1(4.5%)	0(0.0%)

民考民と比べて、民考漢では、普通話環境で学習、就労、生活したい者が多い傾向が見られる。特に、普通話環境で生活したいと答えた民考漢の比率は、同じように回答した民考民の2倍を超えている。

このような結果には、回答者の普通話能力が関わっていると考えられる。前述のように、民考漢の普通話能力は民考民のそれより高い。そのため、民考漢は、民考民に比べ、普通話環境へ適応し、生活することの可能性を容易に見出せていると推測される。

また社会環境の現実を考慮すると、普通話環境と普通話とウイグル語併用の環境はそれぞれ、内地社会と新疆ウイグル自治区を指すものとして捉えることができる。この点をふまえて考えると、多くの民考漢は、将来、内地での生活を希望しているということが分かった。それに対して、8割近くの民考民は、新疆に戻るつもりである。これは言語能力のほか、社会環境に対する意識にも関わると考えられる。具体的には、ライフストーリーの節で説明する。

## (6)将来の言語学習

「将来、（もっと）勉強したい言語とその理由」について、生徒に回答してもらった。形式は自由記述である。結果は表 5-27 に示す。

表 5-27 将来、（もっと）勉強したい言語とその理由

（回答者 70 人；複数回答可）

生徒の 類型 言語	少数民族（63 人）			漢族 （7 人）	総計 （70 人）	勉強したい 理由
	民考民 （42 人）	民考漢 （21 人）	少数民族 総計 （63 人）			
英語	24(57.1%)	8(38.1%)	32(50.8%)	4(57.1%)	36(51.4%)	進学、就職
普通話	5(11.9%)	3(14.3%)	10(15.9%)	2(28.6%)	12(17.1%)	交流、文化
フランス語	7(16.7%)	3(14.3%)	10(15.9%)	0(0.0%)	10(14.3)	興味、旅行
韓国語	7(16.7%)	3(14.3%)	10(15.9%)	0(0.0%)	10(14.3)	興味、才能
日本語	4(9.5%)	2(9.5%)	6(9.5%)	1(14.3)	7(10.0%)	興味、留学
ロシア語	3(7.1%)	3(14.3%)	6(9.5%)	0(0.0%)	6(8.6%)	興味、旅行
スペイン語	3(7.1%)	0(0.0%)	3(4.8%)	0(0.0%)	3(4.3%)	興味
漢語方言	1(2.4%)	1(4.8%)	2(3.2%)	0(0.0%)	2(2.9%)	才能
カザフ語	0(0.0%)	1(4.8%)	1(1.6%)	0(0.0%)	1(1.4%)	故郷を発展
ウイグル語	0(0.0%)	1(4.8%)	1(1.6%)	0(0.0%)	1(1.4%)	故郷を発展

### 考察①外国語の学習意欲が高まっている

進学や就職など実益にかかわる理由で、英語をもっと勉強したいと答えた者が圧倒的に多い。また、個人の興味や「外国へ旅行したい」という理由から、フランス語や周辺諸国の言語（韓国語、日本語、ロシア語）も人気がある。

まず、外国語学習意欲の高まりは、生徒の国際的視野を反映するものである。

そして、世界のなかで「大言語」であるフランス語が、国際語である英語と並び、生徒が選んだ言語の上位 3 位に入っていることから、依然として、言語の実用性が言語学習の重要な理由とされていることが分かった。

また社会的上昇という現実的な理由のほか、個人の興味などの理由で外国語を学びたいと考える生徒も少なくない。つまり、新疆クラスの生徒からすれば、言語学習は、実益のためだけの行動ではなく、個人的な趣味でもある。

### 考察②普通話能力の向上

コミュニケーションや文化学習のために、普通話能力をさらに向上させたいと考える生徒も少なくない。また、中国が国際社会における存在感や影響力をますます高めていることから、調査協力者の回答において、「中国語は世界中で学ばれている」と

いう理由が見られた。

このように、少数民族生徒だけでなく、漢族生徒も普通話の実用性や文化的意義を認めており、それをさらに深く学びたいと考えている生徒が多い。

### 考察③民族語学習

調査においては、1人の回族が、新疆を建設するために、ウイグル語とカザフ語を学びたいと答えた。この例を除けば、民族語をもっと学びたい者はいない。つまり、民族や言語学習歴に関わらず、自民族語に対する少数民族生徒の学習意欲は低い。裏を返せば、現在のところ、少数民族生徒からは、内地での学習や生活により、民族語を再発見し、民族語の学習意欲が上がるという傾向は見られない。そしてそれは、少数民族生徒が現在の民族語能力、民族語学習状況に、ある程度に満足しているためであると考えられる。

ここで注目に値するのは、これが、アイネル（2017）が2009年卒業した新疆クラス卒業生を対象に行った調査とは全く逆の結果となっていることである。アイネルの調査においては、協力者全員が「今後学ぶ必要性がある言語」として「自分が苦手な自らの母語」としてのウイグル語を挙げていた。2つの調査におけるこのような、明白な違いは、時代による変化を反映するものであると考えられる。前述のように、近年の中国においては、民族間の交流が盛んになっており、国内における普通話の重要性はますます高まっている。特に現代の中国の若者からすれば、普通話能力なしで生活することは非常に不便なことである。また、グローバル化に伴い、外国語の実用性が社会全体から注目を浴びている。このような現状において、普通話能力や、英語能力に代表される外国語能力を有しない少数民族出身の者は、中国社会全体はもちろん、少数民族集住地域においても、就労することが困難になり、社会的な立場を確立することが難しくなる。つまり、普通話能力や英語などの外国語能力を身につけることは、現実的に見ても少数民族生徒にとって緊要のことなのである。本調査の結果における少数民族生徒の普通話学習意欲や外国語学習意欲の高さには、このような現状が反映されていると考えられる。

## 5.4 半構造化インタビュー調査

「新疆クラス」の設置に伴い、内地の学校は単一の支配言語・文化環境から多言語・多文化環境へ移行している。学校は、文化を広める責任を負うと同時に、民族教育の拠点として新疆クラスの学生の言語使用と言語意識に直接に関係している。特に、内地の教師と生徒は新疆クラスの生徒に直接に影響を与え、教育を促進する主役である（羅，2007）。そのため、内地の教師や生徒の考え方や日常を調査する必要がある。

### (1)調査概要

2020年10月から11月、ならびに2021年9月の2度にわたり、北京市の高校に設置された「内地新疆クラス」を訪問し、半構造化インタビュー調査を行った。

具体的には、新疆クラスの卒業生（3人）、北京の教師（2人）、管理職（1人）を対象に、対面またはインターネットを利用し、半構造化インタビュー調査を行った。新疆クラス関係者の話を聞き、新疆クラス生徒の言語能力と言語使用状況、内地生徒の言語意識について考察した。なお、インタビュー調査はいずれも普通話を用い、実施した。

### (2)調査結果

#### ①言語能力における個人差

「同じクラスの生徒でも、言語能力上の差異が大きい。民考民の普通話能力は、民考漢よりかなり低く、あまり通じない生徒も何人かいる。その場合、他の生徒には通訳が必要だった」「口頭表現能力は、質問には、ほとんど答えられるが、言語への自信がないため、授業で積極的に手を挙げる人は少ない」

(B先生、主管教員)

B先生の話から、まず新疆クラス生徒の普通話能力における個人差がかなり大きいことが分かった。また、言語能力そのものよりも、自分の普通話能力上の自信のなさが彼らの言語活動に影響を与えていることが分かった。

「普通話能力や学力ともに高い少数民族生徒もいる。1人のウイグル族生徒は、入学してから、ずっと学年1位を取っている」

(Z先生、管理職)

Z先生も指摘しているように、ごく一部の少数民族生徒は、入学してから、ずっと北京の生徒よりも良い成績をとっている。このような生徒と、上記のB先生が例としてあげていた、通訳を必要とする生徒との間には明確な違いがある。

「前年度教えた民考民の中に、普通話がとても上手な生徒と下手な生徒はそれぞれ3分の1ずついた。上手な人は、『紅樓夢』などの名著を全部読み、理解でき、名著読書大会においても賞を取った。そして、地域の雑誌で作文を発表した子も何人かいた。(漢)語文が上手な子は、北京の生徒よりも成績がいい。ただし、グループワークの時、普通話の表現が出てこない場合に、民族語を併用する生徒もいる」

「新疆クラスの生徒が(漢)語文を学ぶとき、共通の困難点は古文と漢字だ。多くの生徒は素敵な内容を書けるけど、文章の誤字が多くて困っている」

(Y先生、漢語文学科教員)

漢語文の教員として、Y先生は生徒たちの普通話能力を全面的に把握している。そのようなY先生によると、同じクラス所属している生徒であっても、各自の普通話能力はそれぞれ異なる。また、全体的にみると、生徒の読解力と文章力は高いが、その一方で、漢字の書き方というような基礎知識の不足が問題点となる。

以上のような教員たちの発話によって、民考民と民考漢、または民考民内部には、普通話能力における大きな差異があることが確認できる。

## ②言語使用に関する証言

「英語の授業を除き、授業中は原則的に普通話を使うと規定されているが、放課後の言語使用に関する制限はない」

(Z先生、管理職)

この発言から、学校の管理規則においては、授業外における言語使用への制限がほぼないということが分かった。つまり、前節で観察された、生徒の言語使用状況は生徒の自主的な選択の結果である。また、学校側は生徒の民族語の使用を尊重し、生徒が民族語を使用する環境を提供していることが分かった。

また、新疆クラスの生徒の言語使用状況について、教員と内地の生徒に尋ねた。そこで、民考民生徒の言語使用について、相反する陳述が提出された。

「(民考民は)同じ民族同士でも民族語でしゃべることは少ない気がするけど、私がいるからわざわざ普通話を使うのかもしれない」

(Y先生、漢語文学科教員)

Y先生の観察によると、民考漢だけでなく、民考民でも民族同士の会話において普通話を使うのがほとんどである。それは質問紙調査の結果と一致する。つまり、大多数の新疆クラスの生徒にとっては、普通話が最も使いやすいコミュニケーションツールである。ただし、民考民の生徒は普通話の先生がいる場合意識的に普通話で話す可能性がY先生に提示される

「民考民は、急いでいる時や授業外でクラスメートに課題を説明するときはウイグル語で話すこともある」

「彼らは積極的に普通話を使い、学生寮でも普通話で話す。『普通話は寮の言語でもある』<sup>72</sup>というスローガンを寮の部屋の壁に貼っている民族生徒もいた」

(B先生、主管教員)

B先生の話によると、民考民は学校生活において、一般的に普通話で話す。普通話能力が十分でないため意味伝達が難しい場合、民族語に転換することがある。したがって、民考民の普通話の口頭能力は、民族語より低いと推測される。

また、新疆クラスの生徒は、普通話を練習するチャンスを作って、積極的に普通話を使っていることが分かった。この点から、彼らの高い普通話学習意欲が見られる。

「彼ら（民考民）は少数民族内部の会話ではウイグル語を用いて、時々普通話も混ぜていた」

(2020年卒業した内地生徒 YQGさん)

生徒YQGさんによると、民考民は民族同士の会話において、ほぼ民族語を使っている。それは上記のY先生の観察とかなり異なる。その理由には、まず、クラスや学年の違いによって生徒の言語使用習慣が異なる可能性が挙げられる。また、Y先生が言っていたように、民考民生徒は先生の前では、意識的に普通話を使っている可能性が推測される。

### ③教員と内地生徒の言語意識

民族語能力の必要性について、内地生徒は以下のように答えてくれた。

「国は多民族多言語国家だが、普通話を話すべきだ。普通話は共通語だから、彼ら（民考漢）は小学生の時から普通話を話すから、母語（民族語）によるやりとりができればよく、深く勉強する必要がない。ただし、実用のため、自民族の言語を学んだほうがいい。もちろん、両親は民族語を教えたくないなら別に（教えなくても）いい」

(2020年卒業した内地生徒 XYZさん)

このように、XYZさんは普通話の使用を国民の義務と見ている。また実用の観点から、民族語の口頭表現能力を身につけたほうがいいと思っている。

---

<sup>72</sup> 普通話の使用を強調するために、中国の学校においては、「普通話は学校の言語である」というスローガンがよく使われる。

「新疆クラスの皆さんは普通話が上手だが、新疆に戻るなら民族語の能力が必要だから、課外で自民族語を勉強した方がいい。自民族語を学ぶことは人の使命だ。言語が人の出自と帰属を表わすため、使わなくても勉強すべきだ」「新疆クラスの生徒が、自民族語を学校で続けて勉強できないのは残念だが、それは社会発展の動向だから仕方がない」

(2020年卒業した内地生徒 YXXさん)

つまり、言語の実用性と民族帰属を考えて、新疆クラスの生徒が課外で民族語を自習すべきだとする一方で、社会環境に応じ、学校で普通話を学習すべきであると主張する漢族生徒もいる。

「彼らにとって、より広い世界を見、普通話を学び、明るい将来を迎えるということは最も重要だ」

(2020年卒業した内地生徒 YQGさん)

YQGさんによれば、新疆クラスの生徒は、内地に来ることによって、視野を拡大させ、普通話能力を向上させたいと考えている。この発言からは、内地の学校における普通話教育の重要性が垣間見える。

以上で検討してきたように、内地の生徒は、民族語学習の意義について、それぞれの観点を持っている一方、少数民族は自民族語を学ぶべきであるとみなが考えていた。また、少数民族生徒に対しては、学校で普通話教育を受け、授業外で民族語を自習することが期待される。

## 5.5 卒業生が語るライフストーリー

### 5.5.1 ライフストーリー・インタビュー

人の言語意識は一時的なものではなく、これまでの人生が経験したさまざまな出来事とのつながりを持ち、一貫性のあるものである。そのため、ライフストーリーを通じて、「未来・現在・過去を包摂する全体像を得ることが必要である」(フランク, 2009, p. 92)。

新疆クラスの生徒は小さい頃から多言語環境で生活し、複数の言語と出会っている。特に少数民族の生徒は、小学校・中学校段階で普通話教育を受けるため、日常生活では自民族語のほか、普通話も使っている。日常生活においては、複数の言語や文化の間での戸惑いや葛藤が頻繁に起こる。そして、新疆クラスに入ってから内地での学習環境や生活環境は、彼らの言語使用や言語習得に影響を与える。

本節の目的は、それらの絶え間ない新しい経験が、少数民族教育を受講する生徒の

言語使用や言語意識にいかに関与するのか、そして、複数の言語使用や学習は彼らの人生や生活の中でいかに関与されるのかを考察することである。彼らのこれまでの言語能力、言語学習、言語使用などを横軸とすれば、時間という縦軸に沿って構成される言語意識もあるのではないか。それを明らかにするためにライフストーリー・インタビューの手法を採用した。

## 5.5.2 調査概要

### (1) 調査方法と内容

本研究では、ライフストーリー・インタビュー調査法を採用する。調査協力者の自由な語りを促すために、詳細な質問を事前に立てず、半構造化インタビューを実施した。調査協力者の言語能力を配慮に入れて、普通話でインタビューを行った。

インタビューは対面形式で行い、協力者の了解を得たうえで、インタビューをICレコーダーに録音した。インタビュー終了後、中国語に文字化し、訂正箇所がないかを調査協力者に確認した。そして、日本語に訳し、出来事を時間軸に並べ替え、ライフストーリーを作った。翻訳においては、意味が通じる限り、協力者の言葉を残し、直訳した。

本調査の目的は、少数民族教育を受けた人の言語意識のライフストーリーを作成することである。したがって、質問内容は、出生時から現在に至るまでのライフストーリー全般を扱っており、内容は多岐に渡ったが、主に言語学習、言語使用と言語意識の3点に焦点を当て、人生の軌跡を尋ねた。

### (2) 調査の実施

以下では、中学校まで新疆で学び、中学卒業後新疆クラスに入って内地で勉強し、さらに内地の大学に進学した新疆クラス卒業生のNさんを取り上げる。Nさんは新疆で15年以上を過ごし、内地新疆クラスのプロジェクトを通じて内地で勉強した経験がある。

Nさんのライフストーリーを取り上げる理由として、以下の3点が考えられる。まず、Nさんは普通話も民族語も上手に身につけていることである。他の調査協力者、特に民考漢の中には、自民族語の読み書き能力を持っていない者が多い。なぜNさんは二つの言語とも上手に運用できるのか、その理由を探ることに通じて、少数民族生徒が複数の言語を上手に学習する方法をより明らかにすることができる。次に、Nさんは新疆クラスの4年に加えて、大学での4年間も内地で生活したため、内地と新疆、特に新疆少数民族地域との違いを深く体験しており、多民族・多言語国家である中国の社会環境、社会言語生活をより客観的、多角的な視点から見ることができる。最後



に、Nさんは現在、教師として働いている。そのため、現在の少数民族地域の教育および生徒の言語使用について、詳しく知っており、昔と現在における変化を深く理解できると考えられる。

Nさんを対象にライフストーリー・インタビューを行ったのは2021年9月である。彼女の言語能力を配慮したうえで、普通話で話してもらった。インタビューの時間は計4時間であった。当時、調査協力者のプロフィールは表5-28のとおりである。

表5-28 調査協力者のプロフィール

協力者	性別	民族	年齢	高校卒業年	職業	就職地域	使用言語
N	女	ウイグル族	26	2014	教師	新疆	ウイグル語、普通話、英語

### 5.5.3. 調査結果

本節では、Nさんのライフストーリーを示す。特に、Nさんが少数民族教育を受けていた上で、言語能力、言語使用や言語意識の変遷、また将来の言語使用に関する考えを読み取れるように分析を行う。また、Nさんはこれまで、それぞれ身につけた言語をいつ、どこで、誰と、どのように使用してきたのかも示していく。

#### (1)就学前：ウイグル語の習得

Nさんは1995年に新疆の北部で生まれた、農村育ちである。Nさんの家族は全員ウイグル族であり、ウイグル語を母語とする。両親は普通話を学んだことがなく、ウイグル語しかできない。したがって、子どもの頃、家庭内コミュニケーションはウイグル語で行っていた。

家はウイグル族集住地域にあり、隣人はほとんどウイグル族の者である。町ではウイグル語しか聞こえなかった。周りの親戚も友達もすべてウイグル語で話していたため、普通話や他の言語を学ぶ機会はあまりなかった。

したがって、幼稚園入園するまで、Nさんはウイグル語のモノリンガルであった。

#### (2)幼稚園と小学校：漢語学校に入学、友達からウイグル語を学ぶ

##### 〈言語学習〉

Nさんの父親は公務機関の会計士であり、母親は中学校の教師であった。教育熱心な知識人家庭で育てられたNさんは、農村部のなかで比較的質の良い教育を受けていた。進学学校を選択したときについても、周りの住民と違った。前述のように、新

疆には民族語学校（民族語を主な授業言語とする学校）、漢語学校（普通話を主な授業言語とする学校）、双語学校（民族語と普通話を授業言語とする）という3種類の学校があり、どの学校に通うかは生徒や親が自由に選択できる。当時、地元の住民の中、「ウイグル語学校」に通うのがほとんどであったが、Nさんは幼稚園の頃から「漢語学校」に通って、7歳のときに家の近くの「漢語小学校」に入学した。

**筆者：なぜ漢語学校に通うことにしたの？**

N：父は公務機関で働いていて、長い目で見る人。父はウイグル語学校で勉強したから、ウイグル語しかできない。職場で他の民族の同僚や上司と話すとき、お互いに理解ができない場合が多々ある。いろんな不便があって、昇進も難しかった。だから、父はいつも「普通話ができるなら、もう郷長（行政機関の職名）になってるよ」と私に言っていた。父は普通話を学ぶことがとても重要だと思っている。

また私が小学生の時、叔父は都市部で働いていた。彼は大学時代に普通話を独学したことがあったけど、それでも漢語学校の卒業生とは違うと感じた。だからこそ、父は物事を長期的に見て、「普通話を学んだら、就職しやすくなるだろう」、「進学や就職のために、どうしても普通話を学ぶことになるだろうから、一年生の時から身につけさせよう」と思って、私を漢語学校（普通話で教える学校）に送った。私はそれは悪くないと思う。

**筆者：その時、あなた自分も漢語学校に行きたかった？**

N：そうじゃない。あの時、ずっとウイグル語学校に入りたかった！幼馴染みの皆は全員ウイグル語学校に通っていたから、漢語学校に入ると、知り合いがいなくて寂しかった。でも、いま考えると、漢語学校に入ってよかった！

**筆者：友達はどうしてウイグル語学校に入ったの？**

N：その地域には漢語小学校はあったけど、ウイグル語の中学校しかなかったのだから、漢語小学校を卒業した後の進学は難しくなった。漢語中学校がなかったから。

それに、漢語学校に入るとすれば、親と先生とのコミュニケーションも不便。普通話ができないから…ウイグル語学校だったら、先生はすべて地元の人で、誰とでも知り合いなので、話しやすい（人間関係から見て）。多くの場合、それは子どもが何語を学びたいか、親が子どもに何語を学ばせるかなどに関係ないと思う。

**筆者：ウイグル語学校に通った漢族の子もいるの？**

N：私の知り合いの中に、2人いる。

筆者：それはなぜだと思う？

N：たぶん、家の近くにウイグル語学校しかないから。特別な理由はない。

Nさんが住んでいた地域は、ウイグル族集住の農村部である。その当時の親世代（今40-60代）の中、大半が農民であり、収入が低く、平均学歴は中学校卒以下である。そのため、子どもの進学先を選ぶ時、通学時間や経済的負担が影響を与える要素と考えられた。

田舎にはウイグル語学校が多く、漢語学校が少ないという理由で「民考民」になることを選ぶ人が多い。田舎の子が漢語学校に行くことを希望するなら、新疆生産建設兵団<sup>73</sup>か都市中心部に行く必要がある。「費用が高かったよ。シャトルバスの月額料金は150元（2000年代の値段）だった。スポンサーシップ・フィー<sup>74</sup>に加えて、当時の田舎の家庭にとって、その費用は手頃なものではなかった」。

したがって、「どちらも学校なので、どこで就学しても大した違いはない」と考える親たちは、親自身の都合による基準で、子どもの学校を選んだ。子どもたちはまだ小さく、どの学校に行けばいいのかわからない。それに、「農民である親たちは、中等職業学校の卒業生が会社に就職できるかどうかさえわからなくて、どのクラスに行くべきかわからない（Nさんの語り）」ため、親たちはできる限り家の近くにある学校を選んだ。

### 〈言語能力〉

この段階で、Nの言語能力には大きな変化があった。母語のウイグル語に加え、学校では普通話や英語を学習した。

N：家が田舎なので、町にあった小学校は漢語学校だったけど、ほとんどが少数民族生徒で、うちのクラスには漢族が2人しかいなかった。回族のクラスメートは「回族のことば<sup>75</sup>」で話していた。だから、当時の私の普通話は上手じゃなかった。

その後、5年生の時、漢族地域の「漢族学校（ここでは漢族生徒を主とする学校と指す）」に転校した。そこの先生も生徒もすべて漢族で、私ただ1人がウイグル族だった。

<sup>73</sup> 現在は漢族中心の居住地となっている。

<sup>74</sup> 学校への後援費である。当時の転学制度では、転入学するために、転学先の学校に後援費用を払う必要があった。

<sup>75</sup> Nさんによると、「回族のことば」は漢語方言ではなく、彼女が全然理解できないものであったという。

漢語学校では、教科書は全部普通話（規範漢字）によって作成されたもので、授業言語も普通話であり、イマージョン教育であった。しかしながら、ウイグル族集住地域の教員たちの普通話能力は、あまり高くなかったこと、また生徒の大多数はウイグル族で、授業以外の時間はすべてウイグル語で話していたことから、漢語学校で勉強したものの、5年生までNさんの普通話はまだ初級レベルであったという。ただし、その後、漢族集住地域の学校への入学は、Nさんの言語学習の転機になった。漢族集住地域の学校は純粋な普通話環境であったため、イマージョン教育を受けたNさんの普通話能力は徐々に高まり、漢族生徒に追いつけ始めた。

また、Nさんは、学校で普通話と英語を学習していたとともに、友達から、ウイグル語の読み書きを学習していたという。それについて、Nさんに詳しく聞いた。

**筆者：なぜウイグル文字を学んでいたの？学びたかったの？**

N：ううん、小学校の頃、ウイグル語学校と比べて漢語学校の宿題がいつも少なかつたから、それが終わったら、友達の家によく遊びに行った。そのとき、彼らの宿題を見て、ウイグル文字を教えてもらった。

そのおかげで、Nさんは普通話、英語、ウイグル語という3つの言語の5技能を身につけ、授業中と授業以外の時間において、普通話とウイグル語を使い分けられるようになった。小学生段階で、普通話や英語、かつウイグル文字を学ぶ価値を感じることはなかった。地域生活の中では、普通話や英語を話せない人がほとんどであり、日常会話は全部ウイグル語で行っていたためである。

### (3)中学校時代

中学校の時、父の意見に従い、引き続き漢語学校で勉強するために、Nさんは都市部の漢族学校に進学した。

N：その時本当にウイグル語学校で学びたいと思っていた。母はその学校で働いていたし、友人もすべてその学校にいた。兵団<sup>76</sup>の学校で学ぶのはほんとにストレスが高かった。でも父はウイグル語学校に進学することを認めなかった。今考えたら、行かなくてよかった。

学校生活や都市部の社会生活においては普通話が主に使われていたため、Nさんの普通話レベルはかなり高くなっていた。弟と話す時は、普通話とウイグル語を併用し

---

<sup>76</sup> 前文紹介される「新疆生産建設兵団」の略称。

て話すように変わったという。それとともに、非少数民族地域において普通話が話せることが必要であると初めて感じていた。

そして、都市部の教育環境がよりよいことから、生徒の平均学力も比較的が高かった。このような環境に入ったNさんは、都市部学校の授業法に適応できず、かつ普通話能力が不十分であったことから、都市部の漢族生徒と比べ、成績があまり良くなかった。相対的に基礎知識が足りなかったため、授業の進度についていくことができず、困難は日に日に大きくなった。それはNさんの将来の英語能力に深く影響を与えた。

「中学校段階の英語成績はよくなく、その後もあまり上達できなかった。実際には興味があるし、就職にも必要なのに…」。

その中、中学校3年生のある日、Nさんは学校の掲示板で「新疆クラス」に関するお知らせを見て、新疆クラスに応募したいと決め、一生懸命勉強し始めた。「その時、ほんとに頑張っていた」。Nさんによると、当時の彼女は「新疆クラス」の入学試験に合格できるようにと、一日4時間しか寝ていなかった。だが、夢があったため、「全然眠くなかった」。

そのような彼女の努力は、遂に報われることとなった。中学校を卒業した夏、Nさんは新疆クラスからの合格通知を受けた。

#### (4)内地新疆クラス：普通話堪能へ

新疆クラスに入った後、Nは独自のクラスに編入された。クラスメートは全員新疆からの生徒であった。このような環境の中、Nさんはせっかく内地に来たからには、普通話能力をより一層上げたいという考えを持っており、また、その学校では普通話の使用が勧められていたため、Nさんは積極的に普通話で話すようになった。新疆クラスに在籍していた4年間、授業においてはもちろん、Nさんと新疆クラスのクラスメートは、授業外においてもほとんど普通話を用いて話していたことから、その頃にはNさんの普通話能力は大幅に伸びていた。

このように、高校の4年間、学習生活においても日常生活においても、普通話は主なコミュニケーションツールとなり、ウイグル語は親戚か昔の友人と連絡する時だけに使われていた。そして、弟の普通話能力が高まったことによって、兄弟間コミュニケーションにおける言語使用は、ウイグル語から普通話に意識しないうちに転換されていた。

ただし、このように独占的なまでの高強度の普通話使用は彼女のウイグル語能力に影響を与えなかったようだ。

N：母語は忘れないよ。高校時代は内地で就学して、一年ぶりに新疆に戻っても、ウイグル語を前のように自由に使うことができた。でも、夏休みの2カ月を経て内地に戻ったら、ときどき普通話の単語を思い出せなかったことがある。

つまり、この段階では、Nさんの普通話能力が大幅に伸びていたのと同時に、ウイグル語能力も保持できていた。

N：新疆クラスの一年目は予科で、学習のストレスはずいぶん高く、とても疲れた。でも、高校一年に入ったら緩やかになった。私はクラスの中で中間くらいのレベルになった。

その4年間、新疆クラスの生徒たちがよく頑張って、大学入試において、クラスの本科<sup>77</sup>合格率は100%に達した。

よりよい教育環境で学び、より発展した社会環境で生活できるようにと、新疆クラスの皆と同じく、Nさんは内地の大学入学を目指していた。

#### (5)内地の大学に進学：内地社会に溶け込み

望み通り内地の大学に進学したNさんは、内地の都市生活に前より上手く溶け込んでいた。大学生活において、Nさんは漢族とのより多くの接触機会を得られ、漢族のクラスメートかルームメートと一緒にショッピングをし、ご飯を食べるなどして、仲良くなっていった。この段階で知り合った漢族の友人たちとは今でも、頻りに連絡を取り合っている。親友の中で、1人のカザフ族の女の子以外は全部漢族であるという。

4年間、Nさんは内地の生活に円滑に適応できていた。特に、普通話能力がどんどん上達し、内地の漢族とほぼ同じレベルになった。それに加えて「見た目がウイグル族と似ていないため、いつも漢族と思われていた」。

また、この段階で、Nさんは普通話の背後にある広い社会を見て、それによる資料、情報を膨大な量で入手することで、言語によって違う世界を実感していた。「番組やニュースを見たい場合、文章を読みたい場合、やはり普通話のほうがいい、何でもあるから」とNさんが言った。

#### (6)新疆で就職：普通話や英語の重要性の再認識

「実は内地で就職したかった。上海で、芸能人助手の仕事に応募したが、英語能力が足りないため、落ちちゃった。すごくいい仕事なのに。英語が上手な人はみんな

<sup>77</sup> 本科とは、4年制の大学学部である。卒業生は「学士」の資格を持つ。

い生活をしている気がする」。就職の段階で、Nさんは英語学習の重要性に気付き始めた。

大学卒業後、Nさんは親の考えに従い、新疆に戻って教師として務めることにした。職場で普通話を使っているが、生徒の保護者の言語能力に応じて、ウイグル語を使う必要がある。生活の中においてもほとんど普通話を使っており、相手が普通話を話せない場合には、ウイグル語を使う。弟は現在内地の大学で勉強しており、普通話レベルが高くなったため、弟と電話やチャットをするときは普通話を使うという。また、今では同じ「民考漢」のウイグル族の彼氏ができた。彼氏とコミュニケーションをする場合、「ときどきウイグル語を使うが、ほとんど普通話を使う」という。そしてNさんは言語環境によって、言語使用を調整する。「都市部でいる時は普通話を使う。弟も。農村には少数民族が多く、（普通話の）発音が上手くできないので、ウイグル語を話す」。

**筆者：同じ民族の友人たちは何語を使っている？**

N：ウイグル族の若者は普通話で話していて、いくつかのウイグル語の単語が混ざることがある。

**筆者：それは普通話の方がより上手に使えるから？**

N：いや、ただの習慣。若者の親も含め、全員が漢語学校に通い、放課後も無意識のうちに普通話を使っているから。普通話を使う頻度が高いので、それを使うことに慣れてくる。

私が話す時も、自分が使っているのが何語なのかを意識しない。例えば、両親はウイグル語しかできないので、彼らと話す時にはウイグル語を使うのが当然だけど、たまに、ウイグル語で話しながら、無意識のうちに普通話に変わってしまうこともあった。母に注意されるまで、自分が話していたのが普通話だと気付かなかった。

気付かなかった理由について、Nさんは、「ウイグル語でも普通話でも流暢に話せるからだ」と言った。

さらに、インタビューにおけるNさんの言語表現や発音を見ると、彼女の普通話は内地出身の漢族と全然違いがなかった。Nさんの言語能力に関する自己評価の結果(下表)が示すように、Nさんの場合、最も高い言語能力を有するのは普通話である。

表 5-29 Nさん現在の言語能力（CEFRの自己評価表を参照）

言語 技能	聞く	話す	発表	読む	書く
ウイグル語	C2	C2	C2	B2	A1
普通話	C2	C2	C1	C2	C1
英語	A1	A1	A2	B1	A1

### (7)将来へ

現在、Nさんが暮らす都市の住民は、外出している際には基本的に普通話話す。ただし、中高年の方の中で、普通話が話せない方が多いため、彼らとコミュニケーションをとるには民族語での会話能力を有していることが必要である。

N：ウイグル語を学ぶのは、責任ではなく、年上の人たちとコミュニケーションをとるためだ。将来のために普通話を学ぶべきだ。普通話を学ぶのは、共通言語であることからだ。皆が普通話を使えるようになることは、とてもいいことだ。そうでなければ、社会コミュニケーションは非常に面倒になる。父はしばしば私と弟に通訳を頼む。それはとても面倒だ。

Nさんから見れば、普通話は国家で通用する言語であり、コミュニケーションのためのツールとして、学ぶ必要がある。特に、その実用的価値を最も認めている。「今暮らしている地域には、漢族が多いのに、ウイグル族の医者が少ない。普通話ができないなら、病院に行くときも面倒になる」という。

そこで、民族語がなくなってしまうという懸念があるかどうかと聞くと、心配する必要はないとの答えが返ってきた。「ウイグル語がなくなるのは不可能だ。みんなが話せるし、使っているから」。

それから民族語の継承は、親と大きく関連すると、Nさんは考える。

N：気にしない親もいる。知り合いの中に、海外に住んでいるウイグル族がいる。彼の子どもは家で英語を話し、親も英語で話す。その場合、子どもはウイグル語を話さない。私は漢語学校に通ったが、家族と会話する場合にはウイグル語を使うので、民族語をちゃんと継承している。将来、私が結婚したら、家でウイグル語を使うことを勧めたい。そうしたら、子どもが家庭内でウイグル語を学び、学校で普通話を学ぶことができる」。

N：私は自宅でウイグル語を話し、言語環境を作って、意識的に子どもに民族語



を教えたいと思う。少なくともウイグル語での口頭能力が必要だ。

**筆者：民族語の継承について心配している人はいる？**

N：「外で普通話を使うことはできるが、家に帰ったらウイグル語を使わなければならない。言葉を忘れてはいけない」と言う親もいる。それに対して、一部の親は、子どもが幼稚園や小学校に適應できるように、最初から普通話で話すことで、普通話を子どもの母語にしようとする。でも、それらの子どもはウイグル語を話すこともでき、話せない人はほとんどいない。この場合、口頭表現は問題ないが、読み書きができない。それに対して、まずウイグル語学校に通わせて民族語能力をより一層向上させてから、漢語学校に通わせるという選択をする親もいる。

また、言語能力のほか、Nさんは言語文化環境による意識上の違いに気付いた。彼女によれば、人と人の違いは民族や宗教によるものではなく、考え方のほうである。

N：高校時代の親友はそれぞれ漢族、回族、カザフ族だけど、民族によって区別することはない。誰かと付き合う時にも民族を考慮することはない。民考民は普通話が苦手なため、同じ民族の人が集まることある。民考漢は言語上の問題がないため交流する際に民族間の区別をしない。言語上の問題(障壁)がないなら、民族は関係ない。

そして、Nさんから見れば、民考民と民考漢の子が大人になったら、大きな差がある。

N：民考漢の適應性がより高く、考え方も開放的だ。ドレスアップももっと上手だ。大学時代に友達とあちこちに遊びに行っているし、とても高い適應能力があって、普通話ができるとどこへ行っても戦える気がする。しかし、民考民は内地で就職するのが難しいから、新疆に戻ることはできない。

民考民は民考漢を差別しないが、民考漢は民考民を除外することがある。例えば、私は結婚相手を探すとき、民考民を除外する。民考民が私たち(民考漢)と話しているときには、何か言い間違えるのを恐れているので、普通話を使いたがらない。でも、ずっとウイグル語でチャットするのはあまりに疲れるから、彼らとしゃべりたくなくなる。そして、民考民のほうはひと昔前のような「男性のショーヴィニズム」に浸っている気がする。結婚した友人の中で、民考漢の家庭では男性が料理をしている場合が多いが、民考民は、今でも女性が料理をしている。

思想が古い。でも、民考民が大学に進学し、民考漢ともっと接触することで変化することができる気がする。

Nさんは、日常生活における感覚や見聞、教育環境による生徒の生活習慣や考え方の違いに気付き、民考漢は「漢族っぽい」、「時代に追いついている」と感じている。

また、Nさんによると、民考民は普通話能力の自信を持たないため普通話を話したくない。「対面の場合、ウイグル語で喋っていい？」と、Nさんが民考民の知り合いに言われたことがある。その民考民はチャットをする時には普通話を使っていたが、対面になってから「発音が下手で、お前に笑われるかもしれないと心配している」ため、ウイグル語で話したいとNさんに伝えた。「実は、相手の普通話の発音で笑う人はいないだろう」と。

このように、一部の民考民は上手くない発音で相手に笑われること、または意味を伝えないことを心配し、対面で話す場合は民族語を使うことを求める。これは言語能力に対する自信と深く関わっている。

**筆者：普通話で話す、民族同士に「あの人が自分の普通話能力を誇示してるよ」と思われることある？**

N：今、普通話で話すのを「自分の高い普通話能力を誇示するためだ」と考える少数民族の人は誰もいない。皆の言語能力はとても高くて、誰もが普通話で話せるから。

少数民族の若者は民族語を継承しているとともに、社会環境の変化に応じて普通話を積極的に使っている。また、同じ民族の年上とのコミュニケーションをとるために、民族語の継承を重視している一方、普通話をもたらす良さを認めており、コミュニケーションや情報収集における便利さのほか、普通話社会における開放的で、現代的な考え方を追求している。

#### 5.5.4 考察

##### 考察① 社会言語環境による言語意識の変化

Nさんの就学前から現在に至るまでのライフストーリーを概観した結果から、言語使用・言語意識における彼女の各段階を以下のとおり示す。

表 5-30 Nさんの言語使用・言語意識における段階

段階	言語能力 (5技能を総合的に見る)	言語使用			言語意識
		学校生活 (職場)	家庭生活	社会生活	
①就学前	ウイグル語	—	ウイグル語	ウイグル語	言語の価値を感じなかった
②幼稚園と小学校	ウイグル語と普通話と英語	普通話とウイグル語	ウイグル語	ウイグル語	言語の価値を感じなかったが、興味があった
③中学校	ウイグル語と普通話と英語	普通話とウイグル語	ウイグル語	普通話とウイグル語	普通話の価値を初めて感じ、英語に興味を持ち始める
④新疆クラス(内地の高校)	普通話とウイグル語と英語	普通話	ウイグル語と普通話	普通話とウイグル語(新疆に戻る時)	普通話を上手に学びたいと思い、積極的に使っていた
⑤内地の大学	普通話とウイグル語と英語	普通話	ウイグル語と普通話	普通話とウイグル語(新疆に戻る時)	英語の重要性を感じた。普通話の実用性が最も高い
⑥新疆での就職	普通話とウイグル語と英語	普通話とウイグル語	ウイグル語と普通話	普通話とウイグル語(田舎)	普通話が就職の要件であることを体感した
⑦将来	普通話とウイグル語	普通話とウイグル語	普通話とウイグル語	普通話とウイグル語(家庭内)	普通話は必要なコミュニケーションツール、普通話の普及に賛成、民族語を口頭レベルで継承する必要がある

注：言語の順番は使用頻度による

Nさんのライフストーリーを全体的に見ると、彼女の言語意識に、いくつかの転機があることが分かる。まず、小学校5年生まで、Nさんはずっと少数民族地域の学校で在学していたため、学校環境や社会環境では、ほとんどウイグル語を使っていた。普通話を学んでも、現実的に使うチャンスはあまりなかった。したがって、彼女は普通話を学ぶ意義を感じることはなかった。以降、中学校時代、都市部の言語環境において、Nさんは普通話の実用性を初めて実感し、その価値を少し認めるようになった。

さらに、新疆クラスの入学をきっかけに、Nさんは内地の普通話イマージョン環境で生活し、普通話は最も堪能かつ最も使いたい言語になっていた。普通話がどんどん上手になると同時に、Nさんは内地の普通話生活に溶け込み、普通話による便利さや豊かな生活を全面的に体験した。そこで、Nさんは言語使用による生活の違いを深く

感じ、社会における各言語をより多角的な視点で見ることができるようになった。

このような言語使用や言語意識に変化を与えた要素は、言語能力の向上よりも、社会言語環境であると考えられる。したがって、その言語を使う社会で生活することでさえ、より全面的に認識することができるようになるであろう。

## 考察② 普通話を重要視する社会的文脈

(2)と(3)では、Nさんの父親は、Nさんの小・中段階の就学学校を漢語学校に指定した。父親が普通話を授業言語とする学校を選んだ理由は2点あると考えられる。

まず、1つ目の理由は、子どもの就職のためである。Nさんの父親は職場で普通話ができないと、リーダーや同僚とのコミュニケーションが行いにくいことを実感し、普通話を話せないという言語上の制約により、社会的上昇に不利な立場に置かれていることを認識していたため、普通話学習の重要性を認識した。我が子が引き続き社会において弱い立場に置かれることを未然に防ぐために、子どもを漢語学校で就学させたいと決心した。また、2つ目の理由は、少数民族の生徒が将来大学への進学を希望するならば、最初から普通話を学ぶことがより経済的であるということである。これは、第3章で紹介した進学制度をふまえ、それぞれの進学のルートで発生する時間的・経済的コストを考慮すると、想像に難くないことである。

そこで、知識人階層による未来予測が見られる。Nさんの父親は大卒で、行政機関で働いており、地域住民の農民たちと比べて、知識人か社会的エリートである。したがって、彼はその階層ならではの視野で物事を考え、周りの人々とは違う見解を得ていた。すなわち、当時の新疆社会において、少数民族の知識人階層は、早くから普通話学習の重要性に気づき、子どもを漢語学校に就学させていたことが分かった。それに対して、少数民族の農民たちは、日常生活において、普通話と接触することが稀であったためその実用性を感じることができず、ただ通学上の便利さを判断規準として、子どもの就学先を決めていた。

以上で述べたように、2000年代において、少数民族集住地域の住民の大多数は、言語教育の重要性を認識していなかった。一方で、普通話能力を重要視した知識人たちはその実用性を最も重視し、それを社会的上昇の手段の1つと考えていた。したがって、少数民族の知識人たちが率先して普通話学習を先導した。

## 考察③ 言語学習による考え方の変化

そして、(7)では、Nさんは民考民と民考漢の行動様式や考え方における違いを認識していることが紹介されている。ここからも分かるように、民考漢は普通話を学ぶこと、あるいは普通話が上手になることで、非少数民族地域、さらに全国において、異

文化と接触することが容易になり、異文化に対する適応力が上がっている。

それに対して、民考民は民族学校で学ぶため、漢族との接触機会は比較的に少なく、内地に行ったことが一度でもない人も多い。他文化を理解することができず、かつ自分の普通話に対して自信を持ってないため、民考民にとって、内地社会に適応することは難しい。その場合、Nさんが言った通り、大学卒業後は民族自治地方に戻らなければならないであろう。

以上で検証してきた通り、少数民族の若者にとって、普通話学習はコミュニケーションのためだけでなく、内地社会に溶け込むためのツールであり、個人の将来性を高める手段でもある。

#### 考察④ 言語がもたらす文化リソース

Nさんは言語による情報量の差によって、普通話のマスコミと図書を選ぶ傾向がある。確かに、中国社会全体を見ると、普通話の使用者は中国における文化市場の最大の作り手と受け手であり、これによって普通話による文化リソースの量は絶対的な優位を占めている。

また、普通話の前身である漢語は、漢族の何千年に渡る歴史や文化を担い、中華文化の中核を担ってきた。このように考えると、少数民族の人々が個人、民族、さらに国の発展を可能にするために、普通話によって歴史文化や先進的技術を学習することは重要である。

#### 考察⑤ 普通話と民族語とも上達させるように

前述のように、Nさんは「民考漢」として、学校教育で普通話の5技能をバランスよく身につけるとともに、生活において自民族語の5技能を身につけている。そのような言語学習モデルは、他の少数民族に参考される価値がある。

現在、普通話の実用性が中国の社会全体で認められるとともに、少数民族地域においても、普通話教育が強く推進されている。そのような社会背景においては、前述のような、民族語を主な授業言語とする教育形式は、現在の社会的要求に適応できなくなっている。したがって、少数民族生徒にとっては、学校外で民族語をよく学習することが大事であり、その学習方法についても検討すべきである。

また、Nさんは民族文字に興味を持つため、友達に頼んで民族文字を教えてもらい、その能力を身につけている。それに対して、Nさんの知り合いは、家庭内の民族語使用をあきらめて、子どもが民族語を全くできなくなっているという。つまり、民族語の将来は、少数民族の人々が民族語継承にどのような態度を持っているのかと深く関わる。特に、家庭内の言語使用によって民族語を継承することが重要である。

## 小括

本節では、内地の高校を卒業した新疆クラスの卒業生を対象にインタビューを行い、ライフストーリーを作成した。そのライフストーリーからは、新疆で受けた少数民族教育、特に内地での勉強・生活経験が、生徒たちの言語習得、言語使用および言語意識に重大な影響を与えることが明らかになった。そして、言語学習の経験、各言語の能力や言語能力への自信が少数民族生徒の言語使用と意識に大きな影響があることが分かった。

## 第5章のまとめ

本章では、少数民族教育を受けている各民族の生徒の言語使用状況と、そこにおいて各言語が果たしている役割を明らかにした。

そこでは、新疆クラス生徒の言語能力、言語使用、言語意識に対する考察を通じて、本研究で立てていた仮説についての検証を行い、以下の点を解明した。

- (1)少数民族生徒は、普通話の学習・使用に対する意識が全体的に高い。民考漢生徒と民考民生徒における普通話に対する言語意識に大きな差異は見られない。
- (2)少数民族生徒の民族語に対する言語意識は全体的に高いが、普通話を授業言語とする民考漢に比べて、民族語を授業言語とする民考民の民族語に関わる言語意識はより高い。
- (3)内地での学習、生活経験により、新疆クラス生徒の普通話の使用頻度や学習・使用意欲が上がる。
- (4)内地の環境からの刺激により、生徒の民族語の学習意欲が上がることは見られない。

また、中国の社会環境と少数民族教育が生徒の言語使用や言語意識に与える影響を解明した。社会的な文脈に基づき、普通話に対する言語意識について考察すると、普通話を重視する要因として、以下の4点が考えられる。

### ①個人の発展—進学と雇用機会

普通話を学習しない少数民族生徒は、自民族語の学習環境と評価システムのみにも属するため、将来、国内の労働市場で他の生徒と競争するのは難しくなる(馬, 2004, pp. 384-385)。このような観点から見れば、進学意志と就労意志を持つ生徒は、言語能力を立身出世の手段として認識し、普通話を自らの社会的上昇の道具として学ぶ。

### ②コミュニケーションにおける必要性

社会における経済の発展と交流の深化に伴い、少数民族の言語使用は絶えず変化

している。現在の民族地域では、普通話と民族語の併用が一般的である。また、自民族語の言語能力しか有しない者の場合、自民族の自治地域以外での社会生活（例えば、病院、ショッピングなど）において、多くの不便が生じる。さらに、内地にいる少数民族は、普通話を使わなければ生活していけない場合が多い。以上をふまえて考えると、全体として普通話の実用性が高いことは言うまでもない。

### ③言語による文化的リソース

現在中国の文化市場では、普通話が最も膨大な利用者数を獲得している。一例として、出版市場についてみると、1つの民族語による出版点数はほとんど、普通話による出版点数の100分の1にも至らない。たとえ新疆大学図書館においても、ウイグル文字の図書点数はほとんど、漢文図書点数の20分の1にも達しない（馬，2016）。したがって、普通話を学習しないと、少数民族の一部の重要なリソースへのアクセスは困難となる。以上のことから明らかであるように、より先進的で豊かな知識情報を入手するためにも、少数民族にとって普通話は重要な選択の1つである。

### ④言語による帰属意識

生徒は、普通話を「中華民族文化継承」のツールと認識し、普通話学習を通じて、「中華民族共同体」への帰属意識を涵養する。

人々の言語使用は社会的価値観に大きく依存し、ある言語の地位は時代とともに流動しうる。世代によって、社会における各言語の機能と地位も、生徒が受ける教育の質や内容も異なる。これらの社会的要因は、生徒の言語意識に大きな影響を与える。

現在の中国社会においては、普通話の有用性と威信性が幅広く認められている。各民族の生徒たちは、普通話に高い評価を与え、それを最も重要なコミュニケーションの道具や文化継承のツールとして積極的に学習している。特に、普通話の学習によって中華民族共同体意識を涵養している。

同時に、経済・産業・文化などあらゆる分野において、国際化が進展している今、多様な人々との共存や国際協力は、更に重要性を増している。これに伴い、言語教育においても、外国語、特に英語学習の重要性がますます高まっている。

以上をふまえて考えると、普通話の普及と英語能力への重視は民族語の実用性が失われる一因となっている。一方、民族語の実用性は、依然として高い。特に民族自治地域の農村部においては、農民や年寄りをはじめ、普通話ができない者が多く存在している。このような祖父母世代と親世代とのコミュニケーションをとるために、少数民族生徒は社会生活や家庭生活において、民族語を使用し続けているため、言語保持のために特別な努力をしなくても、再びモノリンガルに戻ることはない。

## 第六章 結論

本研究では、中国の少数民族に対する言語政策および教育政策とそれらの理念を分析し、その具体的な事例として「内地新疆クラス」を取り上げ、少数民族教育を受ける生徒の言語使用と言語意識およびその形成要因を探求した。そして、多言語社会中国の言語使用状況、並びに、中国の少数民族教育における言語教育の実施状況について考察した。

第一章では、多民族多言語国家である中国の社会背景や、少数民族教育における言語使用と言語意識を調査する重要性を説明し、本研究の研究対象としての新疆クラスを紹介し、研究目的及び研究方法について述べた。

第二章では、先行研究を概観し、言語政策の角度から少数民族言語教育を分析することと、現在少数民族教育を受けている生徒の言語使用と言語意識を再検討することの必要性を明らかにした。そして、本研究において、少数民族生徒の言語使用や言語意識が何に影響され、どのような社会的背景を反映するのかについて、一層考察することという研究意義を解明した。

第三章では、「中華人民共和国憲法」「中華人民共和国民族区域自治法」「中華人民共和国通用语言文字法」「中華人民共和国教育法」など一連の法令と条例を踏まえ、中国の言語使用、少数民族教育、特に少数民族の言語教育に関する規定を検討した。そこでは、以下の三点が明らかになった。第一に、多言語国家中国においては、普通話の国の共通語として決められ、学校教育で普及されてきた。一方、民族語の権利は国家法に明文化され、民族地域において、民族語は普通話と同様、公用語の地位を付与されている。第二に、政府は普通話の普及において、円滑な社会コミュニケーションのみならず、「中華民族共同体意識」という国民意識の向上も図っている。第三に、少数民族教育において、普通話教育、ならびに普通話と民族語の双語教育が実施されていることが確認された。

第四章では、「新疆ウイグル自治区言語文字工作条例」の分析を通じ、新疆において、普通話とウイグル語のいずれも公用語としての地位を与えられていること、その一方で、普通話教育が義務化されていることが分かった。また、新疆における少数民族教育の現状について概観した。

第五章では、新疆クラスにて実施した実地調査について説明した。それを通じて、新疆クラス生徒の言語能力、言語使用と言語意識を明らかにし、またそのような言語意識の背後にある理由、特に、社会環境からの影響を確認した。具体的に、以下の課題を解明した。

第一に、生徒の言語使用状況とそれぞれの言語が果たしている役割を以下のように明らかにした。民族語の使用は、主に相手の言語能力によって制約を受け、親子にお



けるコミュニケーションと自宅の近くでのコミュニケーションにおいて使われる。内地生活において、民考民は、同じ民族同士で話す時、民族語を使う比率が高いのに対し、民考漢は主に普通話を用いる。一方、個人の特定の活動において、普通話を自発的に使う人が圧倒的に多い。つまり、少数民族生徒の言語使用において、民族語は民族同士におけるコミュニケーションに使われており、普通話は内地社会言語生活における主役として、日常コミュニケーションや特定活動に使われ、コミュニケーション機能と知識獲得機能を果たしている。

第二に、中国の社会環境と少数民族教育が生徒の言語使用や言語意識に与える影響を以下のように解明した。少数民族生徒の普通話に対する言語意識は、全体的に高い。民考漢生徒と民考民生徒との間において、大きな差異も見られない。その一方、少数民族生徒の民族語に対する言語意識は全体的に高いが、民考漢に比べて、民考民の民族語意識はより高い。そして、社会的な文脈のなかで、普通話に関わる言語意識を考察すると、生徒が普通話を重視する要因として、コミュニケーションにおける必要性、進学と雇用機会、言語による文化的リソース、また言語による帰属意識という4点が考えられる。また、少数民族教育における言語教育は、生徒の民族語に対する言語意識に影響することと、生徒の普通話に関わる言語意識にあまり影響しないことが分かった。

第三に、内地での学習、生活経験により、新疆クラス生徒の普通話の使用頻度や意欲が上がる一方、民族語の学習意欲があまり上がらない。

## 第七章 本研究の限界と今後の課題

本研究においては、次の3点の限界があった。

1つ目として、本研究では、北京市の新疆クラス生徒のみを研究対象としており、調査協力者の数が限定的であるため、研究結果を一般化することができない可能性がある。

2つ目として、本研究には学習者の民族語に対する意識と学習行動において、大きなギャップが見られる。ただし、そのギャップが生じる原因はまだ解明されていない。

3つ目として、本研究においては、自己評価の形で、言語能力に関する考察を行わせていたため、調査協力者本人が自己に対して抱く主観的評価と実際的な言語能力との間に不一致が起こっている可能性がある。特に、方言に関する能力や使用状況について、学習者が自分が使っているのが方言であるか、普通話であるかを判断する規準が主観的であるため、誤差が生じる可能性がある。

これらの点をふまえ、今後は、データ数を増やすとともに、より多角的な観点からデータを収集し、分析することで、本研究から得られた結果をさらに検証することが必要である。また、インタビュー調査を通じて、民族語に対する意識と行動との間に存在するギャップを深く探究し、その原因を明らかにすることも重要である。

また、新疆クラスに対する少数民族教育では、新疆生徒の内地言語環境への適応だけでなく、新疆生徒が持ち込んだ言語や文化に対する、内地の教員や生徒の対応も必要となる。新しい環境に入る新疆クラスの生徒たちだけでなく、「多言語社会」に入れられる内地の教師や生徒の考え方や日常のやり方をさらに調査する必要がある。

最後に、本研究によって、普通話は「中華民族共同体意識」を向上させる道具として見なされていることが分かった。そこで、その具体的な効果、特に少数民族生徒の普通話学習を通じた、中華伝統文化の学習状況を検討する必要がある。

## 参考文献

### 日本語文献 (アイウエオ順)

- アナトラ・グリジャナティ (2015) 『中国の少数民族教育政策とその実態 - 新疆ウイグル自治区における双語教育』 三元社.
- アナトラ・グリジャナティ、河野明日香 (2011) 「20 世紀中国における言語と教育 : 人々の語りにみる新疆ウイグル自治区の民族教育」『アジア太平洋レビュー』 2011 第 8 号, pp. 76-88.
- アイネル・バラティ (2017) 「新疆ウイグル自治区におけるウイグル族の言語と宗教を核とした文化継承と維持 —ウイグル族の教育状況を手掛かりとして—」. 西南学院大学 博士論文.
- 新井凜子・大谷順子 (2016) 「新疆ウイグル自治区の漢語教育に見える言語とアイデンティティの関係」『21 世紀東アジア社会学』 第 08 号, 2016, pp. 57-74, .
- 烏日嘎 (2012) 「中国の少数民族への言語教育政策 : モンゴル民族の子どもの二言語能力と言語使用に着目して」大阪大学 博士論文.
- 岡本雅享 (2008) 『中国の少数民族教育と言語政策[増補改訂版]』 社会評論社
- 大山万容 (2016) 『言語への目覚め活動 : 複言語主義に基づく授業法』 くろしお出版.
- 小川佳万 (1994) 「中国における少数民族高等教育政策—『優遇』と『統制』のメカニズム—」『比較教育学研究』 第 20 号, pp. 93-104.
- 小池生夫編集 (2003) 『応用言語学事典』 研究社.
- 格日樂 (2006) 「中国民族教育における教育自治権について—民族教育の使用言語文字と教育内容に対する自治権を中心に」『一橋法学』 第 5 卷 第 3 号, pp. 327-350.
- 金蓮淑 (2003) 「中国延辺朝鮮族における二言語教育の現状と課題について」『ニダバ』 32 号 pp. 155-164.
- 坂元一光、買蘇提・希日娜依 (2006) 「中国少数民族の言語と集団間関係の新局面 : 新疆ウルムチの「民考漢」を中心に」『九州大学大学院教育学研究紀要』 第 9 号, pp. 71-90.
- 杉戸清樹 (1992) 真田信治他 『社会言語学』 おうふう.
- 張瓊華 (1998) 「多文化教育の社会統合機能に関する実証的研究-中国における二言語教育を通して」『教育社会学研究』 第 63 号, 1998-10, pp. 157-176.
- 哈斯額爾敦 (2005) 「中国少数民族地域の民族教育政策と民族教育の問題—内モンゴル自治区の民族教育を中心に」 『多元文化』 第 5 号, 2005-03, pp. 265-280.
- 費燕 (2007) 「新疆におけるウイグル族の中国語教育、学習の現状について」(地域研究, <特集>中国における地域文化研究及び言語研究) 『成城文藝』 第 198 号, 2007-01, pp. 110-92.

付栄 (2019) 「中国における「国民統合」と「弱者救済」に関する考察 -北京における内地新疆班を事例として-」法政大学 修士論文.

福田浩子 (2007) 「複言語主義における言語意識教育:イギリスの言語意識運動の新たな可能性」『異文化コミュニケーション研究』第 19 号, pp. 101-119.

李彦及 (2012) 「中国の高校における新疆クラスの生徒募集に関する考察」『広島大学大学院教育学研究科紀要. 第三部, 教育人間科学関連領域』第 61 号, pp. 129-135.

### 中国語文献 (ピンイン順)

白英・滕星 (2015) 「民族文化伝承与双語教育発展」『思想戦線』第 2 号.

費孝通 (2018) 『中華民族多元一体格局』中央民族大学出版社 2020. 3.

費孝通 (1989) 「中華民族的多元一体格局」『北京大学学報』1989 年第 4 号, pp. 1-19.

古麗孜依帕・依卡拉斯 (2011) 「新疆班学生的国家認同与民族認同—北京潞河中学新疆班調査」, 馬戎 (2016) 『内地弃学的運行機制与社会效果—内地西藏班、新疆班專題研究』, 社会科学文献出版社, pp. 58-148.

顧明遠 (1992) 『教育大辞典』第 4 卷, 上海教育出版社.

郭友旭 (2009) 「言語權利和少数民族言語權利保障研究」中央民族大学 博士論文.

敖俊梅 (2013) 『民族教育政策文化分析—以民族予科教育政策為線』教育科学出版社.

黄伯荣・廖序東主編 (2017) 『現代漢語』, 高等教育出版社.

黄金魯克・蒋夫尔・儲召生 (2015) 「教育之光映边疆—新疆维吾尔自治区民族教育改革發展紀実」『中国教育报』2015 年 9 月 28 日.

劉艷 (2009) 「新疆内高班語言使用与語言態度調査」中央民族大学 修士學位論文.

陸小紅・張東輝主編 (2017) 『北京市内地新疆高中班混合編班教学实践与反思』民族出版社.

羅吉華 (2007) 「多元文化教育与内地新疆高中班学生的文化適應」『河池学院学報』第 27 卷 第 3 期 2007 年 6 月.

馬戎 (2004) 『民族社会学—社会学的族群關係研究』北京大学出版社.

馬戎 (2008a) 「多元一体理論: 拓展中華民族研究新視野」『中国民族報』2008 年 8 月 9 日第 004 版.

馬戎 (2008b) 「從社会学的視角思考双語教育」『雲南民族大学学報』第 1 期.

馬戎 (2008c) 「新疆民族教育的發展与双語教育的实践」『北京大学教育評論』第 6 卷 第 2 期.

馬戎 (2016) 「漢語的功能轉型、語言學習与内地弃学」, 馬戎 (主編) 『内地弃学的

- 運行機制与社会效果——内地西藏班、新疆班專題研究』, 社会科学文献出版社, pp. 1-36.
- 尼瑪頓珠 (2014) 「多元文化教育视角下的内地西藏班」北京大学 修士論文.
- 邵芹 (2018) 「内地新疆高中班学生言語使用与言語態度調查研究」中南民族大学 修士論文.
- 孫宏開ら主編 (2007) 『中国的語言』商務印書館.
- 石琳 (2017) 「語言生態視域下的方言文化保護与傳承」『中華文化論壇』, 2017年9月, pp. 140-145.
- 王鑾 (2001) 『民族教育学』甘肅教育出版.
- 肖建飛 (2010) 「語言權利研究：関与語言的法律政治学」吉林大学 博士論文.
- 嚴慶・宋遂周 (2006) 「民族教育異地弃学模式中的学生跨文化學習困難及其応対 —— 以内地西藏班、内地新疆班為例」『民族教育研究』2006年第2期 第17卷 総第73期, pp. 64-68.
- 張東輝・陳立鵬主編 (2017) 『内地高校班弃学管理經驗与案例』中央民族大学出版社.
- 張越 (2014) 「超越文化差異：M 中学内地新疆班維漢文化互動的民族誌」『教育學術月刊』2014年第11期, pp. 15-24.
- 中国社会科学院・香港城市大学編 (2012) 『中国語言地図集』商務印書館.
- 祖力亜提・司馬義 (2016) 『民族政策在新疆教育中的实践与發展』社会科学文献出版社.

#### 英語文献 (アルファベット順)

- Chen, Y. (2010). Boarding School for Uyghur Students: Speaking Uyghur as a Bonding Social Capital. *Diaspora, Indigenous, and Minority Education Studies of Migration, Integration, Equity, and Cultural Survival*. 4(1), pp. 4-16.
- Chen, Y. (2014) Towards Another Minority Educational Elite Group in Xinjiang. *Minority education in China: Balancing unity and diversity in an era of critical pluralism*. pp. 201-220.
- Donmall, B. G. (Ed.). (1985). *Language Awareness: NCLE reports and papers 6*. London: Centre for Information on Language Teaching and Research.
- Frank, Arthur W. (1995). *The Wounded Storyteller: Body, Illness, and Ethics*, The University of Chicago Press. [フランク、アーサー(著), 鈴木智之(訳) (2002) 『傷ついた物語の語り手—身体・病い・倫理』ゆみる出版].

## 参考資料

言語への目覚め学会サイト : [https://lexically.net/ala/la\\_defined.htm](https://lexically.net/ala/la_defined.htm) (2022年1月4日最後閲覧)

吳曉婧 (2010) 「什麼叫民族予科」 中国民族事務委員会サイト :

<https://www.neac.gov.cn/> (2019年4月10日最後閲覧)

蒋夫爾 (2015) 「内地新疆班不再扩招 今后招生規模將穩定在 9880 人」 『中国教育報』 2015年6月20日第2版, 教育部サイト :

[http://www.moe.gov.cn/jyb\\_xwfb/s5147/201506/t20150623\\_190801.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/s5147/201506/t20150623_190801.html) (2022年1月4日最後閲覧)

周恩来 (1956年2月6日) 「普通話を推し広めることに関する指示 (国务院关于推广普通話的指示)」 中央政府サイト :

[http://www.gov.cn/test/2005-08/02/content\\_19132.htm](http://www.gov.cn/test/2005-08/02/content_19132.htm) (2022年1月4日最後閲覧)

新疆ウイグル自治区人民代表大会 (2015) 「關於修改〈新疆維吾尔自治区語言文字工作条例〉的決定」 新疆ウイグル自治区カラマイ市人民政府サイト :

<http://www.klmyq.gov.cn/info/5246/222948.htm> (2022年1月4日最後閲覧)

中国教育部・国家計画委員会・財政部・国家民族委員会 (1999) 「少数民族地区の人材養成活動を一層強化することに関する意見の通知 (关于进一步加强少数民族地区人才培养工作意見的通知)」 中国新疆サイト :

[http://www.chinaxinjiang.cn/zhengcefagui/zy/2009/201409/t20140903\\_442173.htm](http://www.chinaxinjiang.cn/zhengcefagui/zy/2009/201409/t20140903_442173.htm) (2022年1月4日最後閲覧)

中国教育部 (2000) 「關於内地有關城市开办新疆高中班的實施意見」 中国教育新聞網 :

[http://www.jyb.cn/zyk/jyzcfg/200605/t20060509\\_56120.html](http://www.jyb.cn/zyk/jyzcfg/200605/t20060509_56120.html) (2022年1月4日最後閲覧)

中国教育部 (2002) 「少数民族教育条例 (初稿)」, 「中国少数民族教育条例」 シンポジウム

中国教育部弁公庁 (2010) 「内地西藏班、内地新疆高中班管理弁法」

[http://www.moe.gov.cn/srcsite/A09/moe\\_752/201008/t20100817\\_189453.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A09/moe_752/201008/t20100817_189453.html)  
(2022年1月4日最後閲覧)

中国教育部 (2013) 「民族中小学漢語課程標準 (義務教育)」。中央政府サイト :

[http://www.gov.cn/gzdt/2014-01/26/content\\_2575817.htm](http://www.gov.cn/gzdt/2014-01/26/content_2575817.htm) (2022年1月4日最後閲覧)

中国教育部（2021a）「中国語言文字概況（2021年版）」，中国教育部サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/jyb\\_sjzl/wenzi/202108/t20210827\\_554992.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/wenzi/202108/t20210827_554992.html)（2022年1月4日最後閲覧）

中国教育部（2021b）「教育部2021年工作要点」，中国教育部サイト：  
[http://www.moe.gov.cn/jyb\\_sjzl/moe\\_164/202102/t20210203\\_512419.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/moe_164/202102/t20210203_512419.html)  
（2022年1月4日最後閲覧）

国家中長期教育改革及び発展計画綱要グループ弁公室（2010）「国家中長期教育改革及び発展計画綱要（2012-2020年）」中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/jrzg/2010-07/29/content\\_1667143.htm](http://www.gov.cn/jrzg/2010-07/29/content_1667143.htm)（2022年1月4日最後閲覧）

中国自然資源部（2019）「中国地図」<http://www.mnr.gov.cn>（2022年1月4日最後閲覧）

中国国務院弁公庁（2020）「新時代言語と文字作業全面強化に対する意見」中央政府サイト：[http://www.gov.cn/zhengce/content/2021-11/30/content\\_5654985.htm](http://www.gov.cn/zhengce/content/2021-11/30/content_5654985.htm)  
（2022年1月4日最後閲覧）

中国国務院ニュース弁公室（2005）「中国の民族地域自治」，中央政府サイト  
[http://www.gov.cn/zwgk/2005-05/27/content\\_1585.htm](http://www.gov.cn/zwgk/2005-05/27/content_1585.htm)（2022年1月4日最後閲覧）

中国国務院ニュース弁公室（2021）『新疆の人口発展白書』により。中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content\\_5639380.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2021-09/26/content_5639380.htm)（2022年1月4日最後閲覧）

中国国家統計局・国務院第七次全国人口普查領導小組弁公室（2021）「第七次全国人口普查公報（第一号）」中央政府サイト：  
[http://www.gov.cn/guoqing/2021-05/13/content\\_5606149.htm](http://www.gov.cn/guoqing/2021-05/13/content_5606149.htm)（2022年1月4日最後閲覧）

中国国家統計局・国務院第七次全国人口普查領導小組弁公室（2021）「第七次全国人口普查公報[1]（第六号）—人口受教育情况」  
[http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/202106/t20210628\\_1818825.html](http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/202106/t20210628_1818825.html)（2022年1月4日最後閲覧）

中国自然資源部（2019）「中国地図」<http://www.mnr.gov.cn>（2022年1月4日最後閲覧）

陳立鵬（2017）「少数民族教育法研究」中国教育部全国教育科学企画グループ弁公室サイト：  
<http://onsgep.moe.edu.cn/edoas2/website7/level3.jsp?infoid=&id=1517206029281511&location=null>（2021年12月13日最後閲覧）

『ヨーロッパ言語共通参照枠』自己評価表，欧州評議会サイト：

<https://www.coe.int/en/web/portfolio/self-assessment-grid> (2022年1月4日  
最後閲覧)

「2025年全国普通話普及率達85%」『光明日報』2021年12月2日，中央政府サイト：

[http://www.gov.cn/zhengce/2021-12/02/content\\_5655369.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2021-12/02/content_5655369.htm) (2022年1月4日最  
後閲覧)

「新疆ウイグル自治区2015年内地新疆クラス募集規定(新疆維吾爾自治区2015年内  
地新疆高中班招生工作規定)」中国農業大学附属中学サイト：[www.zgndfz.com](http://www.zgndfz.com) (2021  
年6月20日最後閲覧)

中国政府サイト(2003)「新疆の歴史と発展」中央政府サイト：

[http://www.gov.cn/test/2005-07/01/content\\_11423.htm](http://www.gov.cn/test/2005-07/01/content_11423.htm) (2022年1月4日最後閱  
覧)

中国国家民族事務委員会「中国民族」中央政府サイト：

[http://www.gov.cn/test/2005-07/26/content\\_17366\\_2.htm](http://www.gov.cn/test/2005-07/26/content_17366_2.htm) (2022年1月4日最後  
閲覧)

「中国語言文字」中央政府サイト：

[http://www.gov.cn/test/2005-06/16/content\\_6821.htm](http://www.gov.cn/test/2005-06/16/content_6821.htm) (2022年1月4日最後閲覧)

「中国概況 国土・人口・民族」中華人民共和國駐大阪総領事館サイト：

<http://osaka.china-consulate.org/chn/zt/zggk/t536214.htm> (2022年1月4日最  
後閲覧)

「中華人民共和國憲法(1982)」全国人民代表大会サイト：

[http://www.npc.gov.cn/wxzl/wxzl/2000-12/06/content\\_4421.htm](http://www.npc.gov.cn/wxzl/wxzl/2000-12/06/content_4421.htm)

「中華人民共和國憲法(2018)」中央政府サイト：

[http://www.gov.cn/guoqing/2018-03/22/content\\_5276318.htm](http://www.gov.cn/guoqing/2018-03/22/content_5276318.htm)

「中華人民共和國国家通用語言文字法」中央政府サイト：

[http://www.moe.gov.cn/s78/A02/zfs\\_\\_left/s5911/moe\\_619/tnull\\_3131.html](http://www.moe.gov.cn/s78/A02/zfs__left/s5911/moe_619/tnull_3131.html)

the U.S. Central Intelligence Agency 「China:Ethnolinguistic Group」，

<https://maps.lib.utexas.edu/maps/china.html> (2021年12月24日最後閲覧)



## 付録 1 質問紙（中国語）

### 关于内地新疆班语言使用、语言意识与族际交往的调查问卷

亲爱的同学：你好！

我是京都大学 人间环境学研究科修士课程 2 年级学生。想要对于新疆班同学们的语言使用、语言意识和自己交往进行调查。

这是一份**匿名问卷**，你的回答将会被完全保密，仅供研究使用，请放心填写。

#### 填写说明：

所有**回答没有对错**之分，只要反映你的真实想法即可。

选择题 请选择最接近自己想法的选项，并将答案填写在括号内。如果有题目未列出符合你想法的选项，请选择“其他”，并将内容补充在横线上。

填空题 请将答案填写在横线上。

题目中的“语言”包括一切标准语和方言，如：法语、哈萨克语、汉语方言、维吾尔语方言等。

填写问卷共需要约 **30 分钟**。

#### 一、基础信息

1. 年级：\_\_\_\_\_

2. 性别：（ ） A. 男 B. 女

3. 民族：\_\_\_\_\_族

4-1. 家庭居住地属于：（ ） A. 南疆 B. 北疆

4-2. 家庭居住地属于：（ ） A. 城镇 B. 农村

4-3. 家庭居住的地区属于（ ）

A. 少数民族聚集区 B. 汉族聚集区 C. 少数民族和汉族混住区

5-1 你**小学时**所在的班级属于（ ）

A. 传统汉语班（汉语授课为主，加授民语课）

B. 传统双语班（民语授课为主，加授汉语课）

C. 民语普通班（全部用民语教学）

D. 民语实验班（部分学科用民语教学）

E. 汉语班（全部用汉语教学）

5-2. 你**初中时**所在的班级属于（选项同 5-1）（ ）

6. 你选择进入内高班的理由是（ ）（可多选）

A. 内地教育环境更好，老师的水平更高，有利于**学业进步**

B. 到更发达的地区学习生活，**开拓视野**，提高综合能力

C. 内地的语言环境有助于**提高普通话水平**

- D. 认为内高班的特殊升学制度，有利于升学
- E. 想体验内地不同的文化
- F. 想和内地的人相互了解，交朋友
- G. 接受更好的教育，以便学有所成，毕业后回到新疆，建设家乡
- H. 听从父母的安排，父母的理由是(请从上述选项中选择或补充): ( )
- I. 其他: \_\_\_\_\_

## 二、语言使用与语言学习

7. 你在最先掌握的语言是? ( )
- A. 维吾尔语 B. 普通话 C. 其他语言: \_\_\_\_\_

8. 请根据当前语言使用情况，在符合的空格内划✓(可多选)

主要使用语言		普通话		维吾尔语		英语		其他 1:		其他 2:	
		听	读	听	读	听	读	听	读	听	读
使用场景		说	写	说	写	说	写	说	写	说	写
家庭	来北京前与父母交流										
	来北京后与父母交流										
	来北京前与兄弟姐妹交流										
	来北京后与兄弟姐妹交流										
公共场所	在新疆的大型商场购物										
	在家(新疆)附近的街道										
	外出旅游(新疆以外地区)										
(北京)校园内	课堂上进行小组讨论										
	在宿舍										
	在清真食堂与同学交流										
	与本民族同学交流										
	与其他少数民族同学交流										
(北京)校园外	与本民族同学交流										
	与其他少数民族同学交流										
特定活动	读课外书(选择的语言)										
	观看网络、电视节目(选择的语言)										
	听音乐(选择的语言)										
	写日记										
	计算数字										

9. 家庭成员情况（“兄弟姐妹”项目请注明“哥哥”“妹妹”等；多于3名请自行添加填写）

	民族	职业	文化程度	掌握的语言(例:维吾尔语+普通话)
父亲				
母亲				
兄弟姐妹 1: _____				
兄弟姐妹 2: _____				
兄弟姐妹 3: _____				

### 三、语言态度

10. 请为下列各语言（方言）打分，程度从低到高对应1-5分。

	普通话	英语	维吾尔语	哈萨克语	蒙古语	柯尔克孜语	汉语方言	维吾尔语方言
有用性								
权威性								
对自己的重要性								
亲切度								

11. 你认为少数民族需要掌握**本民族语言**吗？（ ）

- A. 必须掌握 B. 应该掌握 C. 说不好 D. 不是必须掌握 E. 完全没必要掌握

→若选A/B，请回答：为什么少数民族需要掌握**本民族语言**？（最多选5项）

（ ）

- 本民族语言是**重要的交流工具**，有其他语言无法取代的表达方式和用途。
- 掌握本民族语言**有助于学习其他语言**，学好母语是学习其他语言的基础。
- 掌握本民族语言是一个人的**义务**，每个人都有责任学会本民族语言。
- 民族语言是民族的象征之一，**爱这个民族**就应该学会民族语言。
- 民族语言是**个人民族归属的标志**，是区别于其他民族的标志。
- 只有掌握本民族语言才能**了解、传承本民族的传统和历史**。
- 掌握、发展本民族语言才能**更好地发展这个民族**。
- 学习本民族语言有利于在**民族地区就业**。
- 其他：\_\_\_\_\_

→若选 C, 请说明理由: \_\_\_\_\_

→若选 D/E, 请回答: 为什么少数民族**没必要掌握本民族语言**? (可多选)  
( )

- a. 没条件学习或生活中**用不到的话**, 可以不用专门去学。
- b. 本民族语言只是众多语言中的一种, **没什么特殊的**, 不会也没什么。
- c. 其他: \_\_\_\_\_

12. 你认为少数民族需要掌握**普通话**吗? ( )

- A. 必须掌握 B. 应该掌握 C. 说不好 D. 不是必须掌握 E. 完全没必要掌握

→若选 A/B, 请回答: 为什么少数民族**需要掌握普通话**? (最多选 5 项)( )

- a. 普通话是国家通用语言文字, 是**重要的交流工具**。
- b. 掌握普通话**有助于学习其他语言**。
- c. 掌握国家通用语言文字是**国民的义务**, 每个人都有责任学习。
- d. 普通话是国家的象征之一, **爱这个国家**就应该学习。
- e. 国家通用语言是**一个人国家归属的标志**, 是区别中国和其他国家的标志。
- f. 掌握普通话有利于**了解、传承中华民族的传统和历史**。
- g. 掌握、推广普通话才能**更好地发展国家**。
- h. 掌握普通话有利于**在更广泛的区域就业**。
- i. 其他: \_\_\_\_\_

→若选 C, 请说明理由: \_\_\_\_\_

→若选 D/E, 请回答: 为什么少数民族**没必要掌握普通话**? (可多选) ( )

- a. 没条件学习或生活中**用不到的话**可以不用专门去学。
- b. 普通话只是众多语言中的一种, **没什么特殊的**, 不会也没什么。
- c. 其他: \_\_\_\_\_

13-1. 希望将来在什么样的语言环境中**学习**? (可多选) ( )

- A. 维吾尔语 B. 普通话 C. 英语或其他外国语

13-2. 希望将来在什么样的语言环境中**工作**? (选项同 15-1) ( )

13-3. 希望将来在什么样的语言环境中**生活**? (选项同 15-1) ( )

14. 将来想学习**或**进一步学习什么语言? 为什么?

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

#### 四、族际交往

15. 假设你某天进入一个房间，里边全部是陌生人，只知道每个人的民族，如果自由选座位，你更愿意和下列哪个民族的人坐在一起？（请按照先后顺序选择前5名，并填写理由（例如：亲切度、感兴趣、了解程度等）；若认为无法排序，则无需排序，直接填写理由）（                    ）

A. 壮族 B. 汉族 C. 哈萨克族 D. 维吾尔族 E. 土家族 F. 回族 G. 藏族 H. 蒙古族  
理由是：\_\_\_\_\_

16-1. 在最近两周和同学（包含内高班同学和内地同学）的交流中，与内高班同学的交流占（    ）

A. 80%以上 B. 60%-80% C. 40%-60% D. 20%-40% E. 20%以下

16-2. 在最近两周和同学（包含内高班同学和内地同学）的交流中，与本民族同学的交流占（选项同16-1）（    ）

17-1. 你认为自己现在和其他民族同学交往的深入程度（作为好朋友）怎么样？（    ）

A. 非常深 B. 比较深 C. 说不清楚 D. 比较浅 E. 非常浅

17-2. 你认为自己现在和内地同学交往的深入程度（作为好朋友）怎么样？（选项同17-1）（    ）

18. 对内地同学的印象如何？（    ）

A. 非常好 B. 比较好 C. 一般 D. 不太好 E. 非常不好 F. 与内地同学接触很少，无法判断

19. 你愿意和内地的同学多交流吗？（    ）

A. 非常愿意 B. 比较愿意 C. 说不好 D. 有点不愿意 E. 非常不愿意

→如果愿意（选择A/B），为什么？（可多选）（    ）

a. 可以了解内地的文化知识 b. 有助于学习普通话 c. 想与他们更亲近一些 d. 其他：\_\_\_\_\_

→如果选择“说不好”（选择C），理由是：\_\_\_\_\_

→如果不愿意（选择D/E），为什么？（可多选）（    ）

a. 文化、习惯不同 b. 语言沟通不方便 c. 有距离感，不是很亲近 d. 其他：\_\_\_\_\_

20. 你愿意和其他民族的同学混住吗？（    ）

A. 非常愿意 B. 比较愿意 C. 无所谓 D. 有点不愿意 E. 非常不愿意

→如果**愿意**（选择 A/B），为什么？（可多选）（     ）

- a. 有助于加强对不同民族的了解
- b. 有助于语言学习
- c. 有助于与其他民族同学更亲近，促进民族团结
- d. 其他：\_\_\_\_\_

→如果**不愿意**（选择 D/E），为什么？（可多选）（     ）

- a. 文化、习惯不同
- b. 语言沟通不方便
- c. 有距离感，不是很亲近
- d. 其他：\_\_\_\_\_

21.（仅少数民族同学作答）如果可以自由选择，你愿意和**汉族同学合班**（一起上课、活动）吗？（     ）

- A. 非常愿意
- B. 比较愿意
- C. 无所谓
- D. 有点不愿意
- E. 非常不愿意

→如果**愿意**（选择 A/B），为什么？（最多选 5 项）（     ）

- a. 可以更了解汉族的文化（对不同的文化感兴趣）；
- b. 有利于学习普通话；
- c. 可以增加与汉族同学的交流机会，有利于民族团结；
- d. 可以传播少数民族文化和语言；
- e. 能增长见识，有利于自身成长；
- f. 能增强适应能力，有助于将来的工作；
- g. 可以提高上课进度；
- h. 对汉族同学印象很好，想与他们交朋友；
- i. 能合班证明学习成绩好，可以提升信心；
- j. 其他：\_\_\_\_\_

→如果**不愿意**（选择 D/E），为什么？（最多选 5 项）（     ）

- a. 内地同学基础很好，一起学习压力太大；
- b. 上课进度跟不上或上课方式不适应；
- c. 文化、习惯不同，难以适应；
- d. 语言沟通不方便；
- e. 不利于民族语言的学习和保持；
- f. 与汉族同学有距离感，不是很亲近；
- g. 班里少数民族的同学少，会比较孤单；
- h. 其他：\_\_\_\_\_

**问卷调查到此结束。**

**请看看是否有填错、填漏的地方。**

**感谢你的协助！**

## 付録 2 質問紙（日本語）

### 内地新疆クラスにおける言語使用・言語意識と 民族間コミュニケーションに関する調査のお願い

学生の皆さん、こんにちは！

京都大学人間・環境学研究所修士課程2年の者です。

新疆クラスの皆さんの言語使用・言語意識、民族間コミュニケーション状況について、調査しております。

調査は**無記名**です。回答の内容が、研究以外の目的に使用されることや、外部に流出されることはありません。

どうぞありのままを率直にお答えいただきますよう、お願いいたします。

#### 記入説明：

正解・不正解はありませんので、本当の考えを反映するよう、お答えください。

**選択問題**：選択肢の中から、最も自分の考えに近いものを選択してください。

「その他」を選択する場合は、下線部のところに内容を補充してください。

**穴埋め問題**：空欄に記入してください。

本調査における「言語」は、すべての標準語や方言を指しており、例えば、フランス語、カザフ語、漢語方言、ウイグル語方言などです。

アンケートの回答にかかる時間は約30分です。

#### 一、基本情報

1. 学年：\_\_\_\_\_

2. 性別：（ ） A. 男 B. 女

3. 民族：\_\_\_\_\_族

4-1. 家族の居住地：（ ） A. 新疆ウイグル自治区南部 B. 新疆ウイグル自治区北部

4-2. 家族の居住地：（ ） A. 都市 B. 農村

4-3. 新疆で住んでいる地域は（ ） A. 少数民族集住地域 B. 漢族集住地域 C. 少数民族と漢族の混合居住地域

5-1. 小学校時代のクラスは（**選択肢は以下同様**）（ ）

A. 伝統的な漢語クラス（普通話で教科を教え、民族語を一つの科目とする）

B. 伝統的な双語クラス（民族語で教科を教え、普通話を一科目とする）

C. 民族語普通クラス（すべて民族語で教える）

D. 民族語実験クラス（一部の科目は民族語で教え、一部の科目は普通話で教える）

E. 漢語クラス（すべて普通話で教える）

5-2. 中学校時代のクラスは（ ）

6. 内地新疆クラスに入学した理由は（複数選択可）（ ）

A. 内地の教育環境が良く、教員の質が高いことが、学業を進めるにおいて有利であるため。

B. より発展した地域で勉強して生活することで、視野を広げ、総合的な能力を向上させたいため。

C. 内地の言語環境は普通話の向上に役立つため。

D. 特別な進学制度が進学に有利であるため。

E. 内地で異なる文化を体験したいため。

F. 内地の人々と交流し、友達になりたいため。

G. よりよい教育を受け、新疆に戻り故郷を発展させたいため。

H. 両親の希望があったため。両親の理由は：\_\_\_\_\_

I. その他：\_\_\_\_\_

7. あなたの最初に身につける言語は何語ですか？（ ）

A. ウイグル語    B. 普通話    C. その他：\_\_\_\_\_



## 二、言語使用と言語学習

8. 現在の言語使用に即して、一致する箇所に✓でマークしてください（複数選択可）

主な使用言語		普通話		ウイグル語		英語		その他 1 :		その他 2 :	
		聞 く ・ 話 す	読 む ・ 書 く	聞 く ・ 話 す	読 む ・ 書 く	聞 く ・ 話 す	読 む ・ 書 く	聞 く ・ 話 す	読 む ・ 書 く	聞 く ・ 話 す	読 む ・ 書 く
家庭	北京に来る前、両親と話す										
	北京に来てから、両親と話す										
	北京に来る前、兄弟と話す										
	北京に来てから、兄弟と話す										
公共 の場	新疆のショッピングモール										
	自宅（新疆）の近くの街										
	旅行（新疆以外の地域で）										
（北 京） キャ ンパ ス内	授業中のグループディスカッション										
	学生寮										
	ハラル食堂でクラスメートと話す										
	同じ民族のクラスメートと話す										
	他の少数民族のクラスメートと話す										
（北 京） キャ ンパ ス外	同じ民族のクラスメートと話す										
	他の少数民族のクラスメートと話す										
特定 の活 動	一般書を読む（教科書以外）（言語選択）										
	インターネットやテレビ番組を見る（言語選択）										
	音楽を聴く（言語選択）										
	日記を書く										
	数字を計算する										

9. 家族の情報についてお答えください。（「兄弟姉妹」の項目については、実際の間柄を「兄」、「姉」などとして記入してください。3人以上いる場合は、追加して記入してください）

	民族	職業	学歴	使用言語 (例：ウイグル語 + 普通話)
父親				
母親				
兄弟 1: _____				
兄弟 2: _____				
兄弟 3: _____				

### 三、言語意識

10. 新疆における各言語（方言）に対する評価として、下記の言語に1～5点で点数を付けてください。

	普通話	英語	ウイグル語	カザフ語	モンゴル語	キルギス語	漢語方言	ウイグル語方言
有用性								
威信性								
個人にとっての大切さ								
親しみ								

11. 少数民族が自民族言語を身につけることの必要性についてどう思いますか？

( )

- A. とても必要である
- B. 必要である
- C. どちらともいえない

- D. 必要でない
- E. 全く必要でない

→A / Bを選択した場合、その理由は何ですか？最も近いものを選択してください  
(最大5項目選択) ( )

- a. 自民族語は重要なコミュニケーション道具であり、他の言語では置き換えられない表現や用途がある。
- b. 自民族語の習得は他の言語の習得に役立ち、母語を上手に学ぶことは他の言語学習の基礎である。
- c. 自民族語を学ぶことは人の義務で、学習する責任を有する。
- d. 民族語は民族の象徴の1つである。民族を愛するなら、民族語を学ぶ必要がある。
- e. 民族語は、人の民族への帰属のしるしであり、特定の民族を他の民族と区別するものである。
- f. 民族語の習得によってのみ、民族の伝統と歴史を理解し、継承することができる。
- g. 民族語を習得・発展させることによってのみ、民族をより良く発展させることができる。
- h. 自民族語の習得は、民族地域での就職に役立つ。
- I. その他：\_\_\_\_\_

→Cを選択した場合、その理由を説明してください：\_\_\_\_\_

→D / Eを選択した場合、その理由は何ですか？(複数選択可) ( )

- a. 学習機会または使用機会がない場合、わざわざ学ぶ必要はない。
- b. 自民族言語は多数の言語のひとつに過ぎず、特別なものではないし、学ばなくてもいい。
- c. その他：\_\_\_\_\_

12. 少数民族が**普通話**を身につけることの必要性についてどう思いますか？ ( )

- A. とても必要である
- B. 必要である
- C. どちらともいえない
- D. 必要でない
- E. 全く必要でない

→A / Bを選択した場合、その理由は何ですか？最も近いものを選択してください(最大5項目選択) ( )

- a. 普通話は国家共通の言語・文字で、重要なコミュニケーション道具である。
- b. 普通話を身につけることは、他の言語習得に役立つ。
- c. 普通話を学ぶことは、国民の義務で、学習する責任を有する。

- d. 普通話は国の象徴の1つである。国を愛するなら、普通話を学ぶ必要がある。
- e. 国の共通語は、人の国家への帰属のしるしであり、中国を他国と区別するものである。
- f. 普通話を身につけることによつてのみ、中華民族の伝統と歴史を理解し、継承することができる。
- g. 普通話を習得・発展させることによつてのみ、国をより良く発展させることができる。
- h. 普通話を身につけることは、より広い地域での就職に役立つ。

その他： \_\_\_\_\_

→Cを選択した場合、その理由を説明してください： \_\_\_\_\_

→D / Eを選択した場合、その理由は何ですか？ ( )

- a. 学習機会または使用機会がない場合、わざわざ学ぶ必要はない。
- b. 普通話は多数の言語の1つに過ぎず、特別なものではないし、学ばなくてもいい。
- c. その他： \_\_\_\_\_

13-1. 将来、どのような言語環境で勉強したいですか？（複数選択可、選択肢は以下同様） ( )

A. ウイグル語 B. 普通話 C. 英語またはその他の外国語

13-2. 将来、どのような言語環境で働きたいですか？ ( )

13-3. 将来、どのような言語環境で生活したいですか？ ( )

14. 将来、どの言語を（もっと）勉強したいと思いますか。その理由は何ですか。

---



---

#### 四、民族間コミュニケーション

15. ある日、あなたが見知らぬ人しかいない部屋に入ったと仮定しましょう。分かるのは、それぞれの人がどの民族の人であるかのみです。もし自由に席を選ぶとしたら、どの民族と一緒に座りたいですか？（次の民族で優先順に5つ挙げ、理由を書いてください〈例：親しみやすさ、興味がある、理解度など〉；順番をつけないと考えた方は、順番に並べずに、順番をつけないと考えた理由を直接書いてください）

理由： \_\_\_\_\_

A. チワン族 B. 漢族 C. カザフ族 D. ウイグル族 E. 土家族 F. 回族 G. 蔵族 H. モンゴル族

16-1. 最近の2週間以内、クラスメート（内地と新疆）との交流の中で、新疆クラス

の人との交流の割合はどうか？（選択肢は以下同様）（ ）

- A. 80%以上 B. 60%-80% C. 40%-60% D. 20%-40% E. 20%未満

16-2. 最近の2週間以内、クラスメート（内地と新疆）との交流の中で、自民族の人との交流の割合はどうか？（ ）

17-1. 今、新疆クラスの他民族のクラスメートとの付き合いの深さについて、どう思いますか？（選択肢は以下同様）（ ）

- A. 非常に深い B. やや深い C. どちらでもない D. やや浅い E. 非常に浅い

17-2. 今、内地のクラスメートとの付き合いの深さについて、どう思いますか？（ ）

18. 内地のクラスメートへの印象はどうか。

- A. 非常に良い B. やや良い C. 普通 D. あまり良くない E. 非常に悪い  
F. 内地の学生との接触が少ないので、判断できない

19. 内地のクラスメートと交流したいですか？（ ）

- A. とてもそうしたい  
B. そうしたい  
C. どちらともいえない  
D. あまりそうしたくない  
E. まったくそうしたくない

→A/Bを選択した場合：なぜ交流したいですか？（ ）

a. 内地の文化知識を知ることができるため b. 普通話学習に役立つため c. 彼らとより親しくなりたいため d. その他：\_\_\_\_\_

→Cを選択した場合、その理由：\_\_\_\_\_

→D/Eを選択した場合：なぜ交流したくないですか？（ ）

a. 文化や習慣が異なる b. 言語上の不便がある c. 距離感ある、あまり親しくない

d. その他：\_\_\_\_\_

20. 他の民族のクラスメートと同じ部屋に住みたいですか？（ ）

- A. とてもそうしたい  
B. そうしたい  
C. そうしてもよい  
D. あまりそうしたくない  
E. まったくそうしたくない

→A/B を選択した場合:なぜ他民族と住みたいですか? (複数選択可) ( )

- a. 異なる民族についてより深く知ることができるため
- b. 言語学習に有利であるため
- c. 他民族のクラスメートと親しくなり、民族団結に役立つため
- d. その他: \_\_\_\_\_

→D/E を選択した場合:なぜ他民族と住みたくないですか? (複数選択可) ( )

- a. 文化や習慣が異なる
- b. 言語上の不便さがある
- c. 距離感ある、あまり親しくない
- d. その他: \_\_\_\_\_

21. (少数民族だけ教えてください) 自由に選択できれば、漢族の生徒と同じクラスで授業を受けたり課外活動をしったりしたいと思いますか? ( )

- A. とてもそうしたい
- B. そうしたい
- C. そうしてもよい
- D. あまりそうしたくない
- E. まったくそうしたくない

→A/B を選択した場合:なぜ漢族の生徒と同じクラスで勉強したいのですか? (最大5つ選択可) ( )

- a. 漢文化についてより深く知ることができるため;
- b. 普通話学習に役立つため;
- c. 漢族の学生との交流機会が増え、民族団結を促進できるため;
- d. 少数民族の文化と言語を広めるため;
- e. 知識を増やし、自身の成長に役立つため;
- f. 適応性を高め、将来の就職に役立つため;
- g. 授業の進行が速いため;
- h. 漢族の学生の印象が良い、友達になりたいため;
- i. 優れた学業成績の証明で、自信を持てるようになるため;
- J. その他: \_\_\_\_\_

→D/E を選択した場合:なぜ生徒同じクラスで勉強したくないですか? (最大5つ選択可) ( )

- a. 漢族学生の基礎学力が優れており、一緒に勉強するとプレッシャーが大きすぎるため;
- b. 授業の進行に追いつけない、授業方法に適応できないため;
- c. 文化や習慣が異なり、適応できないため;
- d. 言語の違いでコミュニケーションに不便があるため;

- e. 民族言語の学習と維持に不利であるため;
- f. 漢族との距離感があり、あまり親しくないため;
- g. クラスに少数民族の学生が少ないと、孤独を感じるため;
- h. その他 : \_\_\_\_\_

以上で調査は終了です。

回答欄に記入漏れがないか、もう一度、ご確認ください。

調査にご協力いただき、ありがとうございました。

### 付録 3 言語能力評価表 (中国語)

请从以下 5 个方面来评估你对各语言的掌握程度 (在相应位置划✓)

能力描述		普通话	维吾尔语	英语	其他 1:	其他 2:
听力	0 完全听不懂					
	A1 当人们 <b>缓慢而清晰</b> 地说话时,我可以认出与自己、家庭和周边具体环境有关的 <b>熟悉单词和非常基础的短语</b> 。					
	A2 能理解和自己密切相关的 <b>短语和高频词汇</b> (如:基本个人信息、购物、周边环境)。可以理解表述清晰而简短的 <b>便条或公告中的要点</b> 。					
	B1 如果谈论的是学校里或休闲时遇到的 <b>熟悉话题</b> ,且说话清晰、标准,我能听懂要点。当 <b>广播电视节目</b> 发音比较 <b>缓慢而清晰</b> 时,我能听懂自己 <b>感兴趣的话题和时事</b> 以及该节目的 <b>要点</b> 。					
	B2 可以理解关于 <b>熟悉话题</b> 的 <b>长篇演讲</b> ,即使论证比较复杂。能理解 <b>大多数的新闻节目和发音标准的电影</b> 。					
	C1 可以理解 <b>长篇大论</b> ,即使它没有清晰的结构,上下文衔接也很含蓄。我 <b>不用太费力就能理解电视节目和电影</b> 。					
	C2 不难理解生活中或是广播中的任何类型的 <b>口语表达</b> ,即使 <b>语速很快</b> ,需要我花一些时间熟悉口音。					
阅读	0 完全读不懂					
	A1 可以理解通知、海报或目录中 <b>熟悉的名字、单词和简单句子</b> 。					
	A2 能阅读简短的文本。可以在诸如广告、简介、菜单和时间表等 <b>简单的日常材料</b> 中找出 <b>可预知的特定信息</b> 。可以读懂 <b>简短的个人信件</b> 。					
	B1 我能理解那些主要由日常生活或学习中的 <b>高频词汇</b> 构成的 <b>文本</b> 。能理解 <b>个人信件</b> 中对事件、感受和愿望的描述。					
	B2 可以阅读 <b>当代文学散文和有关当代问题的文章和报告</b> ,理解作者的态度或观点。					
	C1 能理解 <b>长而复杂的写实性或文学性文章</b> ,赏析不同的写作风格。可以理解 <b>专业论文和较长的技术说明书</b> ,即使内容与我的专业无关。					
	C2 可以 <b>轻松地阅读几乎所有形式的文章</b> ,包括抽象的、结构或语言复杂的文本,如 <b>专业性操作手册、专业论文和文学作品</b> 。					



口 语 会 话	0 完全无法进行会话					
	A1 如果他人能协助我表达，我可以用较慢的语速进行简单交流。我可以提出或回答熟悉领域的简单问题。					
	A2 我可以就简单而熟悉的主题进行信息交流。我可以处理非常短暂的社交交流，但无法完全听懂以至于无法推动对话持续。					
	B1 在目的语地区旅游时，可以用所学语言应对大部分情况。可以在毫无准备的情况下谈论熟悉的或与日常生活相关的话题（家庭、爱好、工作、旅行和时事）。					
	B2 可以比较流畅和主动地与母语者交谈。我可以在熟悉的环境中积极参与讨论，发表并捍卫我的观点。					
	C1 可以流利而自如地表达自己，不需要专门寻找单词。社交和上课发言时我可以灵活有效地运用语言，准确地表达想法和意见，并巧妙接续谈话者的话题。					
	C2 可以轻松参与任何会话或讨论，并且非常熟悉惯用语和口语。可以流利并准确地传达语义的细微差别。如果说错了什么也可以灵活补救，以至于他人几乎无法察觉。					
口 语 表 达	0 完全无法进行口语阐述					
	A1 用简单的短语和句子描述我住的地方和我认识的人。					
	A2 我可以一系列短语和句子来简单地描述我的家人和生活状况，自己曾经或最近的学习情况。					
	B1 可以简述经历、事件、我的理想。我可以阐述观点和计划并说明理由。可以讲述一个故事，串联书或电影的情节，并发表看法。					
	B2 我可以对感兴趣的领域进行清晰、详细的阐述。可以就某个热门话题阐述观点，陈述各种可能性的利弊。					
	C1 可以对复杂的主题进行清晰、详细的描述，拓展观点并以做出适当总结。					
C2 能做出清晰、流畅的描述或讨论，顺应文脉且拥有逻辑，以帮助听者注意和记住要点。						
写 作	0 完全不会写					
	A1 可以写简短的明信片，例如发送节日问候。可以填写个人信息的表格（姓名、国籍和地址）。					
	A2 可以写简短的留言和便条，可以写非常简单的私人信件，例如感谢某人某事。					
	B1 可以就熟悉或感兴趣的主题写出简单文章。可以写私人信件，描述自己的经历和感受。					
	B2 可以就感兴趣的话题写出清晰、详细的文本。可以写一篇文章或报告，传递信息或给出理由以支持或反对某个观点。能写出强调事件和经历的意义信件。					
	C1 可以用清晰、结构良好的文章来详细地阐述自己的观点。可以在信件、文章或报告中谈论复杂的主题强调重点问题。我可以根据读者不同采用相应的写作风格。					
	C2 可以写出清晰、流畅、文风相宜的文章。我可以写复杂的信件、报告或文章，具有清晰的逻辑结构，能帮助读者注意和记住要点。我可以对专业著作或文学作品进行综述和评论。					